

平成 30（2018）年度

「授業評価アンケート」報告書

令和元（2019）年 9 月

学習院大学

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

はじめに

学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長

眞野 泰

本報告書は、平成 30（2018）年度実施の「学生による授業評価アンケート」の集計結果とその分析を取りまとめたものである。

本学では、授業改善の一助として「学生による授業評価アンケート」を年 2 回実施しており、平成 30 年度はこのアンケートを全学的に実施するようになって 13 年目を迎えた。近年は、このアンケートが学内に定着し、教職員と学生の協力のもと、円滑な実施ができている。

「学生による授業評価アンケート」の個別データは慎重に取り扱い、授業改善に役立てていただけるよう、各授業科目の担当教員にフィードバックしている。

さらに、このアンケートの結果を活用し、教育の改善に向けて、全学的に次のような取り組みを行っている。

第一に、平成 22（2010）年度より、このアンケートの結果を受けて、各部門がどのような授業改善を行ったのか、具体的な取り組み・工夫の例を集め、『授業評価アンケート』報告書の第 4 章「授業への取り組み例」に掲載している。これにより、個々の教員の創意工夫を大学全体で共有する。

第二に、同じく平成 22 年度より、各部門においてこのアンケートの結果を活用し、意見交換を行う機会を設けるため、FD をテーマにする懇談会を毎年開催している。

第三に、平成 27（2015）年度より、毎年度の第 1 学期中に、学生によって高く評価された授業を学内の教職員が見学・聴講する「授業見学・聴講」と、その授業の担当教員による授業方法や授業改善のための創意工夫についての講演及び参加者による意見交換からなる「FD 研究会」を実施している。これにより、教職員が良い授業とは何かについて議論し合い、授業方法や創意工夫についての情報を共有する場を作ることができた。

今後は、「学生による授業評価アンケート」に自由記述欄を設けることや、アンケートの結果を学生に公開することなど、アンケートのあり方についても見直す必要があるだろう。また、「学生による授業評価アンケート」のことだけでなく、教員が様々な形、様々な次元で FD に関わることのできる制度の整備、環境の醸成を目指し、本学の FD 活動の見直しを続けていきたい。

令和元（2019）年 9 月

目 次

はじめに

第1章 授業評価アンケート実施の概要	1
I. 実施の経緯	2
II. 実施の方法	3
III. 実施にかかる全体的な状況、速報版（再掲）	6
IV. 今後の授業評価、FD活動に向けて	17
第2章 平成30年度の概観	18
第3章 各部門の分析・評価	23
I. 法学部	25
II. 経済学部	36
III. 文学部	45
IV. 理学部	52
V. 国際社会科学部	59
VI. 計算機センター	70
VII. 外国語教育研究センター	75
VIII. スポーツ・健康科学センター	84
IX. 基礎教養科目運営委員会	91
X. 教職課程	99
XI. 学芸員課程委員会	104
第4章 授業への取り組み例	109
第5章 資料集（質問項目別基礎データクロス表）	142
ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員一覧	178

第1章

授業評価アンケート実施の概要

I. 実施の経緯

ファカルティ・ディベロップメント（以下FD）が本学において意識されるようになったのは、平成 15（2003）年 8 月の各学部・センターの有志の教員 14 名からなる「FD 勉強会」の組織からである。そこでは、FD の定義についての確認、FD に関する他大学の状況説明等があり、これらにつき意見交換がなされた。また、学部・学科、センターにおける FD への取り組み状況や、経済学部、法学部・法学科、スポーツ健康科学センター及び外国語教育研究センターが実施（あるいは予定）していた、授業評価アンケートについての報告がなされた。

その後「FD 勉強会」は「FD 研究プロジェクト」と名称を変え、FD をめぐる様々な事項について意見交換がなされ、とりわけ授業評価アンケートや FD を推進していくための組織について討議された。その結果、「ファカルティ・ディベロップメント準備委員会」を経て、学長補佐を委員長とする「学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会」（以下、「FD 推進委員会」）が発足、平成 16（2004）年 7 月、第 1 回の委員会が開催された。

委員会規程によれば、本学における FD とは「授業に関する技量及び教育効果を高めるための組織的かつ継続的な取り組みを行うこと等を通して教育の内容及び方法の改善を図ること」であるとされた。委員会では、そのために取り組むべき活動として、全学的な「学生による授業評価アンケート」の実施を最優先に議論することとなった。授業評価の主たる目的は個々の授業の改善にあるが、同時に様々な FD 活動に活かすための基礎的な情報収集という意味を持ち、また学生や社会に対する説明責任を果たすための活動としても位置付けられるためである。

その後、FD 推進委員会において、「授業評価アンケートの実施に関するガイドライン」および「学習院個人情報保護規程」の趣旨をふまえた「授業評価アンケートにおける個人情報の取扱いに関するガイドライン」が纏められた。これらのガイドラインにもとづき、平成 18（2006）年度、全学的な「学生による授業評価アンケート」が初めて実施された。

以降、「学生による授業評価アンケート」は、本学における FD 活動の基礎として、改善を加えながら毎年度実施されている。

II. 実施の方法

第1学期は7月、第2学期は12月の所定の期間中（各2週間）に、無記名のマークシート式アンケートにより実施した。実施にあたっては、学生センター教務課に実施本部を設置し、各教員は授業前に実施本部でアンケート票一式を受け取り、授業内にてアンケート実施後、回収用の封筒に封入された実施済みアンケート票その他を実施本部に返却することとなっている。

アンケート実施対象科目は以下のとおりであり、学部学生が履修することのできるほぼすべての科目が該当する。

第1学期：第1学期科目及び通年科目のうち学期単位で担当者が変わる科目

第2学期：第2学期科目及び通年科目

- 注1. 集中講義については、通常の期間ではなく開講期間中に実施。
2. 大学院・専門職大学院の科目は対象外だが、学部・大学院共通の科目は実施。
3. 総履修者数のうち本学学部生が5名以下の科目は対象外。
4. 回答者数が5名以下の科目は、集計結果の担当教員へのフィードバックを行わず、また、各種集計データに含めない。

なお、集計結果の分析に資するため、アンケート実施上の授業形態として、授業科目を「講義」「演習」「語学」に分類した。それぞれの開設部門の持つ授業形態は下表のとおりである。

部門	形態		
法学部	講義	演習	
経済学部	講義	演習	
文学部	講義	演習	
理学部	講義	演習	
国際社会科学部	講義	演習	語学
計算機センター	講義		
外国語教育研究センター	語学		
スポーツ・健康科学センター	演習		
基礎教養科目運営委員会	講義	演習	
教職課程	講義	演習	
学芸員課程委員会	講義	演習	

質問項目は、原則として5段階の評価方式とし、学生全員が回答すべき基本的な項目をアンケート票の表面に、授業形態等によって追加的な項目を裏面に配した。

実際に使用されたアンケート票のイメージを以下に掲載する。



平成30(2018)年度 学習院大学 授業評価アンケート

このアンケートは、学習院大学の授業を改善し、さらに充実させることを目的に行われます。
回答の内容があなたの成績評価に影響することは一切ありません。率直かつ責任を持った回答をお願いします。 学習院大学

1 この授業の「時間割コード」「授業形態」とあなたの所属する「学科コード」「学年」「性別」を記入・マークしてください。

【注意事項】

良いマーク

悪いマーク



時間割コード					
	①	①	①	①	①
①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨

授業形態
講義 ①
演習 ②
語学 ③

学科コード		
①	①	①
②	②	②
③	③	③
④	④	④
⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧
A	A	A
B	B	B
C	C	C
D	D	D

学年	
	年
①	
②	
③	
④	
性別	
男 ①	
女 ②	

- ・必要事項を記入の上、マーク欄に正しくマークしてください。
- ・記入・マークには、必ず鉛筆・シャープペンシルを使用してください。
- ・誤りは消しゴムで完全に消してください。
- ・指定以外のところには書き込まないでください。
- ・記入ミス・マークミスがあった場合、その回答は無効となります。
- ・このアンケート用紙を折り曲げたり汚したりしないでください。
- ・所属する「学科コード」とは、本学が付与している学籍番号 □□-□□□-□□□ にある □ の3桁の数字です。
(例) 17-011-999の場合「011」
17-095-999の場合「095」
- ・本学の学籍番号が付与されていない学生(f-Campus生・大学院交流学生)は、学科コードを「000」、学年を「0」と記入・マークしてください。

2 以下の質問項目について、回答を回答欄にマークしてください。

【回答の基準】 5:強くそう思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

● 1～12は「全員」回答してください。

	回答欄				
	⑤	④	③	②	①
1 私のこの授業への出席率は ⑤: 90%以上 ④: (90%未満)80%以上 ③: (80%未満)70%以上 ②: (70%未満)50%以上 ①: 50%未満					
2 私はこの授業に意欲的に取り組んでいる(事前の準備や復習等を含む)					
3 私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間(予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で ⑤: 3時間以上 ④: 2時間以上3時間未満 ③: 1時間以上2時間未満 ②: 30分以上1時間未満 ①: 30分未満					
4 この授業のレベルは適切である					
4-2 「① 全くそう思わない」「② あまりそう思わない」を選んだ人は、授業のレベルについて、どのように感じましたか ⑤: 難しすぎる ④: 易しすぎる					
5 この授業を進める速さは適切である					
5-2 「① 全くそう思わない」「② あまりそう思わない」を選んだ人は、授業を進める速さについて、どのように感じましたか ⑤: 速すぎる ④: 遅すぎる					
6 教員は熱意を持って授業を行っている					
7 教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している					
8 教員は理解しやすい授業を行っている					
9 教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である					
9-2 「① 全くそう思わない」「② あまりそう思わない」を選んだ人は、教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)について、どのように感じましたか ⑤: 速すぎる ④: 遅すぎる ③: その他/聞き取りにくい					
10 この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした					
11 この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人は「0」をマークしてください)					①
12 総合的に見てこの授業は高く評価できる					

2 つき 以下の質問項目について、回答を回答欄にマークしてください。

【回答の基準】

5:強く思う 4:そう思う 3:どちらとも言えない 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

● 13・14 は「授業形態」が「講義」「語学」の科目の場合のみ回答してください。

13 板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である

回答欄				
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

14 教材（教科書、配付資料等）の内容は適切である

● 15・16 は「授業形態」が「演習」「語学」の科目の場合のみ回答してください。

15 教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

16 教員は参加者が課題に取り組むのを助けた

● 17・18 は「授業形態」が「語学」の科目の場合のみ回答してください。

17 1回1回の授業のねらいが明確である

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

18 教員は授業時間を有効に活用している

● 19・20 は「開設部門」が「基礎教養科目運営委員会」の科目の場合のみ回答してください。

19 授業は全学共通の総合基礎科目としてふさわしいものだった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

20 授業の内容や構成は全体としてまとまりのあるものだった（複数講師による授業の場合のみ回答）

● 21～28 は「開設部門」が「スポーツ・健康科学センター」の科目の場合のみ回答してください。

21 運動量は ⑤:十分であった ④:おおむね十分であった ③:どちらとも言えない ②:やや不足していた ①:不十分であった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

22 体力・健康状態が改善された

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

23 運動技術が向上した

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

24 履修したスポーツ種目等について新しい知識が得られた

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

25 身体や運動に対する関心が高まった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

26 自分の身体の健康、体力の再確認ができた

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

27 自分の生活習慣を見直す機会となった

28 施設・用具も含め授業の準備は十分なされていた

● 29・30 は教員の指示があった場合のみ回答してください。

29 (教員の板書のとおり回答してください)

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

30 (教員の板書のとおり回答してください)

ご協力ありがとうございました。

Ⅲ. 実施にかかる全体的な状況、速報版（再掲）

上述の通り、授業評価アンケートは、総履修者数5名以下という例外を除けば、学部生が履修可能なほぼ全科目を対象科目として行われたことになる。平成30年度は、対象科目数2,424、実施科目数2,327、実施率96.00%となった。学生の回答率（＝回答者数／総履修者数）は60.01%であった。

また、平成30年度は、アンケート票の質問項目を一部改訂し、旧「Q21」「Q22」（経済学部・経営学科開設科目のみ回答）を削除するとともに、新「Q29」「Q30」（授業担当者の任意項目。前頁参照）を追加した。従来から、所定の項目だけでなく個別のニーズに合わせた質問をしたいという要望が一定程度寄せられていたためである。

平成31（2019）年3月、授業担当者へのフィードバックとして、個々の科目についての集計結果を各教員に送付した。同年5月には報告書（速報版）をWebページ上に公開し、開設部門別・授業形態別に、各項目（主な12項目＋ α ）に対する回答の平均値・標準偏差の表、及びそれらをグラフ化した「質問項目別単純集計表」を掲載した。また、「実施概要」及び「授業満足度による集計結果」もあわせて公開した。

本報告書では、報告書（速報版）で公開した上記のデータに加え、各項目を部門別・形態別・学年別・総履修者数別に集計した「基礎データクロス表」、各項目の相関係数を部門別・形態別に纏めた「相関係数表」、及び各項目の平均値の経年変化（5年間）を部門別・形態別に纏めた「経年変化比較表」を作成している。さらに、「授業への取り組み例」も、情報を追加・更新する形で引き続き作成している。

「質問項目別単純集計表」「相関係数表」及び「経年変化比較表」は第3章の各部門の頁末に、「授業への取り組み例」は第4章に、「基礎データクロス表」は第5章に掲載する。

以下に、Webページ上に公開した報告書（速報版）の内容を再掲する。

1. 実施概要

平成 30 年度のアンケートは、第 1 学期は 7 月 2 日から 7 月 14 日まで、第 2 学期は 12 月 5 日から 12 月 18 日までのそれぞれ 2 週間に、学部生が履修することのできる科目を対象として行われた。

部門別・形態別の実施率・回答率を示したものが**図表 1**である。

平成 30 年度は、対象科目数 2,424 に対して、実施科目数 2,327、実施率は 96.00%となり、二年度ぶりに 90%台後半を取り戻した（前年度比+1.60%）。

一方、集計対象科目における学生の回答率（=集計対象科目の回答者数／集計対象科目の総履修者数）は 60.01%と、実施以来初めて 60%を超えた平成 29 年度とほぼ同様の水準となった（前年度比-0.01%）。これについては、回答者の種類を示した**図表 2**のとおり、学部生に限って見た場合、1 年生の回答者数が最も多く、学年が進むにしたがって回答者数が減少していく傾向にあることから、国際社会科学部の開設から二年度目、三年度目に当たる平成 29 年度・平成 30 年度の回答率が高くなったものと考えられる。

部門別・形態別の実施率・回答率を以下の**図表 1**に示す。

図表1 アンケート実施率及び集計対象科目の回答率

部門別	計セ	講義	実施率			集計対象科目数	集計対象外科目数	回答率		
			対象科目数	実施科目数	実施率			集計対象科目履修者数	集計対象科目回答者数	回答率
計セ	講義	95	95	100.00%	92	3	4,696	3,672	78.19%	
	合計	95	95	100.00%	92	3	4,696	3,672	78.19%	
外セ	語学	508	503	99.02%	483	20	11,778	9,898	84.04%	
	合計	508	503	99.02%	483	20	11,778	9,898	84.04%	
スポ健	演習	110	108	98.18%	99	9	2,044	1,631	79.79%	
	合計	110	108	98.18%	99	9	2,044	1,631	79.79%	
基礎教養	講義	101	95	94.06%	94	1	10,532	6,005	57.02%	
	演習	1	0	0.00%	0	0	0	0	-	
	合計	102	95	93.14%	94	1	10,532	6,005	57.02%	
法学部	講義	147	142	96.60%	138	4	21,566	8,882	41.19%	
	演習	116	110	94.83%	102	8	2,018	1,627	80.62%	
	合計	263	252	95.82%	240	12	23,584	10,509	44.56%	
経済学部	講義	135	126	93.33%	121	5	21,498	8,391	39.03%	
	演習	116	108	93.10%	104	4	1,833	1,595	87.02%	
	合計	251	234	93.23%	225	9	23,331	9,986	42.80%	
文学部	講義	235	224	95.32%	214	10	12,121	8,775	72.40%	
	演習	326	308	94.48%	298	10	6,864	5,817	84.75%	
	合計	561	532	94.83%	512	20	18,985	14,592	76.86%	
理学部	講義	137	128	93.43%	124	4	6,657	4,233	63.59%	
	演習	33	27	81.82%	26	1	1,246	1,049	84.19%	
	合計	170	155	91.18%	150	5	7,903	5,282	66.84%	
国際社会科学部	講義	70	69	98.57%	69	0	9,008	4,051	44.97%	
	演習	45	44	97.78%	43	1	731	613	83.86%	
	語学	138	137	99.28%	132	5	2,839	2,366	83.34%	
	合計	253	250	98.81%	244	6	12,578	7,030	55.89%	
教職課程	講義	34	33	97.06%	32	1	1,516	1,167	76.98%	
	演習	47	40	85.11%	39	1	1,268	984	77.60%	
	合計	81	73	90.12%	71	2	2,784	2,151	77.26%	
学芸員	講義	20	20	100.00%	20	0	731	604	82.63%	
	演習	10	10	100.00%	10	0	101	84	83.17%	
	合計	30	30	100.00%	30	0	832	688	82.69%	
形態別	講義計	974	932	95.69%	904	28	88,325	45,780	51.83%	
	演習計	804	755	93.91%	721	34	16,105	13,400	83.20%	
	語学計	646	640	99.07%	615	25	14,617	12,264	83.90%	
全科目		2,424	2,327	96.00%	2,240	87	119,047	71,444	60.01%	

注1 総履修者数のうち本学学部生が5名以下の科目はアンケート実施対象外。

注2 アンケート実施対象科目であっても、実際の回答者数が5名以下の科目は集計対象としない。

【図表1で使用している用語の定義】

「部門別」: 学部やセンターといった授業の開設部門の単位で、11の部門に分けている。「計算機センター」「外国語教育研究センター」「スポーツ・健康科学センター」は、それぞれ「計セ」「外セ」「スポ健」という略称を用いる。なお、学部生が履修できる大学院科目については、それぞれ対応する学部を開設部門として集計。

「形態別」: 授業形態による分類で、「講義」「演習」「語学」の3種類。

「実施率」: アンケートの実施対象となった科目数に対する実施科目数の比率。

「回答率」: アンケートを実施した科目のうち、集計対象となった科目の総履修者数に対する回答者数の比率。

図表2 回答者の種類

	1年	2年	3年	4年	他大生他	無回答	合計
学部生	29,374	21,410	13,043	3,485	33	1,456	68,801
大学院生(博士前期課程)	109	42	3	7	1	3	165
大学院生(博士後期課程)	11	2	2	0	1	2	18
科目等履修生(学部)	1	59	45	20	12	11	148
科目等履修生(大学院)	0	0	0	0	1	1	2
他大学生(大学院生含む)	2	8	1	1	25	2	39
不明	853	476	334	131	15	462	2,271
合計	30,350	21,997	13,428	3,644	88	1,937	71,444

※一部、学生種別と学年との関係としてふさわしくない回答があるが、そのまま集計している。

次に、アンケートを実施した科目のうち、それぞれの総履修者数を少ない方から多い方へと10段階に分け、さらに「形態別」に分類した状況を纏めたものが図表3である。多少の変動はあるものの、例年、ほぼ同様の傾向となっている。

図表3 形態別・総履修者数別実施科目数

			履修者数別				
			25名以下	26～50名	51～100名	101～150名	151～200名
形態別	講義	科目数	155	211	261	93	58
		%	17.15%	23.34%	28.87%	10.29%	6.42%
	演習	科目数	524	172	21	4	0
		%	72.68%	23.86%	2.91%	0.55%	0.00%
	語学	科目数	379	234	2	0	0
		%	61.63%	38.05%	0.33%	0.00%	0.00%
合計		科目数	1,058	617	284	97	58
		%	47.23%	27.54%	12.68%	4.33%	2.59%

			履修者数別					
			201～250名	251～300名	301～350名	351～400名	401名以上	合計
形態別	講義	科目数	41	29	21	14	21	904
		%	4.54%	3.21%	2.32%	1.55%	2.32%	100.00%
	演習	科目数	0	0	0	0	0	721
		%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	語学	科目数	0	0	0	0	0	615
		%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
合計		科目数	41	29	21	14	21	2,240
		%	1.83%	1.29%	0.94%	0.63%	0.94%	100.00%

2. 部門別・形態別の平均値・標準偏差

アンケート結果を「全部門の全形態・形態別」及び「各部門の形態別」に分類し、各項目（主な 12 項目 + α ）に対する回答の平均値・標準偏差を表にしたもの、及び平均値をグラフ化したものは、次のとおりである。

別紙 質問項目別単純集計表（部門別・形態別）【第 3 章各部門頁末】

※例えば、「語学」科目であるにもかかわらず、「スポ健」科目に対する項目について回答されたといった、指定項目以外の回答については無効とし、それらを除外して集計している。

3. 授業満足度による集計結果

アンケート結果は、全回答を単純に集計する「回答者ベース」と、科目単位で集計する「科目ベース」の2種類の集計を行っている。これは、「回答者ベース」による集計では、履修者数及び回答者数の多い大規模科目の影響を強く受けてしまうことがあるためである。

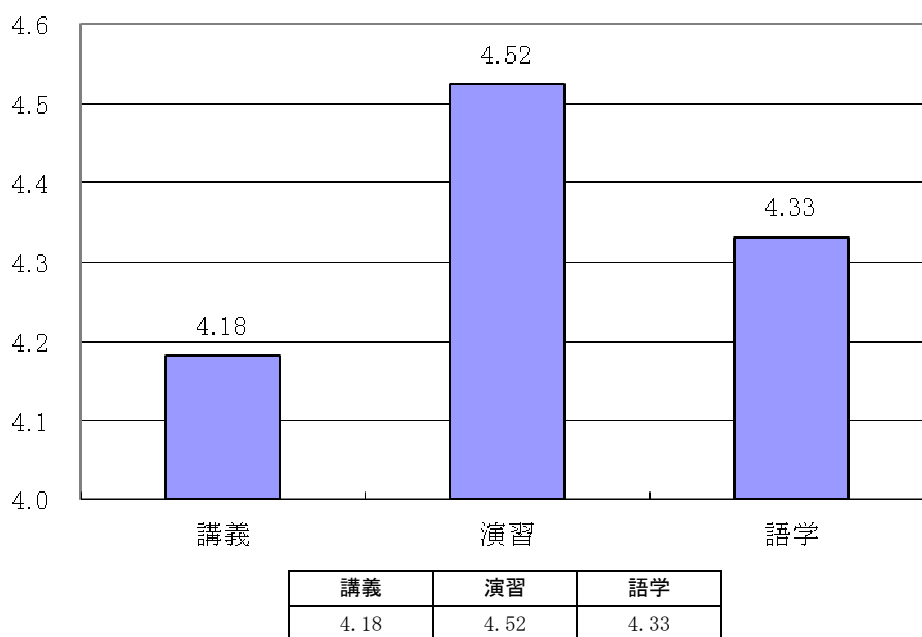
以下では、「Q12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」という質問に対する回答結果に着目し、授業に対する満足度を「形態別」、「総履修者数別」、Q1 の回答による「出席率別」、「学部生の学年別」（以下、「学年別」）、という4つの視点から分析する。

・「形態別」による集計結果

「講義」「演習」「語学」という3種類の形態別に集計した結果が図表4-1である。この結果を過去5年間の経年変化で示した図表4-2から分かるように、毎年、形態別の満足度は「演習」「語学」「講義」の順で高い結果となっている。これは、比較的少人数で教員と学生の距離が近く、学生の授業への参加度が高い授業形態である「演習」に比べると、発表・グループワークなど学生の授業への直接参加の機会が少ないと思われる「講義」、反復学習が重要な初習外国語の授業を含む「語学」に対する満足度がやや低くなりがちであることが考えられる。

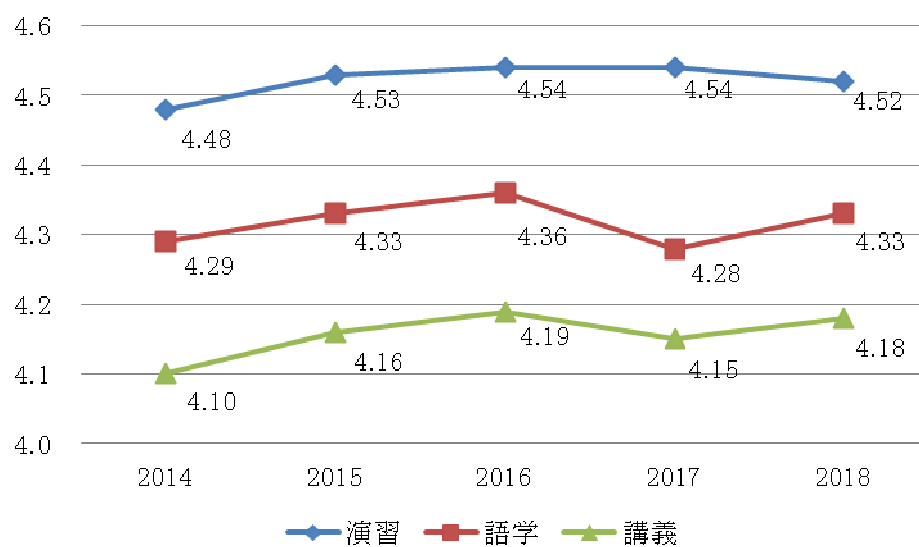
平成30年度は、形態別の平均値が「講義」「語学」において上昇し、「演習」において低下する結果となった。単年度の変化は僅かであるものの、今後も経年の観察を継続すべきと思われる。

図表4-1 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「形態別」集計結果(科目ベース)



図表4-2 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「形態別」集計結果(科目ベース)

(過去5年)



・「総履修者数別」による集計結果

「形態別」の集計結果にも関係するが、授業の規模によって満足度に差があることも考えられる。このため、アンケート実施科目の総履修者数（履修登録者数）を10段階に分けた上で集計した結果が図表5である。履修者数が100名以下の各段階においては、履修者数が少ない科目の方が満足度が高い傾向が明らかだが、151名以上300名以下の各段階では、履修者数の多寡は総合的評価への影響が少ないように見受けられる。

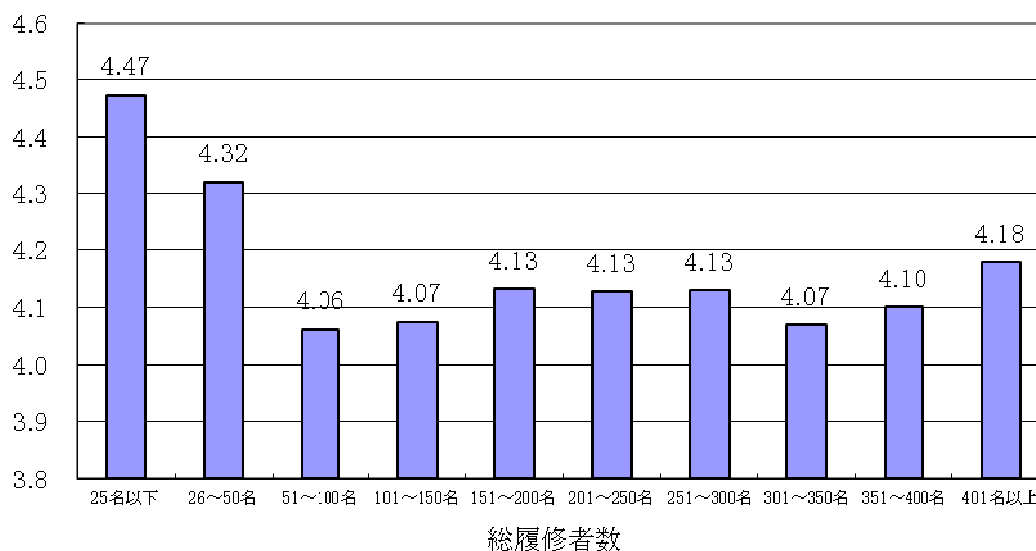
一方で、301名以上の各段階においては、履修者数が多い科目の方が満足度が高くなっていくことも特徴である。特に401名以上の段階には、学生からの人気が高いために毎年多くの履修者を集める科目を含んでいることが集計結果に現れていると考えられる。

また、履修者数の満足度への影響を、形態別（「語学」を除く）に集計した結果が図表6である。履修者数が151名以上の演習科目は存在しないため、これ以上の規模では比較できないが、150名以下の科目では、履修者数が少ない科目の方が満足度が高い傾向は「演習」「講義」とも概ね同様であった。

履修者数が多くなるにつれて満足度が低下する程度は、「演習」よりも「講義」で顕著であり、演習科目においては授業に対して学生のコミットメントを求める授業方法が採られることにより、大規模になっても満足度の低下をある程度食い止められているのではないかと推測される。このことは、演習科目の授業を工夫していく上でも参考となるだろう。

図表5 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「総履修者数別」集計結果

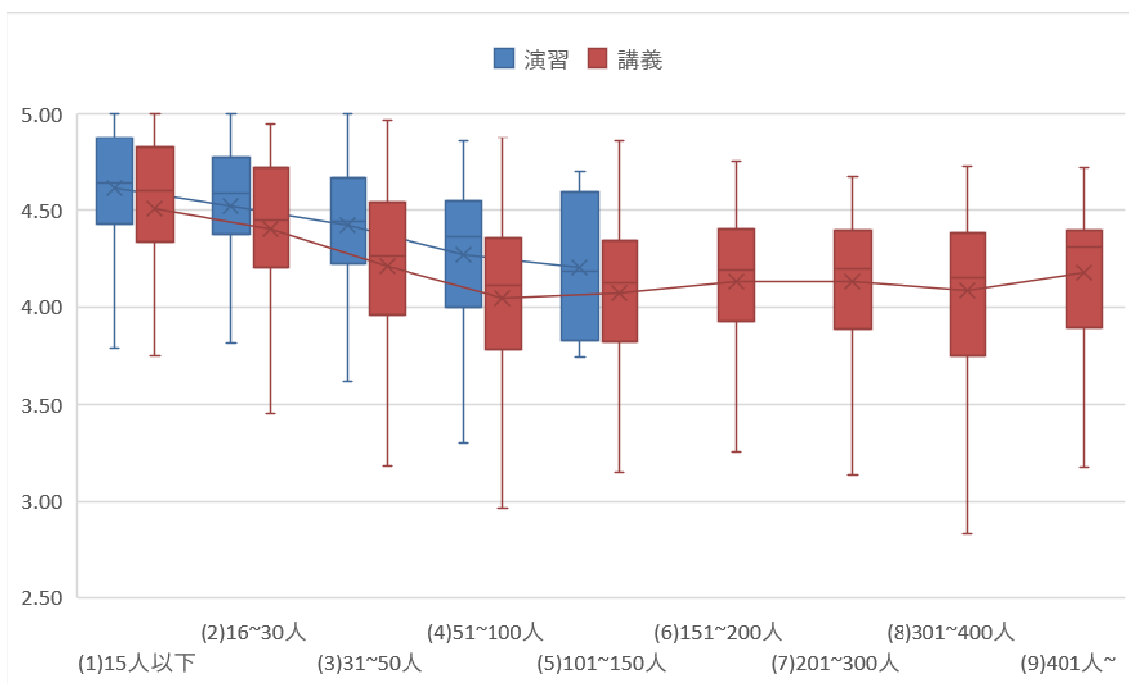
(科目ベース)



25名以下	26~50名	51~100名	101~150名	151~200名
4.47	4.32	4.06	4.07	4.13
201~250名	251~300名	301~350名	351~400名	401名以上
4.13	4.13	4.07	4.10	4.18

図表6 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「総履修者数・形態別」集計結果

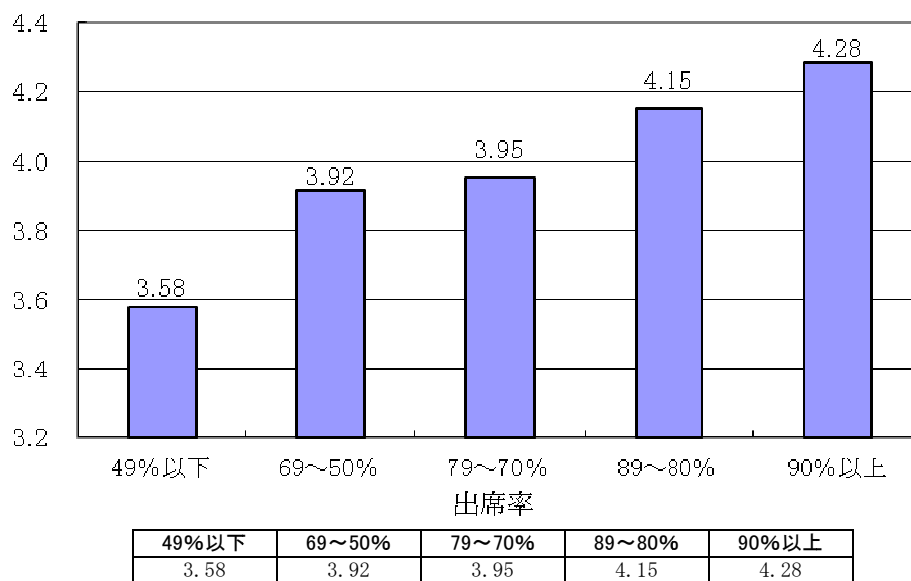
(科目ベース)



・「出席率別」による集計結果

授業への満足度が、出席率とどのような関係にあるかを集計した結果が図表7である。「出席率が高い学生は、授業に対する満足度も高い」傾向が読み取れる。

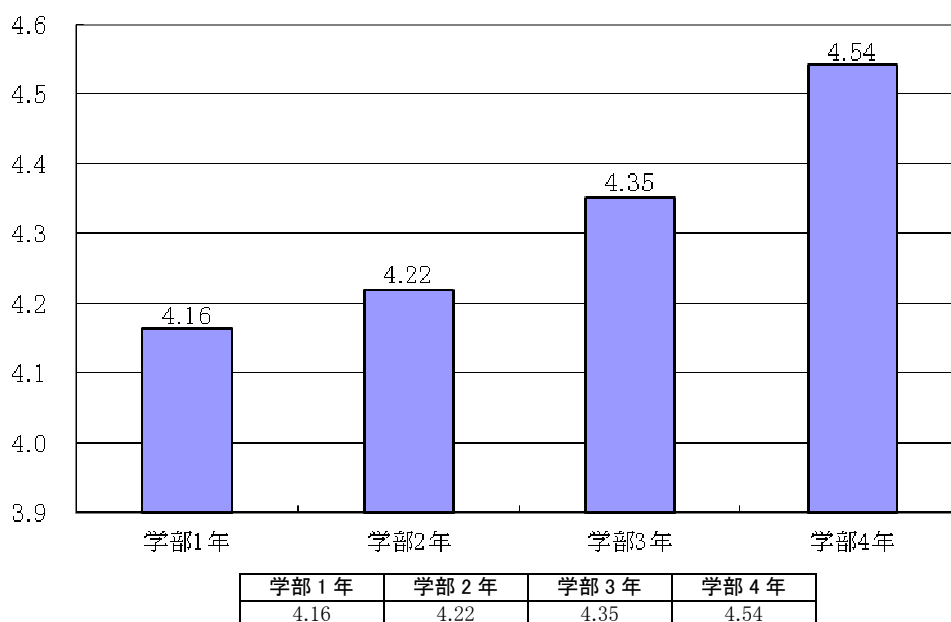
図表7 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「出席率別」集計結果(回答者ベース)



・「学年別」による集計結果

学部生の回答に限定して、学年別の集計を行った結果が図表8である。例年の傾向として、学年が進むにつれて満足度が高くなっていく様子がうかがえる。学年が進行すると、演習など参加型の科目の割合が増えることに加え、学生も大学での学び方や学問への姿勢を習得していていることの現れであろうと推測できるが、学年を問わず満足度の高い授業となるよう工夫・改善の余地があるだろう。

図表8 「12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「学年別」集計結果(回答者ベース)



4. シラバスの活用度

本学のシラバスは、「到達目標（授業の目的・ねらい）」、「各回の授業内容」、「授業方法」、「成績評価の方法・基準」を必須項目とし、成績評価の方法・基準を分かりやすく示せるよう、評価対象項目の複数選択、評価配分のパーセンテージ表記を行っている。

授業評価アンケートでは「Q11 この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」の項目で、「各回の授業内容」の記述が適切であったかを確認している。この項目に対し、「強くそう思う」「そう思う」の割合は46.17%（前年度比+0.04ポイント）であった。この割合は、若干の増減はありながらも例年ほぼ同様であり、シラバスが一定程度、授業内容等を確認・把握するための参考となっていると推測できる。

一方、例年30%以上の学生がシラバスを読まずに受講しており、この割合は、直近の過去5年間で年々増加し、平成30年度には38.47%にまで達した。特に、必修科目として指定されている授業では、シラバスを読んでいないと回答する学生の割合が多くなる傾向にある。

シラバスは、履修科目を選択する際だけでなく、学期中に授業の進捗や今後の学習計画を確認したり、ひいては卒業までの学習の道筋を自己管理するために、常に学生の助けとなることが望まれる。シラバスの内容をブラッシュアップすることはもちろんのこと、学生に向けてシラバスの活用を促進していく必要があるだろう。

IV. 今後の授業評価、FD活動に向けて

平成30年度は、本学に「学生による授業評価アンケート」を導入して13年目となったが、本年度も無事にアンケートを実施でき、報告書の作成に至ったことについて、関係各位のご協力に対し、ここに改めて感謝の意を表したい。FD推進委員会は、今後も円滑な実施と情報提供に向け努めていくものである。

一方で、FD活動としての、授業評価アンケートの将来的な課題も無視することはできない。FD推進委員会は、授業評価アンケートの実施を活動の主軸としてきたが、今後これまで以上にそのあり方や活用方法を考えていく必要がある。

授業評価アンケートは、その授業の概況や基礎的な条件の到達度を検証するには重要な活動であるが、授業評価アンケートの取り組みだけでは捉えきれない、各教員の創意工夫も多数あると考えられる。このため、各教員の授業での創意工夫を共有するための「授業への取り組み例の収集・整理」を、引き続き本報告書に掲載することとした。

また、平成27年度より、授業評価アンケートの結果を活用した全学的な取り組みとして、学生による評価が高かった科目を学内の教職員が見学・聴講する「授業見学・聴講」と、その科目の担当教員による講演と参加者の意見交換からなる「FD研究会」を実施している。

現在、「学生による授業評価アンケート」の取り組みは、教員にも学生にも定着している。しかし、その真の意義は、個々の教員の努力により具体的な授業改善に結びつき、学生に届いてはじめて理解されるものである。個々の努力を大学全体で共有でき、より良い授業のための改善が継続的に行われるシステムを構築することや、授業評価アンケートの結果にかかる学生へのフィードバックの検討等は授業評価アンケートの次の課題である。

また、既存の授業評価アンケートを活用した取り組みだけでなく、全学的なFDの活性化・組織化に向けた活動にも注力していきたい。

第2章

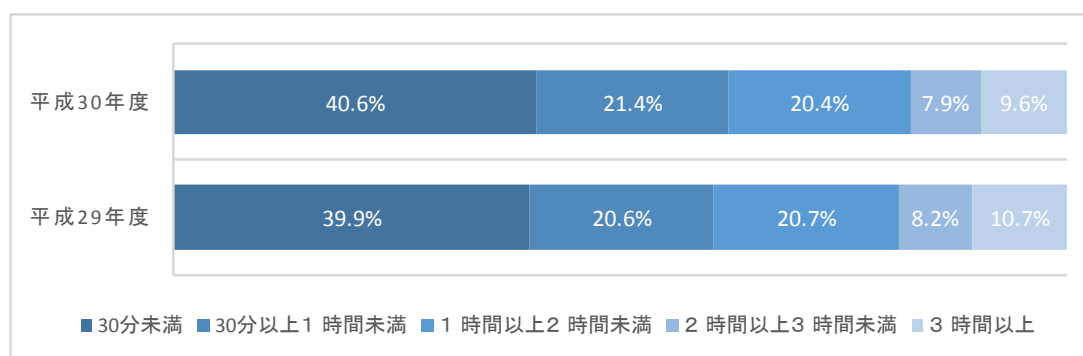
平成30年度の概観

1. 平成 29 年度新設項目の 2 年間の回答傾向

平成 29 年度より、「Q3 私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間（予習復習・課題作成等を含む）は、1 週間あたり平均で」を新設し、前年度も回答傾向を確認したが、本年度は 2 年間の変化について検討する。

部門や形態に関わらない全学的な 2 年間の回答分布を図 1 に示す。平成 30 年度は、平成 29 年度と同様に「30 分未満」の回答が最も多く、40%を超えた。その他の回答では、「30 分以上 1 時間未満」が 0.8%増加、「3 時間以上」が 1.1%減少し、大きな変動はないものの授業時間外学習時間は減少傾向であり、引き続いて学習時間としては一般に期待されるよりも短い状態が続いていると思われる。

図 1 平成 29 年度・平成 30 年度の Q3 回答の割合



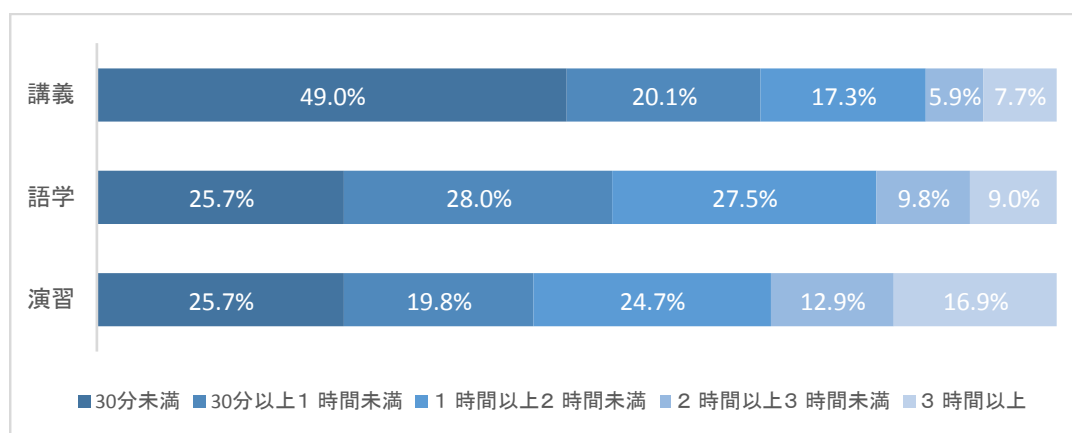
次に、Q3 と Q1~Q12 との項目間の相関係数を確認すると、表 1 の通りであった。平成 30 年度において、最も高いものは Q2 との相関で 0.340、最も低いものは Q1 との相関で 0.073 であった。その他の項目との相関は 0.1~0.2 程度となった。「Q2 私はこの授業に意欲的に取り組んでいる（事前の準備や復習等を含む）」との相関はある程度見受けられるものの、そのほかの項目とはほとんどないと言え、この傾向は平成 29 年度と平成 30 年度で同様であった。

表 1 Q3 と他項目との間の相関係数(平成 30 年度回答ベース)

	Q1	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
2018年度	0.073	0.340	0.131	0.107	0.117	0.144	0.123	0.111	0.184	0.214	0.142
2017年度	0.080	0.356	0.169	0.140	0.141	0.162	0.153	0.131	0.214	0.220	0.175

また、平成 30 年度の結果について、授業形態別に集計した結果が図 2 である。これを見ると、講義ではほぼ半数が「30 分未満」であり、講義科目における授業外学習時間は非常に短いことが分かる。語学科目では「30 分以上 1 時間未満」と「1 時間以上 2 時間未満」が割合として最も多いが「30 分未満」の学生も 25.7%存在しており、2 時間以上の時間をかけている学習者は少数派である。演習科目では比較的ばらついており、「3 時間以上」と答えた学生も 16.9%存在するが、「30 分未満」の学生も 25.7%いる。総じて、講義、語学、演習の順に授業外学習の時間が長くなる傾向は見受けられるが、全体として学習時間が短い場合が多数を占めると言える。

図 2 Q3 に対する授業形態別の平成 30 年度回答の割合



次に、授業形態別に Q3 と Q1～Q12 の相関係数を算出したところ、表 2 の通りであった。表 1 の全体での相関係数とも比較すると、講義科目や語学科目の方が演習科目よりも「Q2 私はこの授業に意欲的に取り組んでいる（事前の準備や復習等を含む）」との相関が多少高く、講義や語学においては、学生本人が意欲的に取り組んでいるとする感覚と学習時間がより連動していると見受けられる。しかし、他の項目との相関は低い値に留まり、Q2 以外に学習時間との関連がある項目は見当たらなかった。

表 2 Q3 と他項目との間の相関係数(平成 30 年度科目ベース)

	Q1	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12
講義	0.178	0.421	-0.061	-0.062	0.101	0.146	0.020	-0.004	0.078	0.145	0.058
語学	0.099	0.431	-0.122	-0.160	-0.034	-0.042	-0.123	-0.104	-0.030	0.023	-0.134
演習	0.260	0.359	-0.045	-0.063	0.061	0.067	0.011	0.001	0.200	0.116	0.069

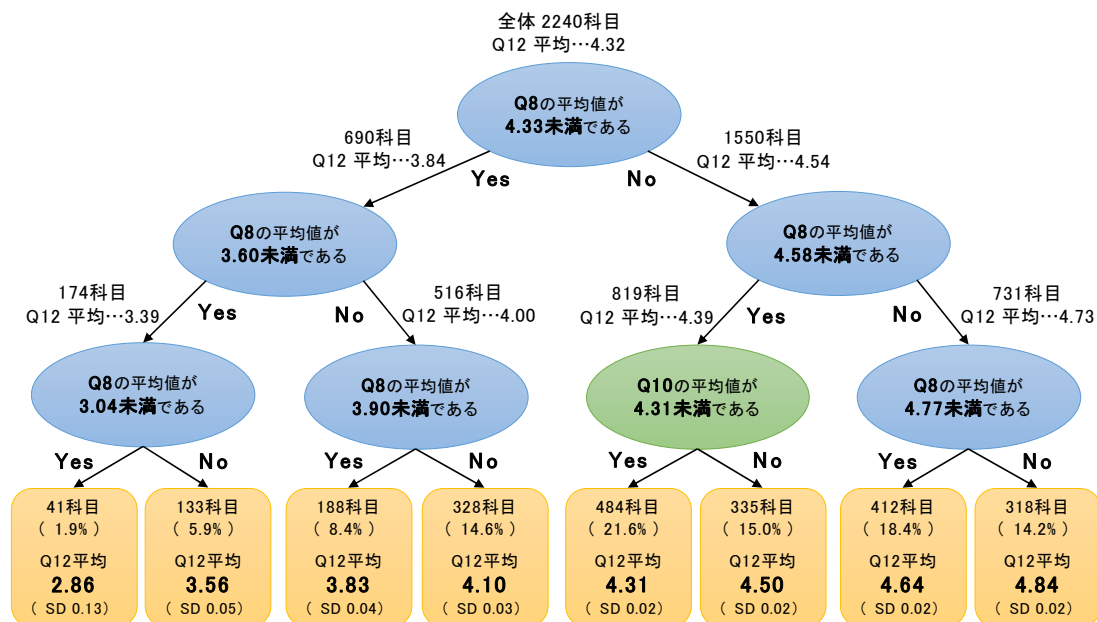
2. 総合評価項目に影響のある要因の検討（平成 29 年度・平成 30 年度）

本項では、平成 29 年度・平成 30 年度の科目別のデータを基にして、「Q12 総合的に見てこの授業は高く評価できる」の平均値で科目を分類しようとした場合、他のどの項目のどのような値で科目群を分類すると明確に分かれるのかを調べる分析（決定木分析）を試みた。この分析により、Q12 の値が近く、かつ他の項目の特徴が似た科目が分類でき、また全体的に Q12 の平均値の分かれ目がどのようになっているかという構造的な把握が可能となる。

科目別の回答平均値データを用いた決定木分析の概要は、次の通りである。まず、目的変数は Q12 である。また、説明変数（分類するための分かれ目になる項目）として、Q1～Q11 の値のほか、履修者数、アンケートの回答率、授業形態、担当教員の資格分類、授業期間、授業の曜日、授業の時限を用いた。授業形態以降は、カテゴリタイプの変数（数値でなく属性で表される変数）である。

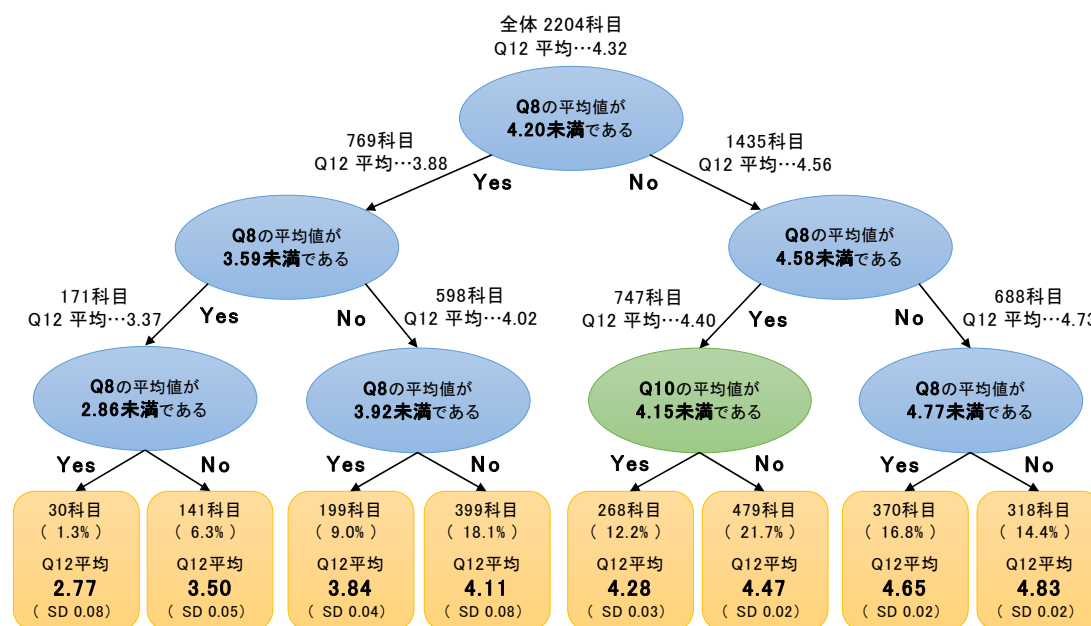
図 3 は、平成 30 年度の科目別データを用いた決定木分析の結果である。これを見ると、Q12 の分類にあたって重要な項目は「Q8 教員は理解しやすい授業を行っている」であることが分かる。Q8 がほとんどの分岐で出現しており、Q8 の平均値が 4.33 以上であるが 4.58 未満であった科目をさらに分類する部分だけに、Q10「この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした」が出現している。したがって、今回投入した説明変数の中では、Q8 が非常に大きな影響を持っており、科目の総合評価は科目の理解しやすさとほぼ連動していることがうかがえる。

図3 平成 30 年度の科目別データ(全 2240 科目)をもとにした決定木分析結果



次に、図4は平成29年度のデータを用いた決定木分析の結果である。これをみると、平成30年度のデータを用いた分析とかなり近い結果であることが分かる。分岐に使われる項目は同じであり、分岐点となる項目の平均値や分類された群に含まれる科目数等は異なるものの、全体の構造はほぼ同様であると言える。

図4 平成29年度の科目別データ(全2204科目)をもとにした決定木分析結果



このように、平成29年度と平成30年度の結果を見ると、この2年間の傾向はほぼ変わらず、授業に対する総合的評価に最も関わりのある要素は理解のしやすさであることがうかがえる。

決定木分析はデータセットによって結果が変わりやすい分析手法であるため、この2年間で構造が一致するという事は、今回見られた結果は全学的な視点ではかなり固定的なものと考えられる。しかし反対に、開設部門その他の要素で分割したデータで分析を行うと、異なる結果が得られることは想像に難くない。得られたデータをより活用するためには、学内の個別具体的な検討ニーズに即して適切にデータを分割し、その特徴を分析していくことが必要であると思われる。

第3章

各部門の分析・評価

この章では、集計結果に基づいた開設部門ごとの分析・評価の概要を掲載する。

分析に使用する主なデータには、「質問項目別単純集計表」「相関係数表」及び「経年変化比較表」（各部門の頁末に掲載）がある。「相関係数表」は、質問項目間の回答の関係性を見ることができるもので、相関係数の絶対値が1に近いほど強い正負の相関を示し、0に近いほど相関が弱いことを示す。その他、部門別、形態別、学年別、総履修者数別に集計した「基礎データクロス表」を第5章に掲載している。

なお、本文中、各質問項目を Q1、Q2、…、Q30 として引用する（第1章 アンケート票参照）。

※例えば、「語学」科目であるにもかかわらず、「スポ健」科目に対する項目について回答されたといった、指定項目以外の回答については無効とし、それらを除外して集計している。

I. 法学部

1. 集計データからわかること

法学部の回答者の自分の出席率の自己評価（Q1）は、講義でも、演習でも比較的高い。だがこれにはいくつかの注記が必要であろう。第一に、このアンケート調査が行われるのはひとつの授業について1回であり、履修登録をしているが出席率が低い学生が、アンケートに応じて自分の出席率は低いと回答する確率は低い。これをさらに遅らせて、期末試験と同時にアンケート調査をするならば、出席回数は少ないが、何とか試験だけは通ろうとする少なからぬ学生からの回答を期待できる。これを授業終了後2か月のときに行うなら、提出したがコメントされ返ってこないレポートについての不満や、自分の答案についた点数に納得できない学生の回答を期待できる。これを実際の1か月以上前に行うなら、授業には出席しているが、何等かの不満があり、結局は履修を放棄する学生からの回答を期待できる。その実施の時期によって調査結果がどう変わるかは興味深い、データはない。少なくとも言えるのは、ある意味で、その授業と〈一蓮托生〉の時期になって質問され、回答するこのアンケート調査の学生は、出席率においては比較的高く、満足度や総合評価においても比較的高くなる可能性があることである。

自分がこの授業に意欲的に取り組んでいるかという自己評価（Q2）について、演習においては比較的高いのは不思議でないが、講義においては、非常に意欲的であると自己評価する者、ある程度意欲的であると自己評価する者、およびそのような自己評価はしない者（「どちらともいえない」がその圧倒的多数を占める）がほぼ三分の一ずつ、このアンケート調査をしたときの教室には混在しているということになる。裏返せば、期末試験近くになっても、意欲的に取り組んでいるという自意識のない学生をクラスに三分の一ほど呑み込み続けていることである。このことが教室において、比較的意欲のある学生にどのような影響を与えるか、は気になる。

この調査が行われるまでの、学期中盤の教室においては、そして期末試験の試験場においては、「意欲的」な学生の比率はこの調査結果よりも低い可能性がある。もしこのQ2の質問を微妙に変えて、「あなたの隣席の学生が意欲的にこの授業に取り組んでいるとあなたは思うか」という質問に答えさせれば、そしてそれをQ2つまり自分についての自己評価と比較すれば、かなり面白い結果が出てくるかもしれない。人間の心理からして、この「一蓮托生」の時期の者は自分の意欲についても、肯定的に自己評価する傾向があり、他者については比較的客観的であるかもしれないからである。

授業時間外の学習時間の長さ（Q3）は、ある程度勉強していると答える者がいる。3時間以上勉強している者については分類されていない点が残念である。ただ講義科目について、1週間あたりの授業外勉強時間が30分未満の者が半数近くいるというのは、疑いなく無惨な数字である。これはつまり、授業が、アメリカの大学におけるように、1回の講義

の前にシラバスに書いてあるどのような文献を読み、予習しなければならないか、というようには構成されていない可能性を示している。演習においては勉強時間はやや上がるが、それでも週2時間未満の勉強時間の者が半数いるのは、学生の準備不足、あるいは教師の要求不足の可能性がある。

法学部の学生の多くが、授業のレベルは適切（Q4）であると考えている。この程度は、演習において講義よりも高い。これは、多くの場合、学生は自分の希望する演習ひとつに入っているはずだから、理解できる。だが、例えば1週間に30分以下の勉強しかならない状態を3か月続けた学生が、その授業の終わりごろになって、その勉強しない学生である自分にとり「レベルは適切である」ともし答えることがあるとすれば、それはその授業が3か月たってもほとんど能力的進歩をその学生にさせていない可能性を意味するから、むしろそのような肯定的に見える評価は、負荷を全くかけない体力トレーニングと同じで、教育上の失敗を意味している可能性がある。

このことはQ4（授業外勉強時間）とQ12（総合的評価）との相関は、あるにはあるが、さほど高いとも言えない（0.6程度）であることとも関連する。また、Q4（授業外勉強時間）とQ3（レベルが自分にとり適切であるかどうかの自己評価）とも関連する。つまり、少なくとも言えるのは、結局授業の最終段階まで行きつく学生の中には、実に不勉強な自分ではあるが、その自分にとり適切なレベルを授業は維持してくれている、と感ずる学生が相当数いるはずだ、ということである。つまりそれは、学生同士を競争させない授業、その努力が足りない者を淘汰しない授業が行われている可能性を意味する。もっともこれは、前述のように、このアンケートの行われる時期までには、一定の、何等かの淘汰が、履修の訂正に関連して、なされている可能性がある、ということと併せて考えるべきことである。

授業のレベルが適切であるとする学生は約3分の2であり、不適切であるとする学生の大多数は難しすぎると考える。不勉強な学生が難しすぎると考えるなら、ある意味でそれは正直な学生であろう。そしてこれは授業のレベルを下げるべきということには必ずしもならない。難しいので不適切である、と考える学生に対しては、「教師はあなたを、授業についていけるようにするために、何をすればよいかを適切に指導したか、あなたはその指導にもかかわらず努力を怠ったので難しいと考えるのか」を聞いてみればいいかもしれない。問題は、勉強時間の十分多い学生が、どうしてその授業のレベルをなお、高すぎると考える場合である。

授業の速さ（Q5）について、多くの法学部学生は、適切であると考えている。それが不適切であるという学生にとっては、早すぎる場合が多い。ゆっくり過ぎる、当たり前のことをくどくどと言っている、といった否定的な評価はない。熱意をもって教員が授業をしているかと問われると（Q6）多くの学生が、教員は熱意を持っていると答える。その比率は学内でも高い。多くの学生が、教員は、授業環境について良好になるように配慮していると考え（Q7）。配慮する教師が多い。教員が理解しやすい授業を行っているか、どうか、

という点 (Q8) については、学生からの評価は高い。教員の話し方 (Q9) についても、多くの学生が、適切であると考えている。板書などの仕方にも問題はない (Q13)。Q16 で、演習科目において、教員が課題に取り組むのを助けた、と多くの学生が考えている。

多くの学生が、授業から新しいものの見方を教えられたと答えている。(Q10) ただ、ここでの質問が、他大学の先生とは異なる貴重な視点を与えてくれたかどうか、という質問なのか、その科目が、その分野を知る者にとってはすでに当然なのだが、それを初めて学ぶ者にとっては新しい視点を与えたのか、という点が曖昧である。

多くの学生が、シラバスと授業内容が一致していると答えている (Q11)。ただ、シラバスと一致しなくても、面白いものはあり、一致しても、つまらないものもありうるはずである。多くの学生が、授業科目を高く評価している。(Q12) 全体の満足度としては満足度が上がる方向に変化している。

学生と教師との *interactiveness* についての Q15 は、授業中の発言については、大教室でも可能なはずである。単調で一方通行になりがちな大教室でどのようにすべきか、について、も調査すべきである。平均を出す際に、学科別の平均をも欲しい。

相互関係

出席している (Q1) 意欲的に取り組んでいる (Q2) といった点と強い相関を持つ他の質問がないということは、逆に言うと、他の面での教員の努力、や授業に対する高い学生からの評価は、学生の意欲を高めることには繋がっていないということになるはずで、憂慮すべき点である。教師は熱意をもって授業している (Q6) と学生から判断される場合であっても、その熱意は、学生つまり学生としては、話し方とか、の高い評価と相関にはなっても、それが学生の授業外勉強時間、意欲といった、もっと本質的に、学生を変えてゆく要因にはなっていない可能性を示している。

授業に対する全体的高評価 (Q12) ともっとも強く相関するのは、理解しやすいか (Q8) であるのは不思議ではない。新しい知識をそこから得られること (Q10) とも強く相関しているが、それは理解しやすいほど強い相関ではなく、それに次ぐものである。という点は注目すべきであろう。ここで欠落している質問は、その授業が＜面白い＞か、という重要な設問である。理解しやすいということと、面白いということとは相当別なことであり、どちらが高い授業評価に繋がるか、は、教師の質とともに学生の質を語りうる。

授業に対する全体的高評価 (Q12) と、各学生が自宅などでその科目の勉強に費やした時間 (Q3) とにはほとんど相関がないのも不思議である。つまり高い評価をするが、あまり勉強しなかった科目、勉強に多くの時間を使ったが、学生からの評価は低い科目、があるのかもしれない。

後記のグラフも示すように、法学部の授業全体の方向としてはより満足度の高い状態になる傾向はあるが、この傾向は、学生をより意欲的にはしていない、授業内容により満足を感じずからといって、より出席率を高めたり、意欲を高めたり、より授業時間外の勉強

時間を増やしたりすることはない。これは良いことなのだろうか。＜授業がどう変わればあなたはもっと意欲的になりますか＞と教員は聞きたくなるはずである。見えてくるのは、学生の満足と、学生の学習意欲との乖離である。満足するが無気力である学生がいるらしい。意欲のある学生が既存の授業に満足しない状態と、意欲のない学生が既存の授業に満足する状態と、どちらが良い大学かとなると、断然前者が好ましい状態であることに異論は挟めないだろう。相当多数の学生は向上心を欠き、努力しなければついていけないという競争心を欠くが、それらの学生を含めて教師は自身の熱意や授業におけるいろいろな配慮により比較的高い評価を受ける、だがその教員の努力は、高い評価を学生から得るとしても、授業終盤の段階になっても、結局学生の向学心を向上させることには失敗している、という仮説は、この調査結果から否定できない。ただ、このアンケート調査の後に、試験勉強やレポート提出などがある場合があるとすると、このアンケート後に意欲が向上する可能性もなくはない。

時系列変化

全体として、平均値としては、このアンケートの持つ価値観からすると、進歩している。下記（図 I-1、図 I-2）はアンケート結果から、法学部について、Q1（自己評価－出席率）、Q2（自己評価－意欲）、Q12（授業総合評価）に対する回答の推移を示したグラフである。

図 I -1

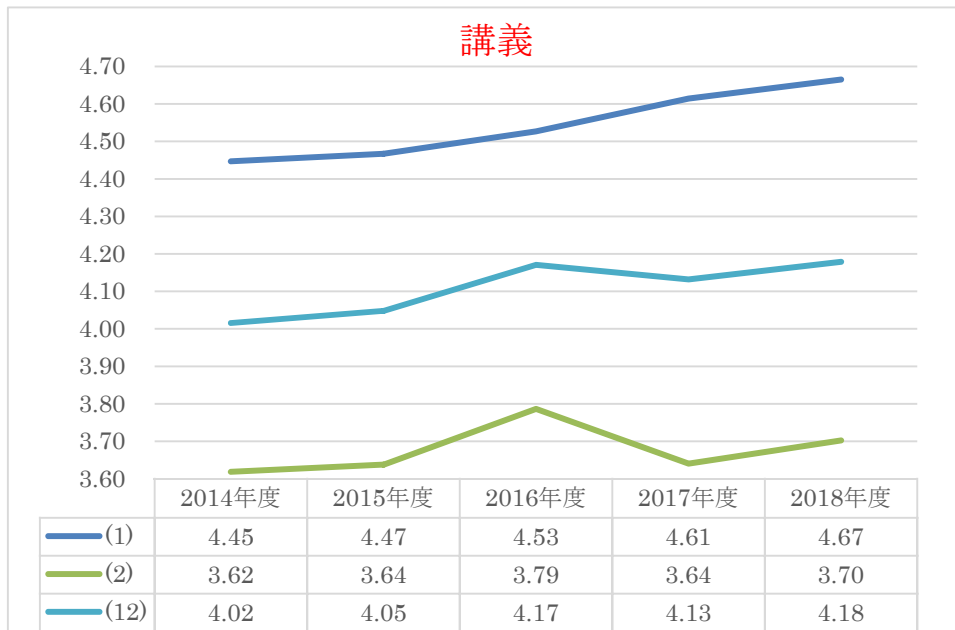
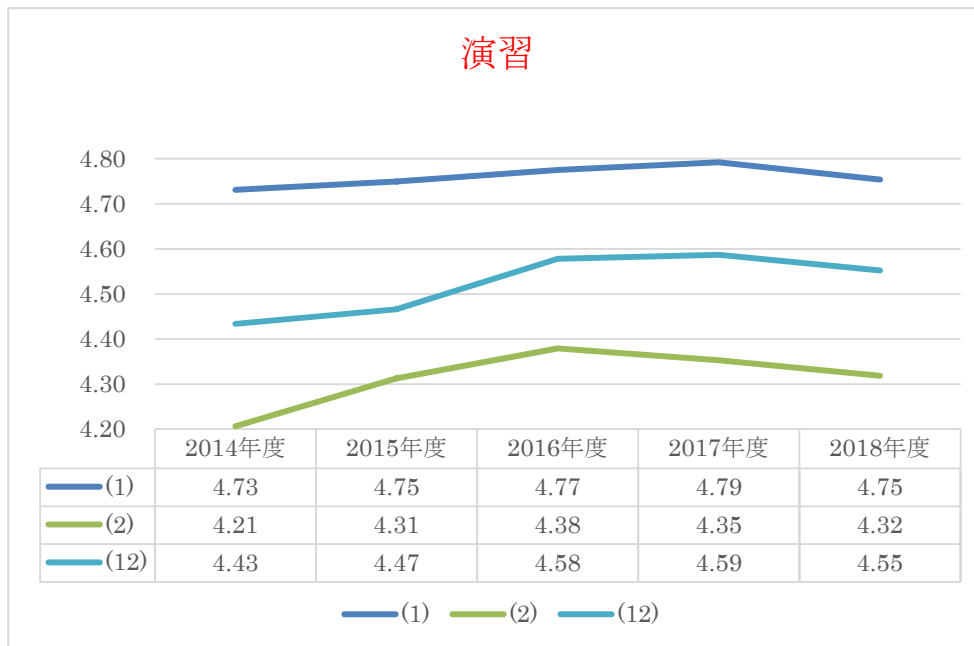


図 I -2



学生の自己評価による授業の出席率は、講義科目において、5年前より年々上がってきている。自分が、意欲的に取り組んでいるという学生も、5年間で少し増えている。演習においては、やや頭打ちの傾向が見られる。

この他<教員が熱意をもって授業している>という評価は、年々上がり、5年前よりだ

いぶ高くなっている。＜理解しやすい授業をしている＞＜話すスピードが適当である＞といった項目での学生の評価においても、教員側の進歩がみられる。＜知的好奇心が刺激された＞についても進歩がみられる。教科書の使い方、板書の仕方などについても、評価が上がっている勉学のために学生が家で勉強している時間は、あまり変わらない。演習では、教員が、学生が議論するのを助けた、と評価されている。

少なくともこのアンケートの持つ評価基準によるかぎり教員側の評価としては、良好に進行し、それぞれの殆どで＜進歩＞が見られるのに対し、進歩の率が比較的低いのは自分が意欲的に取り組んでいるかどうかの学生の自己評価の部分——自己評価による出席率、授業時間外の勉強時間、自己評価による勉学意欲など、学生の主体性に関する部分である。授業は進歩しているが、それは学生の意欲をさほど刺激していない。教師への評価が学生から高まっているほど学生は意欲や勤勉さの面で良くなってはいない可能性があり、調査結果は、教師は学生により大きな満足を与えることには少し成功しても、「良い」学生を作ることには失敗しているかもしれないことを示している。

2. 今後の授業改善に向けて

今後を考える場合、良好な傾向は授業について一定程度あるものの、どこまでこの良好の状態が進歩するのか、という問題も出始める。演習科目においては一種の飽和点に達しており、講義科目においても、早晚同様になるかもしれない。

一つ大切なことは、この授業評価アンケートが行われる時点で、「授業」は決して終了していないことである。大切なこと——例えば学生が論文・レポートなどの **output** を提出し、あるいは試験の答案を書くこと、そしてその **output** に対して評価が、それへの評価の理由、改善のためのアドバイスなどとともに学生に返ってくること、その評価に納得できない学生はさらに自身への評価について教師に質問し、答えてもらうこと、これらを通じて、ひとつの授業における教育が終了する。ある意味で、**active learning** の精神から言えば、最も重要で **interactive** な部分を残す段階で、アンケート調査は例年行われている。アンケート調査の時期については、今後も工夫が必要であろう。

また、大切なことは、学生の平均値ほどの程度大切かということである。平均値も大切だが、学生の 10% をどこまでその意欲を拡大し、その能力を高めたか、という点から評価することも、十分正当化できる価値観である。現状におけるこの調査は、その方法においてのみならず、その価値観においても、絶対ではない。

問題の特徴は、人を教師としてそれから自分を高めようとするとき、その教わる側の様々な不満は、その意欲、それまで持っている知識、能力、使える時間など、教わる側が何者であるか、という諸要素によって相当異なり、素晴らしい授業が学生から評価されない場合もあるし、そうでない授業が高く評価される場合もあるはずだという点である。

授業での学生の参加——発言などについては、演習について学生の評価が集積されるだけで、講義についてはない。これは再考されていいであろう。人数が多くても、学生の意見を聞いたり、あるいは学生が手を挙げて講義を中断させて質問するとか、ありうるし、むしろ奨励されるべきことで、外国なら普通に起こりうることである。

学生の中に、授業についていきにくい、と考える者がある、という問題は、諸項目の中で、もっとも重要な問題であるだろう。だが、そのついていきにくい、ということは、教師側の毎回の講義の仕方の問題なのか、あるいは学生側の予習不足の問題なのか、あるいは予習しにくいような授業形態にしている教師側の問題なのか、データ不足である。

自分を高めることができ満足するという場合もあるが、楽をして単位を取れて満足する、という場合もあることは、周知の事実である。そのどちらの満足がアンケートに表れているかははっきりしない。言えるのは、後者のような学生像を、このアンケート結果は否定できないことである。むしろ自分がその科目履修により厳しく訓練され、能力を高めることができたか、という充実感、達成感からその授業を評価している者が、学内にどの程度の割合でいるのかが発見されるべきであろう。

この視点からすると、平均値の質を向上させるためには、教師がどのような課題をそれぞれの授業の中で出すか、という点について、一定程度の共通の了解が必要であるということになるだろう。授業が大人数になるところは、評価の時間がかかるので、学生の提出する課題量は少なめになるだろう。そのあたりを、TAの活用、TAによる補習授業などをどう利用するか、という問題もあるだろう。

ひとつ見えてきうる仮説は、誠実に努力を続ける教師と、それに満足はするが、意欲をさほど掻き立てられない学生、という構図である。理想としては、教師と学生が相互作用を及ぼし、学生は満足し、さらに向学心を燃やす、というのが望ましいだろうが、そこには何か足りない。そして何が足りないか、について、このアンケートの項目は解明しようとしていない。

授業改善の目標は、学生の満足度だろうか。その満足とはどこからくるものなのか。それとも学生の意欲だろうか。現状の減点法的評価アンケートで、設問が「意欲と能力のある人間を作る」という教育の本質を突いているかどうかの検討をせぬまま、「良い授業」についての進学塾や予備校的なイメージを大学側が学生に刷り込むようなことにならぬよう、注意も必要である。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

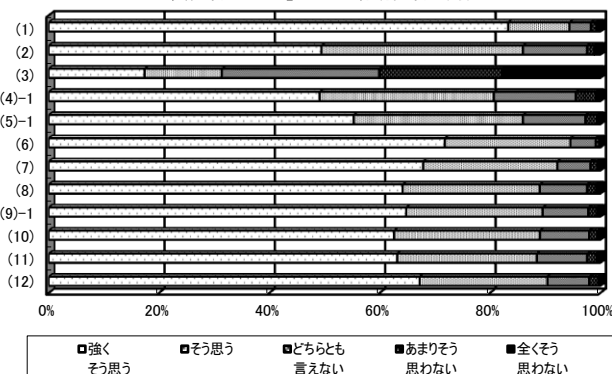
部門名 法学部

形態名 演習

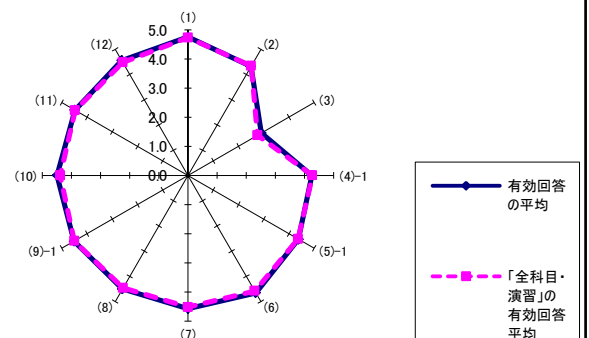
	合計	総履修者数	回答率
回答数	1,627	2,018	80.62%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース							科目ベース				
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答単純集計平均	学生回答単純集計標準偏差	部門別形態別平均	部門別形態別標準偏差	
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	1,353	180	63	18	10	3	1,627	4.75	0.636	4.74	0.294	
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	799	590	188	21	18	11	1,627	4.32	0.814	4.35	0.313	
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	280	225	459	357	288	18	1,627	2.91	1.329	2.97	0.711	
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	791	509	239	59	13	16	1,627	4.25	0.894	4.27	0.433	
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易しすぎる	63	5	-	-	-	-	4	72	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	891	494	182	34	10	16	1,627	4.38	0.814	4.39	0.394	
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	26	11	-	-	-	-	7	44	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	1,162	368	74	11	3	9	1,627	4.65	0.617	4.67	0.260	
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	1,089	390	96	20	9	23	1,627	4.58	0.711	4.61	0.287	
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	1,038	402	139	27	12	9	1,627	4.50	0.782	4.53	0.395	
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	1,033	394	132	26	9	33	1,627	4.52	0.762	4.55	0.370	
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	13	1	19	-	-	-	2	35	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	1,012	427	144	24	9	11	1,627	4.49	0.764	4.52	0.356		
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 23.17%)	702	281	101	20	7	139	1,627	4.49	0.785	4.51	0.338		
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	1,086	374	122	27	6	12	1,627	4.55	0.737	4.58	0.367		
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	1,016	369	100	16	9	117	1,627	4.57	0.716	4.58	0.358	
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	953	387	136	22	9	120	1,627	4.50	0.768	4.52	0.384	

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 法学部
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.328(**)	1												
Q3	.077(**)	.374(**)	1											
Q4	.170(**)	.439(**)	.183(**)	1										
Q5	.155(**)	.380(**)	.155(**)	.726(**)	1									
Q6	.192(**)	.376(**)	.129(**)	.482(**)	.520(**)	1								
Q7	.144(**)	.398(**)	.168(**)	.494(**)	.529(**)	.677(**)	1							
Q8	.162(**)	.432(**)	.174(**)	.656(**)	.647(**)	.657(**)	.705(**)	1						
Q9	.144(**)	.364(**)	.146(**)	.584(**)	.662(**)	.580(**)	.606(**)	.747(**)	1					
Q10	.173(**)	.501(**)	.224(**)	.575(**)	.554(**)	.573(**)	.571(**)	.679(**)	.586(**)	1				
Q11	.058(**)	.263(**)	.267(**)	.224(**)	.228(**)	.182(**)	.216(**)	.240(**)	.220(**)	.282(**)	1			
Q12	.185(**)	.466(**)	.185(**)	.642(**)	.641(**)	.670(**)	.672(**)	.795(**)	.698(**)	.741(**)	.272(**)	1		
Q13	.156(**)	.394(**)	.162(**)	.539(**)	.552(**)	.549(**)	.560(**)	.680(**)	.608(**)	.570(**)	.225(**)	.671(**)	1	
Q14	.158(**)	.390(**)	.155(**)	.544(**)	.549(**)	.556(**)	.569(**)	.667(**)	.583(**)	.576(**)	.229(**)	.674(**)	.775(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 法学部
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.266(**)	1												
Q3	.107(**)	.312(**)	1											
Q4	.003	.378(**)	.083(**)	1										
Q5	.091(**)	.348(**)	.051(*)	.692(**)	1									
Q6	.106(**)	.390(**)	.143(**)	.493(**)	.512(**)	1								
Q7	.079(**)	.371(**)	.131(**)	.518(**)	.567(**)	.718(**)	1							
Q8	.025	.370(**)	.094(**)	.641(**)	.617(**)	.669(**)	.725(**)	1						
Q9	.048	.363(**)	.110(**)	.549(**)	.620(**)	.627(**)	.640(**)	.731(**)	1					
Q10	.077(**)	.461(**)	.187(**)	.564(**)	.546(**)	.602(**)	.593(**)	.657(**)	.613(**)	1				
Q11	-.015	.210(**)	.122(**)	.227(**)	.217(**)	.205(**)	.225(**)	.253(**)	.248(**)	.283(**)	1			
Q12	.076(**)	.424(**)	.120(**)	.616(**)	.624(**)	.659(**)	.699(**)	.755(**)	.658(**)	.716(**)	.271(**)	1		
Q15	.100(**)	.365(**)	.130(**)	.486(**)	.514(**)	.580(**)	.656(**)	.613(**)	.531(**)	.528(**)	.178(**)	.603(**)	1	
Q16	.072(**)	.381(**)	.121(**)	.519(**)	.579(**)	.589(**)	.655(**)	.654(**)	.560(**)	.580(**)	.209(**)	.649(**)	.728(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

II. 経済学部

1. 集計データからわかること

A. 講義

経済学部の講義に関する授業評価アンケートの過去5年間の経年変化を、表Ⅱ-1を用いて検討する。なお、この表1の各セルで示されている値は各年度の質問項目に関する「(回答者ベースの) 平均値」であり、「回答者ベース」とは学生回答者の単純集計である。また、Q1、Q3以外の質問に関する評価は「5:強く思う、4:そう思う、3:どちらとも言えない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない」である。Q3は、平成29年度から新たに加わった質問項目である。なお、今年度から経済学部固有の質問である「私は、この授業に遅刻したことがない」という設問は、無くなっている。

この表から読み取れる特徴として、以下の点を指摘することができる。

- 1) 講義の総合的な評価を問う Q12 は、平成29年度よりも微減であったが、平成28年度よりは高い水準にある。他の質問項目を前年度と比べると、ほとんどの項目で微増または微減であり、総じて学生からの授業評価は前年度とほぼ同水準にあると考えられる。
- 2) 前年度より大きく評価が異なった項目は、Q1とQ3である。Q1は、前年度に比べて授業への出席率が上昇していることを示しているが、この項目は5年連続で上昇傾向を示しており、各教員が学生を惹きつける授業を心掛けている一つの結果で言える。一方、Q3では、授業外に使う時間数が、前年度に比べて減少している。この設問は、昨年度から開始されたため、評価は難しいが、課題の与え方などを工夫する余地はあると考えられる。

表Ⅱ-1 <経済学部(講義)授業評価アンケートの平均値(回答者ベース)>

回答対象	番号	質問内容	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
「全員」回答	Q1	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	4.43	4.47	4.49	4.58	4.63
	Q2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	3.63	3.74	3.82	3.75	3.78
	Q3	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った 時間(予習復習・課題作成等を含む)は、 1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	-	-	-	2.19	2.18
	Q4	この授業のレベルは適切である	3.84	3.89	3.91	3.86	3.90

	Q5	この授業を進める速さは適切である	3.88	3.96	3.98	3.93	3.97
	Q6	教員は熱意を持って授業を行っている	4.16	4.29	4.32	4.31	4.35
	Q7	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	4.06	4.15	4.17	4.18	4.20
	Q8	教員は理解しやすい授業を行っている	3.94	4.02	4.03	4.07	4.12
	Q9	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	4.02	4.11	4.13	4.14	4.20
	Q10	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした	3.86	3.89	3.92	3.87	3.95
	Q11	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している	3.84	4.21	4.24	4.24	4.27
	Q12	総合的に見てこの授業は高く評価できる	3.99	4.08	4.07	4.10	4.13
「講義」 「語学」 のみ	Q13	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	3.97	4.09	4.10	4.15	4.21
	Q14	教材(教科書、配布資料等)の内容は適切である	3.98	4.09	4.13	4.16	4.20
「経済」 のみ	Q21	私は授業に遅刻したことがない	3.55	3.69	3.76	3.80	-

次に、質問項目間の「平均値」がどのように相関しているかを、表Ⅱ-2を用いて検討する。

表Ⅱ-2の各セルで示されている値は各年度の対応する質問に関する「(回答者ベースの)平均値」の相関係数である。青いセルは、各項目の相関係数が0.6以上であり、回答間に比較的強い相関関係が見られるものである。

表Ⅱ-2から見られる経済学部講義の特徴は次の通りである。

- 1) 前年度と同じく総合評価であるQ12と他の質問項目とは相関性が強い。特にQ4からQ10, Q13, Q14との相関性は強く、学生が授業の多くの側面を考慮して総合評価をしていることがわかる。
- 2) Q6, Q7, Q8は互いに高い相関性を示している。これは、学生にとって理解しやすく、進行スピードなどが適切であると、学生自身も授業に集中しやすいことを示している。またこうした進行は教員の努力によるものだと学生も理解していることがわかる。
- 3) Q13とQ14も高い相関性を示しており、教材の良さと板書の適切さは相互に関連していることがわかる。これも前年度の結果と同様である。

表Ⅱ-2 <経済学部(講義)2018年度 相関係数表>

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.321(**)	1												
Q3	.084(**)	.364(**)	1											
Q4	.113(**)	.408(**)	.148(**)	1										
Q5	.087(**)	.358(**)	.078(**)	.763(**)	1									
Q6	.155(**)	.399(**)	.148(**)	.520(**)	.516(**)	1								
Q7	.130(**)	.405(**)	.160(**)	.508(**)	.509(**)	.721(**)	1							
Q8	.110(**)	.402(**)	.132(**)	.648(**)	.639(**)	.717(**)	.720(**)	1						
Q9	.098(**)	.353(**)	.113(**)	.590(**)	.640(**)	.666(**)	.664(**)	.787(**)	1					
Q10	.104(**)	.492(**)	.206(**)	.600(**)	.580(**)	.600(**)	.585(**)	.665(**)	.604(**)	1				
Q11	0	.286(**)	.249(**)	.273(**)	.261(**)	.234(**)	.257(**)	.270(**)	.257(**)	.343(**)	1			
Q12	.115(**)	.456(**)	.161(**)	.664(**)	.646(**)	.705(**)	.691(**)	.803(**)	.727(**)	.735(**)	.325(**)	1		
Q13	.106(**)	.367(**)	.133(**)	.541(**)	.536(**)	.619(**)	.598(**)	.679(**)	.636(**)	.574(**)	.254(**)	.686(**)	1	
Q14	.122(**)	.369(**)	.135(**)	.551(**)	.532(**)	.621(**)	.595(**)	.670(**)	.624(**)	.573(**)	.269(**)	.682(**)	.816(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

B. 演習

経済学部の演習に関する授業評価アンケートの過去5年間の経年変化を、表Ⅱ-3を用いて検討する。

表Ⅱ-3の各セルで示されている値は各年度の質問項目に関する「(回答者ベースの) 平均値」である。そして、表Ⅱ-3からは以下の特徴が読み取れる。

- 1) すべての質問項目に関して、演習の「平均値」が講義の「平均値」より高くなっている。これは、従来と同様の特徴であるが、その水準は、5年前の水準へと戻っている。もっとも、4.60という評価は他学部の演習の総合評価に比べて高い水準にあり、5学部の中で4.5を超える水準を達成しているのは経済学部だけである。
- 2) 授業への出席率(Q1)、演習のために授業外で勉学に費やした時間(Q3)などは、前年度同じ水準にあるが、他の項目では前年度を下回るものもあり、授業のレベル(Q4)や授業のスピード(Q5)などは、過去5年間で最低の水準になっている。

表Ⅱ-3 <経済学部(演習)授業評価アンケートの平均値(回答者ベース)>

回答対象	番号	質問内容	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
「全員」回答	Q1	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	4.81	4.86	4.85	4.86	4.86
	Q2	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	4.46	4.50	4.53	4.53	4.54

	Q3	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間（予習復習・課題作成等を含む）は、1週間あたり平均で 5：3時間以上 4：2時間以上 3時間未満 3：1時間以上 2時間未満 2：30分以上 1時間未満 1：30分未満	-	-	-	3.27	3.24
	Q4	この授業のレベルは適切である	4.45	4.44	4.46	4.43	4.40
	Q5	この授業を進める速さは適切である	4.48	4.49	4.53	4.48	4.46
	Q6	教員は熱意を持って授業を行っている	4.61	4.69	4.68	4.65	4.65
	Q7	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	4.59	4.61	4.64	4.61	4.62
	Q8	教員は理解しやすい授業を行っている	4.57	4.58	4.59	4.57	4.57
	Q9	教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である	4.61	4.65	4.62	4.61	4.61
	Q10	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした	4.56	4.55	4.56	4.53	4.51
	Q11	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している	4.33	4.58	4.56	4.55	4.58
	Q12	総合的に見てこの授業は高く評価できる	4.60	4.63	4.64	4.61	4.60
「講義」 「語学」 のみ	Q13	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	4.57	4.57	4.62	4.58	4.59
	Q14	教材（教科書、配布資料等）の内容は適切である	4.55	4.56	4.57	4.55	4.56
「経済」 のみ	Q21	私は授業に遅刻したことがない	4.11	4.14	4.23	4.17	-

次に、質問項目間の「平均値」がどのように相関しているかを、表Ⅱ-4を用いて検討しよう。

表Ⅱ-4の各セルで示されている値は各年度の対応する質問に関する「(回答者ベースの)平均値」の相関係数である。表Ⅱ-2と同様青いセルは、各項目の相関係数が0.6以上であり、回答間に比較的強い相関関係が見られるものである。表Ⅱ-4から見られる経済学部の講義の特徴は次の通りである。

- 1) 講義のケースと同様、総合評価であるQ12と各個別項目との相関性は強い。昨年度は、その相関性は、講義のケースほどは強くなかったが、今年度は講義と同様、他の各項目と強い相関性を示している。
- 2) 他の項目でも前年度に比べて項目間の相関性は高まっており、特に知的好奇心を刺激されたという項目(Q10)は、教員の授業への熱意や理解しやすいような授業の工

夫（Q7、Q8 など）と強い相関性がある。

- 3) 一方で、授業がシラバス通りかどうかの評価（Q11）と他の項目との相関性はほとんどない。これは事前にシラバスをあまり読んでいないことやシラバスを読んだとしても希望の演習に入れるわけではないことが影響しているかもしれない。ただこの点は、他の学部でも同様の結果となっている。

表Ⅱ-4 <経済学部(演習)2017年度 相関係数表>

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.263(**)	1												
Q3	.096(**)	.294(**)	1											
Q4	.095(**)	.429(**)	.171(**)	1										
Q5	.102(**)	.430(**)	.174(**)	.714(**)	1									
Q6	.109(**)	.409(**)	.192(**)	.518(**)	.568(**)	1								
Q7	.120(**)	.408(**)	.185(**)	.545(**)	.586(**)	.750(**)	1							
Q8	.126(**)	.433(**)	.169(**)	.615(**)	.659(**)	.740(**)	.773(**)	1						
Q9	.105(**)	.415(**)	.174(**)	.554(**)	.600(**)	.706(**)	.713(**)	.798(**)	1					
Q10	.110(**)	.453(**)	.252(**)	.508(**)	.503(**)	.578(**)	.606(**)	.612(**)	.604(**)	1				
Q11	-0.002	.206(**)	.150(**)	.239(**)	.217(**)	.208(**)	.208(**)	.231(**)	.224(**)	.244(**)	1			
Q12	.117(**)	.448(**)	.196(**)	.621(**)	.637(**)	.716(**)	.727(**)	.780(**)	.716(**)	.672(**)	.251(**)	1		
Q15	.098(**)	.413(**)	.169(**)	.484(**)	.503(**)	.592(**)	.587(**)	.593(**)	.544(**)	.509(**)	.166(**)	.640(**)	1	
Q16	.090(**)	.364(**)	.145(**)	.497(**)	.495(**)	.594(**)	.586(**)	.612(**)	.559(**)	.515(**)	.185(**)	.647(**)	.728(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

2. 今後の授業改善に向けて

経済学部では、学部の専任教員に、個々の授業の改善事例を提出してもらえるよう、学部長より連絡を行っている。この結果を、学部独自に取りまとめ、具体的な工夫を共有できるようにしている。

また、学部の専任教員に対し、全学的なFDプログラムへの参加を促進している。具体的には、授業評価アンケートにおいて学生の評価が高かった授業の見学会及び、その授業担当者の講演と意見交換を主としたFD研究会への出席を促している。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

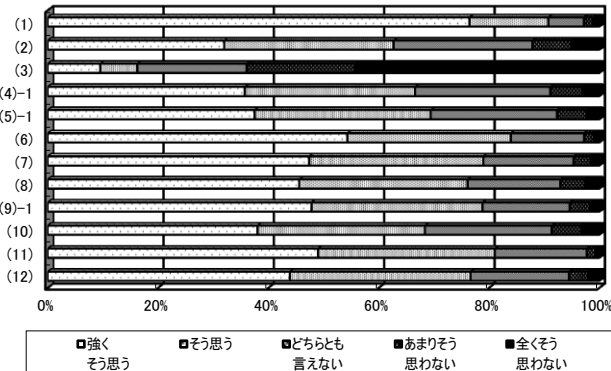
部門名 経済学部

形態名 講義

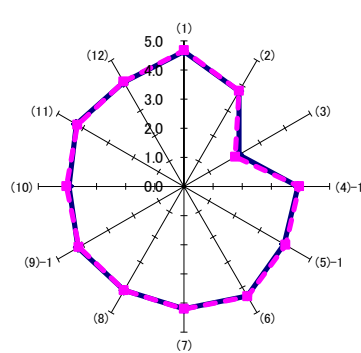
	合計	総履修者数	回答率
回答数	8,391	21,498	39.03%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース							科目ベース			
			5 強く 思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	6,398 76.25%	1,197 14.27%	538 6.41%	139 1.66%	96 1.14%	23 0.27%	8,391 100.00%	4.63	0.774	4.58	0.253
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	2,665 31.76%	2,554 30.44%	2,096 24.98%	592 7.06%	417 4.97%	67 0.80%	8,391 100.00%	3.78	1.121	3.82	0.456
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	790 9.41%	555 6.61%	1,636 19.50%	1,624 19.35%	3,660 43.62%	126 1.50%	8,391 100.00%	2.18	1.319	2.23	0.611
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	2,977 35.48%	2,570 30.63%	2,039 24.30%	487 5.80%	255 3.04%	63 0.75%	8,391 100.00%	3.90	1.050	3.92	0.498
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易しすぎる	655 88.27%	50 6.74%	- -	- -	- -	37 4.99%	742 100.00%	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	3,116 37.14%	2,652 31.61%	1,902 22.67%	446 5.32%	191 2.28%	84 1.00%	8,391 100.00%	3.97	1.012	4.04	0.419
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	519 81.48%	87 13.66%	- -	- -	- -	31 4.87%	637 100.00%	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	4,529 53.97%	2,470 29.44%	1,108 13.20%	148 1.76%	81 0.97%	55 0.66%	8,391 100.00%	4.35	0.846	4.35	0.369
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	3,936 46.91%	2,619 31.21%	1,357 16.17%	259 3.09%	130 1.55%	90 1.07%	8,391 100.00%	4.20	0.929	4.26	0.377
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	3,796 45.24%	2,539 30.26%	1,399 16.67%	373 4.45%	217 2.59%	67 0.80%	8,391 100.00%	4.12	1.012	4.13	0.506
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	3,939 46.94%	2,551 30.40%	1,301 15.50%	302 3.60%	140 1.67%	158 1.88%	8,391 100.00%	4.20	0.948	4.22	0.408
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	147 33.26%	32 7.24%	229 51.81%	- -	- -	34 7.69%	442 100.00%	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	3,163 37.70%	2,523 30.07%	1,911 22.77%	449 5.35%	269 3.21%	76 0.91%	8,391 100.00%	3.95	1.056	4.02	0.489	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 35.04%)	2,401 28.61%	1,569 18.70%	816 9.72%	75 0.89%	37 0.44%	553 6.59%	8,391 100.00%	4.27	0.844	4.28	0.311	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	3,646 43.45%	2,720 32.42%	1,482 17.66%	289 3.44%	167 1.99%	87 1.04%	8,391 100.00%	4.13	0.960	4.17	0.480	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	3,874 46.17%	2,422 28.86%	1,216 14.49%	268 3.19%	151 1.80%	460 5.48%	8,391 100.00%	4.21	0.951	4.22	0.434
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	3,762 44.83%	2,456 29.27%	1,333 15.89%	225 2.68%	128 1.53%	487 5.80%	8,391 100.00%	4.20	0.929	4.21	0.392

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

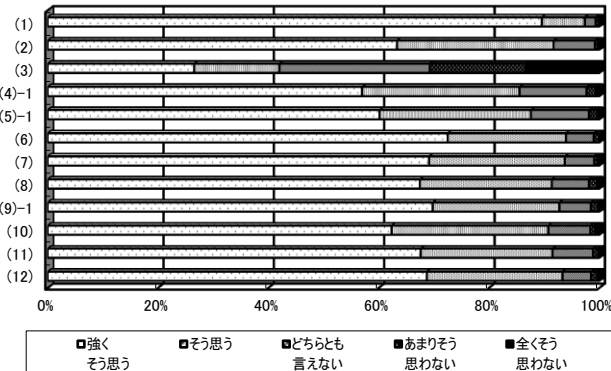
部門名 経済学部

	合計	総履修者数	回答率
回答数	1,595	1,833	87.02%

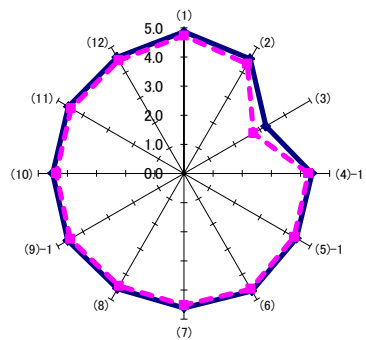
形態名 演習

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	1,428	124	31	8	3	1	1,595	4.86	0.460	4.83	0.259
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,005	450	119	9	4	8	1,595	4.54	0.680	4.53	0.298
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	420	244	431	275	211	14	1,595	3.24	1.366	3.23	0.714
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	905	453	193	27	10	7	1,595	4.40	0.812	4.40	0.391
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	27	4	-	-	-	6	37	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	951	434	166	26	4	14	1,595	4.46	0.766	4.47	0.374
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	15	13	-	-	-	2	30	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	1,153	341	80	14	2	5	1,595	4.65	0.629	4.66	0.323
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	1,094	389	84	10	5	13	1,595	4.62	0.647	4.62	0.331
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	1,072	380	107	23	7	6	1,595	4.57	0.721	4.57	0.420
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	1,089	358	89	20	4	35	1,595	4.61	0.679	4.61	0.380
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	5	0	16	-	-	3	24	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	990	451	121	14	12	7	1,595	4.51	0.739	4.51	0.409	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 25.33%)	708	250	77	10	2	144	1,595	4.58	0.687	4.59	0.383	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	1,090	390	82	18	6	9	1,595	4.60	0.676	4.61	0.391	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	1,012	335	97	15	5	131	1,595	4.59	0.690	4.60	0.339
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	982	355	94	23	6	135	1,595	4.56	0.720	4.58	0.373

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 経済学部
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.321(**)	1												
Q3	.084(**)	.364(**)	1											
Q4	.113(**)	408(**)	.148(**)	1										
Q5	.087(**)	.358(**)	.078(**)	.763(**)	1									
Q6	.155(**)	.399(**)	.148(**)	.520(**)	.516(**)	1								
Q7	.130(**)	405(**)	.160(**)	508(**)	509(**)	.721(**)	1							
Q8	.110(**)	402(**)	.132(**)	.648(**)	.639(**)	.717(**)	.720(**)	1						
Q9	.098(**)	.353(**)	.113(**)	.590(**)	.640(**)	.666(**)	.664(**)	.787(**)	1					
Q10	.104(**)	492(**)	.206(**)	.600(**)	.580(**)	.600(**)	.585(**)	.665(**)	.604(**)	1				
Q11	0	.286(**)	.249(**)	.273(**)	.261(**)	.234(**)	.257(**)	.270(**)	.257(**)	.343(**)	1			
Q12	.115(**)	456(**)	.161(**)	.664(**)	.646(**)	.705(**)	.691(**)	.803(**)	.727(**)	.735(**)	.325(**)	1		
Q13	.106(**)	.367(**)	.133(**)	.541(**)	.536(**)	.619(**)	.598(**)	.679(**)	.636(**)	.574(**)	.254(**)	.686(**)	1	
Q14	.122(**)	.369(**)	.135(**)	.551(**)	.532(**)	.621(**)	.595(**)	.670(**)	.624(**)	.573(**)	.269(**)	.682(**)	.816(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 経済学部
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.263(**)	1												
Q3	.096(**)	.294(**)	1											
Q4	.095(**)	429(**)	.171(**)	1										
Q5	.102(**)	430(**)	.174(**)	.714(**)	1									
Q6	.109(**)	409(**)	.192(**)	.518(**)	.568(**)	1								
Q7	.120(**)	408(**)	.185(**)	.545(**)	.586(**)	.750(**)	1							
Q8	.126(**)	433(**)	.169(**)	.615(**)	.659(**)	.740(**)	.773(**)	1						
Q9	.105(**)	415(**)	.174(**)	.554(**)	.600(**)	.706(**)	.713(**)	.798(**)	1					
Q10	.110(**)	453(**)	.252(**)	.508(**)	.503(**)	.578(**)	.606(**)	.612(**)	.604(**)	1				
Q11	-0.002	.206(**)	.150(**)	.239(**)	.217(**)	.208(**)	.208(**)	.231(**)	.224(**)	.244(**)	1			
Q12	.117(**)	448(**)	.196(**)	.621(**)	.637(**)	.716(**)	.727(**)	.780(**)	.716(**)	.672(**)	.251(**)	1		
Q15	.098(**)	413(**)	.169(**)	.484(**)	.503(**)	.592(**)	.587(**)	.593(**)	.544(**)	.509(**)	.166(**)	.640(**)	1	
Q16	.090(**)	.364(**)	.145(**)	.497(**)	.495(**)	.594(**)	.586(**)	.612(**)	.559(**)	.515(**)	.185(**)	.647(**)	.728(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

Ⅲ. 文学部

1. 集計データからわかること

平成 26 (2014) 年度より今回の平成 30 年度調査にいたるまでの回答数値は総じて高く、それ以前とは一線を画した異なる水準に入っている。授業方法について各学科・教員個々による改善の試みが功を奏したのであろう。ただし今回の平成 30 年度の調査結果を見ると、一つ気になる点があるので確認しておきたい。講義科目についての今回の調査での回答数値 (特に Q4 から Q14 まで) は、これまでで最も高い平成 28 年度とほぼ同様の数値を示すまでに至っている。しかし一方の演習科目については、直近の平成 27・28・29 年度調査と比較して、Q4 から Q16 のことごとくの数値が減少に転じている。講義科目と演習科目との評価の差についてはこれまでいわれてきたが、総じてそれは講義科目の問題として論じられてきている。しかし、平成 30 年度調査では演習科目評価が全体として減じているのであり、これは何を意味するのか。今後の動向を見守る必要がある。

2. 今後の授業改善に向けて

- (1) 「Q11 この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」に対して、「シラバスを読まなかった」と回答した学生の数値が、平成 29 年度では、講義科目で 43.09%、演習科目で 40.94%、であった。今回の平成 30 年度調査でも、講義科目で 43.40%、演習科目 38.35%、というように、演習科目で若干改善が見られるものの、相変わらずの高い数値である。シラバスを読まない学生が多くいることは以前から問題になっていたが、ここ 2 年とくにそれが顕著である。

平成 29 年度から冊子体のシラバスの配布がなくなり、ウェブでの参照に限られたことが学生のシラバス離れに拍車をかけ、さらに平成 30 年度の履修登録では、ウェブシステムの刷新により、参照しようにも従来の操作では当該シラバスに辿りつけなかった学生が多くいたものと思われる。そして、このような結果になることは昨年の段階で予想され、各学科が様々な工夫をこらしてきたわけだが、その効果の程ははなはだ微弱であったことになる。多くの学生がシラバスを読まずに履修計画を立て、それで済ませているという現状にどう対応すべきなのか。履修ガイダンスの際にシラバスを印刷して配布する、初回の授業時にシラバスを配布する等の工夫は、これまで多くの学科ならびに個々の教員が実施してきている。今後もシラバスを読むよう徹底した指導が必要である。各学科の具体的な試みについては、第 3 章「授業への取り組み例」の記述に任せるとして、このような改善努力により今後どのようにこの数値が変異していくのかを見守ることにしたい。

またシラバスを読んだという学生にあっても、授業テーマと成績評価の方法しか確

認していないという学生が多い。一言で「読む」といっても様々であり、このことはこのアンケート調査の形式からは確認できないものの、直接学生に確認してみれば明らかである。シラバスを読むことの重要性について彼らに説明する必要もある。

また学生にシラバスを読むよう周知徹底させるだけでなく、我々教員側もシラバスとは何であるかを考え、その有効性と限界性とははかしておく必要がある。実際にシラバス全体を通覧してみれば分かるように、履修計画時に利するようなシラバスは決して多くない。魅力に欠けるし、あたりさわりのない叙述に終始したシラバスもかなりある。シラバスに何を書き、また書くべきなのか、教員によりかなり認識が異なり、シラバスの何たるかを教員全員で突き詰めて考えてみる必要がある。

一例あげるとして、シラバスと授業との関係は果たしてどのようなものであるべきなのか。例えば、先の Q11「この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」という設問にしても、ここにはシラバスの記述と実際の授業内容とが一致すべきとする大前提が認められる。換言すれば、授業で話す内容は事前に明確化しておかななくてはならないということでもある。しかし、だとするならば、教員は既に決まっている内容を機械的に喋っているにすぎなくなるし、演習科目にしても、対話的授業どころか、予定調和的な授業しかできないことであろう。

- (2) 平成 29 年度より、Q3「私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間（予習復習・課題作成を含む）は、1 週間あたり平均で ⑤3 時間以上 ④2 時間以上 3 時間未満 ③1 時間以上 2 時間未満 ②30 分以上 1 時間未満 ①30 分未満」という質問項目が追加された。この追加項目により、学生の授業時間外における学習の実態が把握できるようになった。昨年の回答平均値は、講義 1.92（学生回答単純平均）/ 2.0（部門別形態別平均）、演習 2.87 / 2.92、であったが、本年度にも改善は認められず、講義 1.94 / 2.04、演習 2.88 / 2.88、となっている。

授業時間という枠内にあつては、学生は総じて熱意をもって授業に臨み、それなりに授業に満足している。しかし、かかる授業での学びが一步外に出ると生かされていないことが分かる。勉強するのはほぼ授業中に限られ、勉強というものに対する問題意識が根本的に欠如している。課題を積極的に出したり、参考書等を紹介することで、彼らの勉強意欲や知的好奇心をさらに刺激する必要がある。総じて彼らには自主的に学習するという態度があまり見られず、読書習慣も欠けている。勉強とは何か、学問とは何かという根本的な問題についての啓蒙を積極的に行う必要がある。この問題についての各学科の試みは第 3 章「授業への取り組み例」の記述を参照願いたい。

- (3) FD 活動は、授業評価アンケートの分析結果を踏まえるだけでは限界があり、文学部では年 2 回（7 月と 12 月）、文学部 FD 研究会を開催している（文学部教員の約 8 割が出席）。一昨年は「アクティブラーニング」というテーマで他校より専門家を招いて講演をしていただいた。昨年は「大学の外国語教育を考える」「大学のスポーツ健康科学科目とは何か」というテーマでセンターの教員と文学部教員から意見をそ

れぞれ出していただいて、それをめぐって全員で議論することができた。本年度は「留学生教育の問題」を俎上にのせることになっている。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

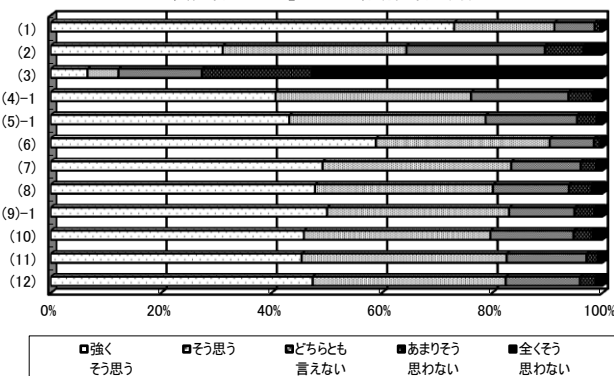
部門名 文学部

形態名 講義

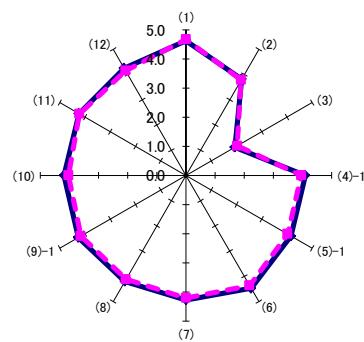
	合計	総履修者数	回答率
回答数	8,775	12,121	72.40%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	6,410	1,591	641	84	38	11	8,775	4.63	0.700	4.59	0.269
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	2,717	2,900	2,186	611	298	63	8,775	3.82	1.057	3.92	0.466
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	576	484	1,300	1,712	4,538	165	8,775	1.94	1.225	2.04	0.542
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	3,559	3,095	1,539	385	153	44	8,775	4.09	0.954	4.20	0.428
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易しすぎる	488	20	-	-	-	30	538	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	3,776	3,108	1,447	311	90	43	8,775	4.16	0.898	4.26	0.396
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	256	108	-	-	-	37	401	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	5,154	2,753	700	97	37	34	8,775	4.47	0.726	4.52	0.285
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	4,284	2,970	1,096	239	102	84	8,775	4.28	0.871	4.36	0.347
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	4,181	2,816	1,199	360	172	47	8,775	4.20	0.959	4.30	0.443
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	4,311	2,838	1,018	309	127	172	8,775	4.27	0.908	4.37	0.401
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	148	23	234	-	-	31	436	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	4,006	2,949	1,313	303	155	49	8,775	4.19	0.935	4.29	0.381	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 41.32%)	2,152	1,756	684	94	43	420	8,775	4.24	0.838	4.34	0.338	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	4,146	3,055	1,172	248	109	45	8,775	4.25	0.880	4.35	0.395	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	3,979	2,789	1,233	416	163	195	8,775	4.17	0.972	4.26	0.431
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	4,241	2,886	1,114	217	101	216	8,775	4.28	0.869	4.36	0.357

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

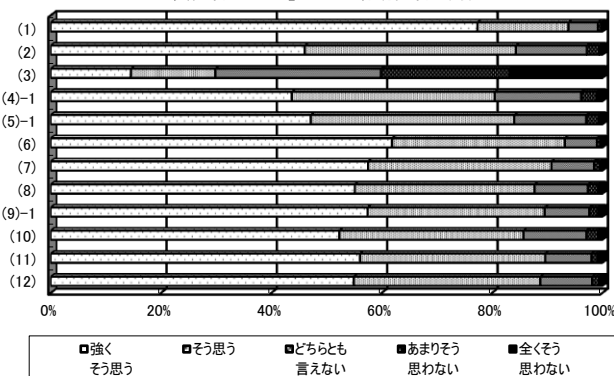
部門名 文学部

形態名 演習

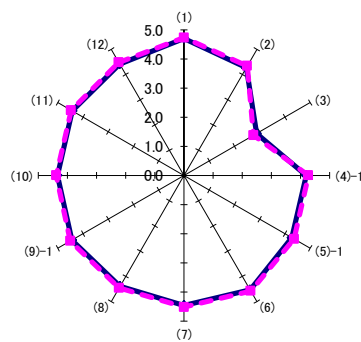
	合計	総履修者数	回答率
回答数	5,817	6,864	84.75%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	4,498	959	310	42	5	3	5,817	4.70	0.607	4.68	0.249
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	2,656	2,207	741	129	34	50	5,817	4.27	0.812	4.28	0.285
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	837	878	1,724	1,341	964	73	5,817	2.88	1.275	2.88	0.612
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	2,530	2,131	907	165	57	27	5,817	4.19	0.871	4.23	0.344
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	191	21	-	-	-	10	222	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	2,729	2,134	756	131	38	29	5,817	4.28	0.822	4.33	0.317
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	129	31	-	-	-	9	169	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	3,593	1,817	338	37	21	11	5,817	4.54	0.668	4.57	0.247
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	3,325	1,921	446	58	29	38	5,817	4.46	0.724	4.50	0.257
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	3,199	1,890	560	110	43	15	5,817	4.39	0.797	4.44	0.332
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	3,291	1,839	463	93	43	88	5,817	4.44	0.772	4.48	0.334
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	60	2	68	-	-	6	136	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	3,035	1,934	661	122	47	18	5,817	4.34	0.823	4.39	0.336	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 36.82%)	1,851	1,108	277	37	28	374	5,817	4.43	0.763	4.42	0.348	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	3,182	1,958	544	71	36	26	5,817	4.41	0.761	4.46	0.315	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	3,153	1,852	544	86	32	150	5,817	4.41	0.770	4.48	0.310
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	3,209	1,851	482	86	29	160	5,817	4.44	0.754	4.49	0.280

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 文学部
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.289(**)	1												
Q3	.047(**)	.275(**)	1											
Q4	.108(**)	.449(**)	.087(**)	1										
Q5	.095(**)	.408(**)	.080(**)	.747(**)	1									
Q6	.128(**)	.378(**)	.069(**)	.513(**)	.556(**)	1								
Q7	.091(**)	.415(**)	.106(**)	.529(**)	.583(**)	.682(**)	1							
Q8	.078(**)	.429(**)	.085(**)	.689(**)	.695(**)	.642(**)	.711(**)	1						
Q9	.077(**)	.379(**)	.074(**)	.622(**)	.696(**)	.616(**)	.657(**)	.768(**)	1					
Q10	.099(**)	.497(**)	.133(**)	.597(**)	.575(**)	.571(**)	.590(**)	.674(**)	.595(**)	1				
Q11	0.016	.173(**)	.190(**)	.159(**)	.157(**)	.163(**)	.184(**)	.178(**)	.172(**)	.222(**)	1			
Q12	.093(**)	.473(**)	.103(**)	.677(**)	.679(**)	.664(**)	.703(**)	.804(**)	.726(**)	.749(**)	.218(**)	1		
Q13	.058(**)	.361(**)	.089(**)	.538(**)	.593(**)	.534(**)	.601(**)	.679(**)	.640(**)	.545(**)	.193(**)	.661(**)	1	
Q14	.069(**)	.371(**)	.073(**)	.579(**)	.603(**)	.562(**)	.599(**)	.680(**)	.628(**)	.582(**)	.190(**)	.681(**)	.765(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 文学部
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.332(**)	1												
Q3	.058(**)	.287(**)	1											
Q4	.109(**)	.428(**)	.110(**)	1										
Q5	.082(**)	.383(**)	.075(**)	.731(**)	1									
Q6	.100(**)	.383(**)	.083(**)	.512(**)	.565(**)	1								
Q7	.109(**)	.419(**)	.116(**)	.539(**)	.581(**)	.747(**)	1							
Q8	.086(**)	.396(**)	.090(**)	.623(**)	.638(**)	.686(**)	.745(**)	1						
Q9	.082(**)	.348(**)	.077(**)	.569(**)	.613(**)	.633(**)	.677(**)	.778(**)	1					
Q10	.084(**)	.444(**)	.148(**)	.547(**)	.536(**)	.589(**)	.590(**)	.656(**)	.591(**)	1				
Q11	-0.012	.173(**)	.152(**)	.176(**)	.171(**)	.187(**)	.200(**)	.220(**)	.203(**)	.245(**)	1			
Q12	.093(**)	.442(**)	.120(**)	.649(**)	.649(**)	.687(**)	.698(**)	.776(**)	.681(**)	.727(**)	.236(**)	1		
Q15	.073(**)	.359(**)	.118(**)	.476(**)	.517(**)	.574(**)	.594(**)	.593(**)	.564(**)	.545(**)	.172(**)	.617(**)	1	
Q16	.085(**)	.381(**)	.099(**)	.513(**)	.541(**)	.615(**)	.623(**)	.638(**)	.571(**)	.568(**)	.181(**)	.664(**)	.709(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

IV. 理学部

1. 集計データからわかること

Q1の出席率は、84.81%の学生が出席率90%以上と答えている。平均値も回答者ベース、科目ベースで4.78、4.75との数値を得ている。これらより、出席率は良好なことがわかる。授業に意欲的に取り組んでいるかを問うQ2では、回答者ベース、科目ベースの平均値はそれぞれ3.80、3.83であり、他学部の講義科目の平均値と同程度となった（法学部：3.70、3.79、経済学部：3.78、3.82、文学部：3.82、3.92、国際社会科学部：3.83、3.81）。授業のために、授業時間外で学習に使った時間を問うQ3では、1科目の授業時間外の学習時間が1週間で平均2時間以上と回答した学生は18.87%であり、他学部に比べて多いものであった（法学部：13.95%、経済学部：16.28%、文学部：12.31%、国際社会科学部：13.52%）。他方、30分未満と回答した学生は36.59%と他学部に比べ少ないものの、学生の勉学意欲の欠如が浮き彫りとなっている（法学部：46.12%、経済学部：44.28%、文学部：52.71%、国際社会科学部：44.53%）。Q4の授業のレベルに関する設問では、適切である（「強くそう思う」、「そう思う」と答えている学生は56.17%であり、これは、他学部の68.00%（法学部）、66.61%（経済学部）、76.21%（文学部）、66.45%（国際社会科学部）と比較してかなり低い数値である。しかも平均値は、回答者ベースで3.63、科目ベースで3.66にとどまっている。レベルが適切でないと感じた学生の95.93%が「難しすぎる」と答えていて、教員の目標とする授業レベルと一部の学生の許容可能レベルとに乖離が認められる。他方、レベルが適切でないと感じた学生の4.07%は「易しすぎる」と答えており、学生内の学力レベル差がうかがえる。Q5の授業を進める速さについては、61.17%の学生が適切である（「強くそう思う」、「そう思う」と答えており、これもQ4と同様、他学部に比べ低い数値である（法学部：71.33%、経済学部：69.43%、文学部：78.83%、国際社会科学部：72.58%）。適切でないと答えた学生の92.82%が「速すぎる」と感じている一方で、7.18%の学生は「遅すぎる」と感じている。Q4、Q5ともほぼ例年並みの数値であり、今後も改善のための工夫が必要であろう。授業に対する教員の熱意を学生がどう感じているかを問うQ6では、回答者ベース、科目ベースの平均値はそれぞれ4.25、4.27であり、他学部と同程度の数値であった。Q7の授業環境についての設問に対しても、回答者ベース、科目ベースの平均値がそれぞれ4.11、4.16であり、例年並みの数値となった。Q8「教員は理解しやすい授業を行っている」かについての設問では、「強くそう思う」、「そう思う」と感じた学生は67.06%であり、他学部の76.55%（法学部）、76.10%（経済学部）、80.16%（文学部）、74.32%（国際社会科学部）より低い数値となっている。平均値は、回答者ベース、科目ベースで、それぞれ3.89、3.94であり、例年並みの数値となっている。教員の話し方、スピードに関するQ9についても、「強くそう思う」、「そう思う」と感じた学生は70.84%であり、他学部に比べて低い数値となっている（法学部：76.55%、経済学部：78.83%、文学部：83.10%、

国際社会科学部：76.88%）。「聞き取りにくい」という指摘も多いので、今後改善すべき点は多々あると思われる。

Q10 の知的好奇心の刺激については、平均値が回答者ベース、科目ベースで 3.84、3.89 となっており、64.21%の学生がこの授業によって知的好奇心が刺激された（「強く思う」、「そう思う」）と答えている。シラバスに示されていた授業内容との合致を問う Q11 では、53.61%の学生がシラバスを読まなかったと答えている。理学部の場合、他学部に比べ必修科目が多いこともあってこのような高い数値になっていると考えられる。シラバスを読んだ学生のほとんどは、シラバスと授業内容とが合致している（「強く思う」、「そう思う」）と答えている。Q13、Q14 の板書の仕方やスライド提示の仕方、教材の適切性については、それぞれ 72.99%、73.43%の学生が適切である（「強く思う」、「そう思う」）と答えている。これに満足することなく、ICT 等も視野に入れた工夫・改善等を行っていくことも必要であろう。

Q12 の総合評価では、平均値は、回答者ベース、科目ベースそれぞれ 3.97、4.02 であった。2015～2017 年度ではそれぞれ 3.96～4.03、3.99～4.08 であったので、ここ数年間ほとんど変化なく推移していることがわかる。

演習科目では、学生の出席状況は例年通り良好であり、95.22%の学生が出席率 90%以上と答えている。Q2 と Q5 から Q12 の各設問に対する回答の平均値は、回答者ベース、科目ベースともに良好な数値（4.11～4.40）であることから、授業改善が着実に進んでいることの顕れと考えられる。また、学生の積極的な参加に関する設問である Q15 や Q16 に対しても良好な数値（4.22～4.30）が得られていることは、講義、演習両科目の連携が適正であることを示している。

2. 今後の授業改善に向けて

前述のように、講義科目、演習科目ともに、学生による評価はここ数年ほぼ変わらずに推移している。一方で、数値の微増傾向が見られる項目もあり、教員の授業改善・工夫が少しずつではあるが成果を挙げてきているともいえる。少人数教育を文字どおり実践している理学部では、もともと教員と学生との距離が近く、学生は気軽に教員に接し、教員もまたそれに真摯に応ずるという気風と伝統がある。例えば、演習やセミナー、実験科目では、実質的に時間制限のない指導が行われることも少なくない。このような学生と教員との密接なコミュニケーション、セミナーや実験における直接的な交渉を通して、教員は学生の思いを受けとめ、学生個人にこまめに対応するための環境が整っている。しかし、近年の一部の学生に目立つ勉学意欲の減退、知的好奇心の減少という「気質」に対して、こうした密接な対応に加えて、さらに学生の学習意欲を刺激するための方策が必要であろう。例えば、双方向のコミュニケーションやアクティブ・ラーニングによる能動的な学修活動の導入、ICT の積極的な活用が考えられる。また、いわゆる「落ちこぼれ」学生の

ために、S A、T Aの積極的な利用やラーニング・サポートセンターの活用も考えられる。これらを含めた授業改善においては、Q8、Q10にある「理解しやすい授業」、「知的好奇心の発揚」に注目して実践すべきであろう。さらに、どのような方法を採用するにしろ、今後も教員が学生とのコミュニケーションを心掛け、教員、学生の一方通行でない意思疎通によって授業改善を進めていくことが重要であろう。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

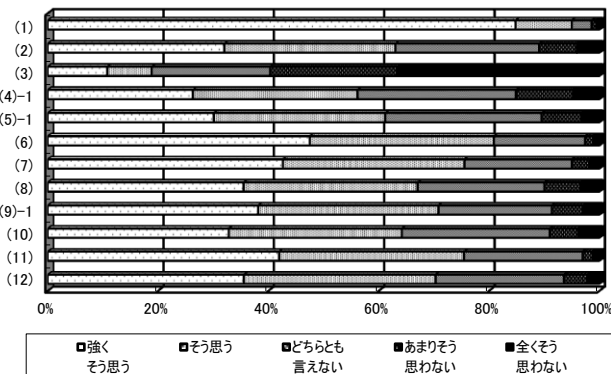
部門名 理学部

形態名 講義

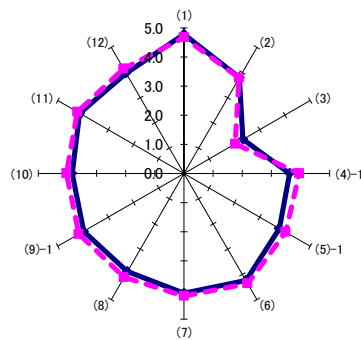
	合計	総履修者数	回答率
回答数	4,233	6,657	63.59%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
			5 強く 思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答				部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	3,574	429	152	37	22	19	4,233	4.78	0.600	4.75	0.218
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,344	1,300	1,094	287	170	38	4,233	3.80	1.086	3.83	0.370
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上 3時間未満 3: 1時間以上 2時間未満 2: 30分以上 1時間未満 1: 30分未満	449	334	891	958	1,519	82	4,233	2.33	1.328	2.34	0.436
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	1,105	1,253	1,205	434	201	35	4,233	3.63	1.120	3.66	0.495
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	589	25	-	-	-	21	635	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	1,266	1,305	1,191	305	136	30	4,233	3.78	1.056	3.83	0.432
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	388	30	-	-	-	23	441	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	1,996	1,402	694	63	46	32	4,233	4.25	0.859	4.27	0.305
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	1,782	1,375	813	134	75	54	4,233	4.11	0.948	4.16	0.347
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	1,489	1,322	963	275	143	41	4,233	3.89	1.069	3.94	0.465
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	1,578	1,352	850	234	122	97	4,233	3.97	1.038	4.01	0.446
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	134	4	196	-	-	22	356	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	1,375	1,314	1,122	215	162	45	4,233	3.84	1.061	3.89	0.411	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 51.59%)	793	633	407	35	22	159	4,233	4.13	0.893	4.19	0.379	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	1,492	1,459	975	178	92	37	4,233	3.97	0.977	4.02	0.403	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	1,629	1,349	723	253	126	153	4,233	4.01	1.050	4.02	0.433
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	1,656	1,334	864	134	84	161	4,233	4.07	0.965	4.08	0.372

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 理学部
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.281(**)	1												
Q3	.046(**)	.417(**)	1											
Q4	.107(**)	.440(**)	.216(**)	1										
Q5	.102(**)	.404(**)	.187(**)	.753(**)	1									
Q6	.129(**)	.391(**)	.183(**)	.486(**)	.537(**)	1								
Q7	.111(**)	.388(**)	.172(**)	.502(**)	.575(**)	.706(**)	1							
Q8	.100(**)	.418(**)	.186(**)	.647(**)	.678(**)	.650(**)	.713(**)	1						
Q9	.089(**)	.338(**)	.143(**)	.567(**)	.673(**)	.593(**)	.662(**)	.758(**)	1					
Q10	.143(**)	.513(**)	.278(**)	.598(**)	.579(**)	.555(**)	.568(**)	.633(**)	.562(**)	1				
Q11	.040(**)	.290(**)	.334(**)	.213(**)	.221(**)	.193(**)	.192(**)	.216(**)	.195(**)	.281(**)	1			
Q12	.114(**)	.462(**)	.203(**)	.671(**)	.690(**)	.666(**)	.702(**)	.791(**)	.706(**)	.712(**)	.249(**)	1		
Q13	.085(**)	.386(**)	.169(**)	.525(**)	.593(**)	.588(**)	.620(**)	.693(**)	.665(**)	.563(**)	.219(**)	.703(**)	1	
Q14	.092(**)	.394(**)	.178(**)	.535(**)	.582(**)	.591(**)	.602(**)	.652(**)	.617(**)	.571(**)	.235(**)	.684(**)	.766(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 理学部
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.309(**)	1												
Q3	.118(**)	.404(**)	1											
Q4	.173(**)	.439(**)	.286(**)	1										
Q5	.166(**)	.419(**)	.269(**)	.739(**)	1									
Q6	.178(**)	.427(**)	.235(**)	.538(**)	.621(**)	1								
Q7	.180(**)	.463(**)	.272(**)	.528(**)	.614(**)	.735(**)	1							
Q8	.125(**)	.449(**)	.264(**)	.612(**)	.639(**)	.699(**)	.752(**)	1						
Q9	.156(**)	.427(**)	.251(**)	.607(**)	.665(**)	.699(**)	.724(**)	.786(**)	1					
Q10	.161(**)	.523(**)	.379(**)	.559(**)	.564(**)	.579(**)	.623(**)	.620(**)	.614(**)	1				
Q11	-.006	.212(**)	.216(**)	.225(**)	.224(**)	.224(**)	.246(**)	.233(**)	.221(**)	.320(**)	1			
Q12	.160(**)	.484(**)	.293(**)	.649(**)	.673(**)	.692(**)	.735(**)	.738(**)	.709(**)	.724(**)	.300(**)	1		
Q15	.181(**)	.483(**)	.320(**)	.496(**)	.556(**)	.609(**)	.647(**)	.629(**)	.659(**)	.588(**)	.194(**)	.636(**)	1	
Q16	.170(**)	.444(**)	.293(**)	.542(**)	.579(**)	.646(**)	.649(**)	.651(**)	.663(**)	.585(**)	.190(**)	.675(**)	.769(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

V. 国際社会科学部

1. 集計データからわかること

本学部は開設3年度目のため、一、二、三年生対象の授業科目のみについてアンケートを実施した結果を概観する。

A. 講義

講義形式の今年度のアンケートの実施率は98.6%となり過去2年間の実施率と比較しても一番高くなっている。一方アンケートの回答率は45.0%であり、特に回答率が昨年度から約11%、一昨年から約26%低下した。

講義形式の社会科学科目は例年通り日本語を使用言語とした科目を中心に履修者数が200名前後に達した科目も多くみられたが、講義科目全学平均値（以下全学平均）(4.64)をわずかに下回る出席率(Q1)(4.62)を示した。昨年度は全学平均をわずかに上回っていたが、今年度は回答率が低かったにもかかわらず出席率が低下した。昨年度の出席率とも、今年度の全額平均とも差は非常に小さいので誤差の範囲内とも言えるが、昨年度はアンケートの対象が一、二年生であり、今年度はアンケートの対象が一年～三年であることと、学年が上がるにつれ講義の出席率が下がることが本結果に影響しているのではないかと考えられる。また、昨年度と一昨年度は他の4学部に見られる「講義科目の出席率は演習科目の出席率を下回る」という一般的傾向に反し、講義科目の方が演習科目よりも出席率が高かったが、今年度は講義科目の出席率の方が演習科目出席率(4.73)よりも低くなった。

講義科目の意欲度(Q2)(3.81)は昨年度に引き続き全学平均(3.85)を下回っているが非常に小さい差であり全学平均とほぼ同じといえるであろう。授業外学習時間(Q3)は昨年度、一昨年度と同じく全学平均を上回っている。授業を進める速さの適切さ(Q5-1)も全学平均とほぼ同じで、この3年間で改善傾向にある。さらに、シラバスとの合致(Q11)については全学平均をある程度下回った昨年度までと違い、全学平均とほぼ同じになっており、板書やスライドの適切さ(Q13)は、全学平均とほぼ同じかつ、全学平均を少し上回っている。

一方、教員の熱意(Q6)、集中できる授業環境への配慮(Q7)、授業の理解しやすさ(Q8)、教員の話し方の適切さ(Q9)、知的好奇心を刺激したか(Q10)、教材の内容の適切さ(Q14)は昨年度、一昨年度と同じく全学平均より下回っている。しかしながら、これらの項目も全てこの3年間で改善傾向にあり、大きく改善した項目も多くなっている。

結果として、今年度も授業レベルの適切さ(Q4)と総合的な評価(Q12)が全学平均を若干下回る評価となった。一方で、総合的な評価はこの3年間で上昇傾向にあり、さらに上述の通り多くの項目が改善傾向にある。全学の授業評価アンケートや、各教員や学部内

で独自に実施している授業評価アンケートを踏まえ、各教員が授業改善に取り組んだことが少しずつ効果を上げているのではないかと考えられる。一方で今年度は回答率が過去最低であり、おそらく学年が上がるにつれて回答率が下がるのではないかと考えられる。回答率の低さが結果にどう影響しているか厳密にはわからないため、今後学年別かつ形態別のデータを入手し分析を深められれば良いと思われる。

表V-1 国際社会科学部 講義科目の授業評価アンケート 平均値(科目ベース)

	2016年度		2017年度		2018年度	
	国際社会 科学部	全学平均	国際社会 科学部	全学平均	国際社会 科学部	全学平均
Q1 出席率	4.78	4.57	4.61	4.60	4.62	4.64
Q2 意欲度	3.80	3.92	3.78	3.79	3.81	3.85
Q3 授業外学習時間	—	—	2.22	2.16	2.14	2.10
Q4-1 授業のレベルの適切さ	3.80	4.02	3.80	3.92	3.80	3.97
Q5-1 授業を進める速さの適切さ	3.86	4.08	3.93	4.02	4.01	4.06
Q6 教員の熱意	4.22	4.38	4.23	4.35	4.28	4.37
Q7 集中できる授業環境への配慮	3.93	4.25	4.08	4.23	4.19	4.26
Q8 授業の理解しやすさ	3.66	4.13	3.96	4.10	4.01	4.14
Q9-1 教員の話し方の適切さ	3.79	4.19	4.01	4.17	4.06	4.19
Q10 知的好奇心を刺激したか	3.73	4.10	3.84	4.04	3.88	4.09
Q11 シラバスとの合致	4.12	4.27	4.12	4.22	4.23	4.25
Q12 総合評価	3.74	4.19	4.00	4.15	4.02	4.18
Q13 板書やスライドの適切さ	4.00	4.16	4.16	4.14	4.21	4.19
Q14 教材の内容の適切さ	3.95	4.21	4.13	4.20	4.15	4.23
アンケート実施率	80.95%		94.12%		98.57%	
回答率	71.10%	51.87%	56.00%	51.93%	44.97%	51.83%

B. 演習

演習形式の今年度のアンケートの実施率は97.8%となり過去2年間の実施率よりは低いものの、ほぼ100%の実施率となっている。アンケートの回答率は83.9%であり、一昨年度の回答率よりは低いものの、昨年度の回答率よりは少し高くなっている。

昨年度までは演習科目は主に一年次を対象とした入門演習の受講生のみが対象であったが、今年度は専門演習の受講生が加わった。出席率(Q1)(4.73)は、全学平均(4.70)を少しだけ上回った。昨年、一昨年は全学平均より低かったが今年は異なる結果となった。これは専門演習の方が入門演習よりも出席率が良いからであろうと考えられる。

上述の通り昨年度は他の4学部に見られる「講義科目の出席率は演習科目の出席率を下回る」という一般的傾向に反し、講義科目の方が演習科目よりも出席率が高かったが、今年度は演習科目の出席率(4.73)の方が講義科目の出席率(4.62)よりも高くなった。今年度は講義科目も演習科目も出席率が昨年度よりも上昇したが、その上昇幅が演習科目の方が高くなっていた。今年度からは演習科目に専門演習が加わったことが演習科目の大幅な出席率向上に影響していると考えられる。

また、昨年度、一昨年度に続き「講義科目よりも演習科目の方が学生の評価が高い」という一般的傾向が、本学部の演習科目の場合にも示された。全ての項目において、講義科目よりも高い数値が示された。また、昨年度、一昨年度は授業外学習時間以外の全項目において全学平均よりも低い傾向があったが、今年度は全学平均よりもほぼ同じが少し高くなる傾向が見られた。これは専門演習の評価が高いことが影響しているのではないかと考えられる。特に、授業外学習時間(Q3)は全学平均よりも0.22高く、学生が授業外で授業の課題に取り組む授業作りができていないのではないかと考えられる。

表V-2 国際社会科学部 演習科目の授業評価アンケート 平均値(科目ベース)

	2016年度		2017年度		2018年度	
	国際社会 科学部	全学平均	国際社会 科学部	全学平均	国際社会 科学部	全学平均
Q1 出席率	4.64	4.67	4.57	4.68	4.73	4.70
Q2 意欲度	4.17	4.38	4.05	4.37	4.36	4.36
Q3 授業外学習時間	—	—	2.93	2.87	3.00	2.78
Q4-1 授業のレベルの適切さ	4.21	4.39	4.04	4.32	4.36	4.31
Q5-1 授業を進める速さの適切さ	4.20	4.45	4.06	4.41	4.39	4.41
Q6 教員の熱意	4.51	4.63	4.42	4.63	4.60	4.61
Q7 集中できる授業環境への配慮	4.36	4.56	4.37	4.56	4.56	4.56
Q8 授業の理解しやすさ	4.28	4.52	4.25	4.52	4.58	4.51
Q9-1 教員の話し方の適切さ	4.39	4.56	4.40	4.55	4.59	4.55
Q10 知的好奇心を刺激したか	4.07	4.46	4.02	4.43	4.39	4.43
Q11 シラバスとの合致	4.35	4.51	4.31	4.48	4.47	4.49
Q12 総合評価	4.23	4.54	4.16	4.54	4.48	4.52
Q15 活発な発言や議論の促進	4.56	4.52	4.45	4.50	4.64	4.52
Q16 課題の取り組みへの支援	4.45	4.52	4.36	4.51	4.59	4.53
アンケート実施率	100.00%		100.00%		97.78%	
回答率	87.50%	80.79%	82.85%	82.00%	83.86%	83.20%

C. 英語科目

英語科目の今年度のアンケートの実施率は99.3%となり、昨年度よりも高く、ほぼ100%の実施率となっている。アンケートの回答率は83.3%であり、一昨年度の回答率よりは低いものの、昨年度の回答率とほぼ同じとなっている。

本年度の結果において、英語科目への出席率(Q1)は全学平均をほんの少し上回り、前年度と比べて上昇した。授業への意欲的な取り組み(Q2)も昨年度、一昨年度に続き全学平均よりも高く、演習科目の意欲度とほぼ同じで、講義科目の意欲度より高い結果となっている。その他の項目についても昨年度、一昨年度に引き続き全学平均よりも少し高いかほぼ同じ結果となっている。特に授業外学習時間(Q3)は昨年度に続き全学平均よりもかなり高い結果となっており、受講生が授業外で課題にしっかり取り組んでいることがうかがえる。

特筆すべきは学生の総合的な評価(Q12)が、全学平均を若干下回った昨年度、一昨年度とは違い、若干上回る結果となったことである。講義科目、演習科目と共に過去3年間の授業改善の努力が実を結んできたと考えられる。

表V-3 国際社会科学部 英語科目の授業評価アンケート 平均値(科目ベース)

	2016年度		2017年度		2018年度	
	国際社会 科学部	全学平均 (語学)	国際社会 科学部	全学平均 (語学)	国際社会 科学部	全学平均 (語学)
Q1 出席率	4.67	4.63	4.59	4.62	4.70	4.66
Q2 意欲度	4.35	4.21	4.21	4.10	4.37	4.18
Q3 授業外学習時間	—	—	3.02	2.49	3.14	2.52
Q4-1 授業のレベルの適切さ	4.22	4.22	4.03	4.07	4.17	4.16
Q5-1 授業を進める速さの適切さ	4.29	4.29	4.14	4.17	4.28	4.25
Q6 教員の熱意	4.60	4.53	4.50	4.46	4.54	4.51
Q7 集中できる授業環境への配慮	4.45	4.43	4.39	4.38	4.48	4.44
Q8 授業の理解しやすさ	4.40	4.38	4.33	4.33	4.39	4.37
Q9-1 教員の話し方の適切さ	4.42	4.40	4.33	4.35	4.44	4.39
Q10 知的好奇心を刺激したか	4.08	4.12	4.03	4.05	4.12	4.11
Q11 シラバスとの合致	4.36	4.38	4.28	4.30	4.40	4.34
Q12 総合評価	4.32	4.36	4.24	4.28	4.32	4.33
Q13 板書やスライドの適切さ	4.42	4.33	4.27	4.25	4.37	4.32
Q14 教材の内容の適切さ	4.37	4.38	4.26	4.31	4.37	4.38
Q15 活発な発言や議論の促進	4.47	4.38	4.39	4.32	4.45	4.38
Q16 課題の取り組みへの支援	4.46	4.38	4.33	4.30	4.41	4.36
Q17 授業のねらいが明確か	4.27	4.29	4.25	4.24	4.33	4.29
Q18 教員は授業時間を有効に活用	4.34	4.36	4.28	4.30	4.38	4.36
アンケート実施率	100.00%		91.79%		99.28%	
回答率	88.40%	82.79%	84.72%	82.74%	83.34%	83.90%

2. 今後の授業改善に向けて

学部の完成年度まで後一年あり、新学部としての試行錯誤がまだ続いているが、この3年間は講義科目、演習科目、英語科目全てにおいて、改善傾向がみられていることは喜ばしいことである。

今年度も、社会科学担当教員、英語担当教員、それぞれにカリキュラムや授業の進め方に関する会合を数多く持ち、活発な意見交換を行ってきた。また、講義科目・留学科目・英語科目に関して、多くの教員が学部のポータルサイト (Moodle) 等を通じて独自にアンケートを実施した。本アンケート結果を含め、3年間の経験から得られた教訓に基づき、教員各自が授業改善の工夫を行うとともに、完成年度に向けて、教員間でも情報共有を積極的に行う予定である。また今後も通常の教務と並行しつつ、教員のタスクチームを作って個々の課題に対処していきたい。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

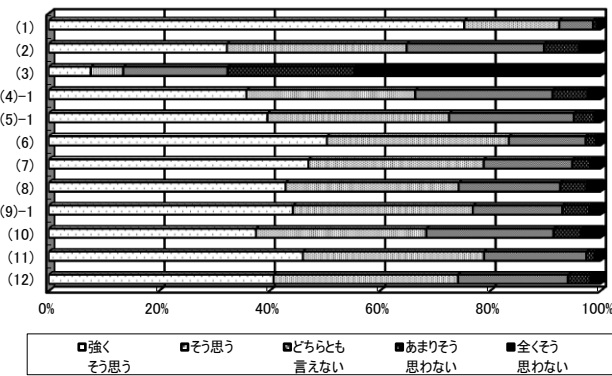
部門名 国際社会科学部

	合計	総履修者数	回答率
回答数	4,051	9,008	44.97%

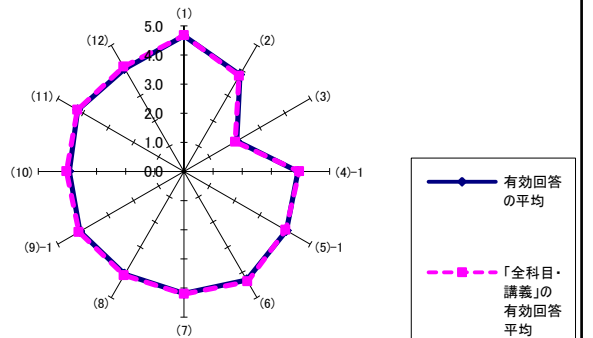
形態名 講義

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	3,045 75.17%	695 17.16%	249 6.15%	30 0.74%	23 0.57%	9 0.22%	4,051 100.00%	4.66	0.679	4.62	0.195
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,299 32.07%	1,308 32.29%	1,002 24.73%	256 6.32%	154 3.80%	32 0.79%	4,051 100.00%	3.83	1.070	3.81	0.298
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	302 7.45%	233 5.75%	747 18.44%	913 22.54%	1,762 43.50%	94 2.32%	4,051 100.00%	2.09	1.244	2.14	0.317
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	1,439 35.52%	1,229 30.34%	998 24.64%	258 6.37%	91 2.25%	36 0.89%	4,051 100.00%	3.91	1.030	3.80	0.409
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	288 82.52%	41 11.75%	-	-	-	20 5.73%	349 100.00%	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	1,593 39.32%	1,323 32.66%	908 22.41%	149 3.68%	45 1.11%	33 0.81%	4,051 100.00%	4.06	0.932	4.01	0.321
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	140 72.16%	35 18.04%	-	-	-	19 9.79%	194 100.00%	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	2,028 50.06%	1,326 32.73%	559 13.80%	76 1.88%	32 0.79%	30 0.74%	4,051 100.00%	4.30	0.836	4.28	0.232
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	1,881 46.43%	1,269 31.33%	641 15.82%	130 3.21%	74 1.83%	56 1.38%	4,051 100.00%	4.19	0.945	4.19	0.320
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	1,729 42.68%	1,263 31.18%	740 18.27%	194 4.79%	100 2.47%	25 0.62%	4,051 100.00%	4.07	1.012	4.01	0.381
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	1,756 43.35%	1,293 31.92%	643 15.87%	196 4.84%	78 1.93%	85 2.10%	4,051 100.00%	4.12	0.982	4.06	0.373
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	72 26.28%	10 3.65%	162 59.12%	-	-	30 10.95%	274 100.00%	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	1,510 37.27%	1,240 30.61%	926 22.86%	202 4.99%	140 3.46%	33 0.81%	4,051 100.00%	3.94	1.057	3.88	0.320	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 42.14%)	952 23.50%	678 16.74%	383 9.45%	32 0.79%	21 0.52%	278 6.86%	4,051 100.00%	4.21	0.868	4.23	0.249	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	1,642 40.53%	1,347 33.25%	802 19.80%	164 4.05%	73 1.80%	23 0.57%	4,051 100.00%	4.07	0.963	4.02	0.319	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	1,919 47.37%	1,239 30.59%	548 13.53%	138 3.41%	84 2.07%	123 3.04%	4,051 100.00%	4.21	0.957	4.21	0.331
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	1,811 44.71%	1,237 30.54%	666 16.44%	118 2.91%	76 1.88%	143 3.53%	4,051 100.00%	4.17	0.948	4.15	0.324

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

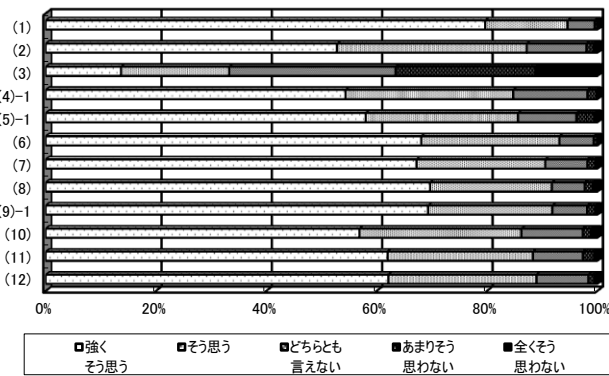
部門名 国際社会科学部

形態名 演習

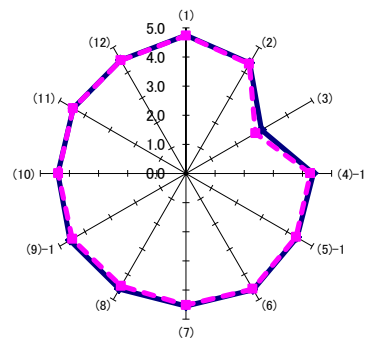
	合計	総履修者数	回答率
回答数	613	731	83.86%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース					
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	486	91	30	3	0	3	613	4.74	0.567	4.73	0.222	
			79.28%	14.85%	4.89%	0.49%	0.00%	0.49%	100.00%					
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	318	207	65	8	4	11	613	4.37	0.781	4.36	0.305	
			51.88%	33.77%	10.60%	1.31%	0.65%	1.79%	100.00%					
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	83	119	183	154	68	6	613	2.99	1.203	3.00	0.597	
			13.54%	19.41%	29.85%	25.12%	11.09%	0.98%	100.00%					
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	331	185	82	10	1	4	613	4.37	0.789	4.36	0.338	
			54.00%	30.18%	13.38%	1.63%	0.16%	0.65%	100.00%					
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易しすぎる	8	2	-	-	-	-	11	-	-	-	-	
			72.73%	18.18%	-	-	-	-	9.09%	100.00%				
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	351	167	64	20	3	8	613	4.39	0.842	4.39	0.382	
			57.26%	27.24%	10.44%	3.26%	0.49%	1.31%	100.00%					
(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	12	8	-	-	-	-	3	23	-	-	-	-	
		52.17%	34.78%	-	-	-	-	13.04%	100.00%					
(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	416	153	38	4	0	2	613	4.61	0.635	4.60	0.284		
		67.86%	24.96%	6.20%	0.65%	0.00%	0.33%	100.00%						
(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	406	141	46	9	2	9	613	4.56	0.727	4.56	0.336		
		66.23%	23.00%	7.50%	1.47%	0.33%	1.47%	100.00%						
(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	423	134	36	9	5	6	613	4.58	0.742	4.58	0.398		
		69.00%	21.86%	5.87%	1.47%	0.82%	0.98%	100.00%						
(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	416	135	38	9	2	13	613	4.59	0.707	4.59	0.328		
		67.86%	22.02%	6.20%	1.47%	0.33%	2.12%	100.00%						
(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	1	1	7	-	-	-	2	11	-	-	-	-	
		9.09%	9.09%	63.64%	-	-	-	18.18%	100.00%					
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	343	177	67	9	7	10	613	4.39	0.831	4.39	0.394		
		55.95%	28.87%	10.93%	1.47%	1.14%	1.63%	100.00%						
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 34.91%)	212	90	31	7	2	57	613	4.47	0.791	4.47	0.378		
		34.58%	14.68%	5.06%	1.14%	0.33%	9.30%	100.00%						
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	377	163	57	7	3	6	613	4.49	0.753	4.48	0.414		
		61.50%	26.59%	9.30%	1.14%	0.49%	0.98%	100.00%						
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	404	136	29	2	2	40	613	4.64	0.629	4.64	0.293	
			65.91%	22.19%	4.73%	0.33%	0.33%	6.53%	100.00%					
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	387	144	34	5	3	40	613	4.58	0.691	4.59	0.363	
		63.13%	23.49%	5.55%	0.82%	0.49%	6.53%	100.00%						

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 経年変化比較表

部門名 国際社会科学部
形態名 語学

回答対象	番号	質問内容	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度			
			回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース	
			学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	-	-	-	-	-	-	-	4.68	0.62	4.67	0.24	4.61	0.721	4.59	0.260	4.70	0.618	4.70	0.232	
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	-	-	-	-	-	-	-	4.36	0.77	4.35	0.26	4.22	0.868	4.21	0.314	4.38	0.785	4.37	0.268	
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に 使った時間(予習復習・課題作成等を含む)は、 1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.04	1.187	3.02	0.553	3.16	1.162	3.14	0.553	
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	-	-	-	-	-	-	-	-	4.23	0.91	4.22	0.33	4.04	0.971	4.03	0.412	4.16	0.986	4.17	0.430
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	-	-	-	-	-	-	-	-	4.30	0.85	4.29	0.34	4.15	0.895	4.14	0.418	4.27	0.886	4.28	0.415
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	-	-	-	-	-	-	-	-	4.61	0.65	4.60	0.27	4.51	0.712	4.50	0.289	4.55	0.743	4.54	0.324
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように 配慮している	-	-	-	-	-	-	-	-	4.47	0.74	4.45	0.29	4.40	0.775	4.39	0.325	4.48	0.802	4.48	0.370
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	-	-	-	-	-	-	-	-	4.41	0.83	4.40	0.39	4.34	0.861	4.33	0.446	4.39	0.920	4.39	0.530
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は 適切である	-	-	-	-	-	-	-	-	4.43	0.85	4.42	0.40	4.35	0.874	4.33	0.458	4.44	0.858	4.44	0.443
	(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいもの見方が得られたりした	-	-	-	-	-	-	-	-	4.08	1.00	4.08	0.37	4.02	1.001	4.03	0.395	4.12	0.988	4.12	0.440
	(11)	この授業は、シラバスに示されていた 授業内容と合致している	-	-	-	-	-	-	-	-	4.37	0.77	4.36	0.32	4.29	0.831	4.28	0.381	4.40	0.781	4.40	0.344
	(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	-	-	-	-	-	-	-	-	4.33	0.87	4.32	0.38	4.25	0.901	4.24	0.422	4.32	0.917	4.32	0.494
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	-	-	-	-	-	-	-	4.43	0.76	4.42	0.32	4.27	0.826	4.27	0.375	4.36	0.861	4.37	0.442	
	(14)	教材(教科書、配布資料等)の内容は 適切である	-	-	-	-	-	-	-	4.37	0.81	4.37	0.29	4.27	0.837	4.26	0.353	4.36	0.847	4.37	0.372	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が発表に発言や議論が行えるよう 心がけていた	-	-	-	-	-	-	-	4.47	0.74	4.47	0.30	4.39	0.796	4.39	0.333	4.45	0.800	4.45	0.378	
	(16)	教員は参加者が課題に取り組みの助けを 助けた	-	-	-	-	-	-	-	4.47	0.73	4.46	0.28	4.34	0.844	4.33	0.381	4.41	0.835	4.41	0.405	
「語学」 のみ	(17)	1回1回の授業のねらいが明確である	-	-	-	-	-	-	-	4.28	0.91	4.27	0.40	4.24	0.907	4.25	0.387	4.33	0.886	4.33	0.415	
	(18)	教員は授業時間を有効に活用している	-	-	-	-	-	-	-	4.35	0.83	4.34	0.34	4.28	0.865	4.28	0.400	4.38	0.855	4.38	0.406	

VI. 計算機センター

計算機センターでは、初等情報処理 1・2、情報処理入門 1・2、情報数理解析入門 1・2、情報処理 2・3・4 の 9 科目に対して、92 クラスを提供しており、うち、初等情報処理科目は 78% に当たる 72 クラスを占める。

初等情報処理科目は、大学生活を送る上で必要となる知識を含む基本的な情報リテラシーを教育することが目的であり、この科目で単位を取得することが、キャンパスネットワークを含む、学内計算資源を利用するための条件となっていることから、当該科目を必修とする学科も多く、履修する学生数も多い。このため、アンケートの集計結果は、初等情報処理科目に対する結果に支配的に影響されているものと考えられる。この事実を踏まえて、アンケートの集計結果を評価していく。

平均 4.0 を一応の目安と考えると、平均が 4.0 を超えた項目は 6 項目であった。平均が最も高かった項目は、項目 1 の出席率を問うものであって、4.78 にも達し、これは前述したように初等情報処理が実質的に必修科目となっていることから説明できる。

一方、アンケート項目のうちで平均が 4.0 を下回った項目は、2、3、4、5、8、9、10、12 の 8 項目である。これらの項目について順に考察を行う。

項目 2 は授業への取り組みが意欲的であったかを問うもので、3.95 と基準に近い。教員は、可能な限り学生が興味を持って受講できるように工夫をしているが、初等情報処理の性格上、抗議するべき内容が多岐にわたり、単一のテーマを深く掘り下げることが時間的に難しく、また、原則・規則や倫理に関わる内容も多く、学生の知的好奇心を惹起するような内容になりにくい。この点で考えると、平均が悪くなるのも致し方なく、3.95 という数字は、却って、出来るだけ講義への興味を喚起しようとする教員の健闘の証であると考ええる。

項目 3 は授業時間外でどれくらい学習を行ったかを問う項目で、2.01 と極めて低い値を示している。これは、授業時間外で行う課題が少ないことを直接的に示しているが、初等情報処理科目が学生の大学生活を支援するという性質を持っている以上、必要以上に課題を出して学生の負担を増やし、他の科目の履修の妨げになることは望ましくないであろうという教員の配慮があるものと理解する。加えて、初等情報処理で学生が学ぶ内容は、その場で理解を深めるというよりは、大学生活の場面場面で思い出して、その意味を具体的に再認識するという性質のものが多いので、多くの課題を出すことが必ずしも教育上効果的であるとは限らない。

項目 4 と項目 5 への回答結果では、授業の内容が難しすぎ、かつ、早すぎるという結果が示されている。初等情報処理では、学生の情報・ネットワーク・計算機に対するリテラシーは大きくばらつき、一方、大学の計算機資源を利用するための最低限のリテラシーの獲得がこの科目の目的であることを考えると、授業の基準は比較的リテラシーの低い学生

に合わせざるを得ない。このことから、授業内容がすでに知っていることであると感じる学生は相当数いる筈であるが、それでも授業に不満を持つ学生の80%超が「難しすぎる」・「速すぎる」という回答している事実は、さらに授業のレベルを下げた方が望ましいということを示唆しているとも考えられる。センター内で議論を行う必要がある。

項目8および9は授業の理解のしやすさに関するもので、3.84、3.92と4.0を下回っているものの、問題として取り上げるレベルではないと考えられる。

項目10は、授業が知的好奇心を喚起する内容かという問いであるが、平均は3.65と非常に低い。しかしながら、前述のように、原則・規則・倫理を学生に知らしめることが初等情報処理科目のミッションの柱の一つであるので、この項目の点数が低いのは致し方ないことと考えられる。

総じて述べると、授業アンケートの結果からは、初等情報処理科目における講義のレベル想定が適正であるか、学生の「難しすぎる」・「速すぎる」という声に対応する必要があるか、という課題が得られた。センター内で議論を行う機会を設けていく。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

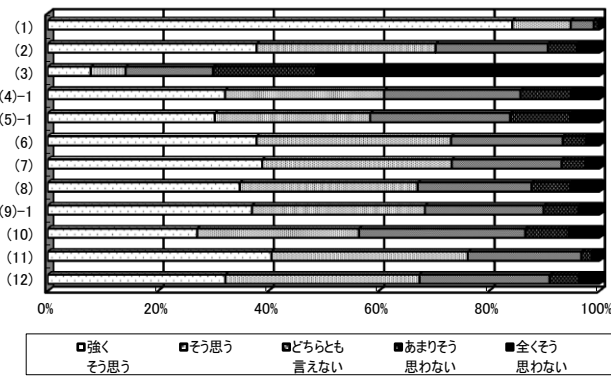
部門名 計算機センター

	合計	総履修者数	回答率
回答数	3,672	4,696	78.19%

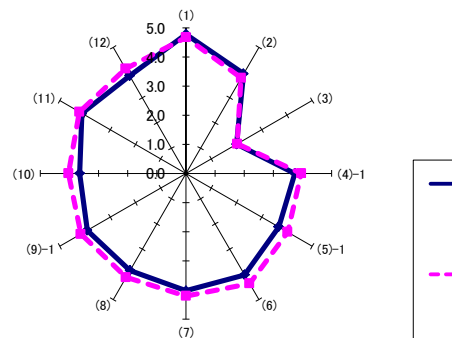
形態名 講義

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	3,087	389	153	30	7	6	3,672	4.78	0.573	4.74	0.203
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,381	1,183	742	194	146	26	3,672	3.95	1.074	3.94	0.341
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	284	229	575	678	1,864	42	3,672	2.01	1.276	2.02	0.489
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	1,177	1,056	903	335	189	12	3,672	3.74	1.153	3.70	0.597
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	448	60	-	-	-	16	524	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	1,106	1,028	926	401	190	21	3,672	3.67	1.165	3.66	0.523
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	502	66	-	-	-	23	591	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	1,381	1,285	738	152	90	26	3,672	4.02	0.985	4.02	0.511
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	1,414	1,248	724	157	92	37	3,672	4.03	0.994	4.04	0.460
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	1,271	1,177	753	260	190	21	3,672	3.84	1.133	3.83	0.622
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	1,334	1,129	774	230	135	70	3,672	3.92	1.082	3.93	0.490
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	188	16	146	-	-	15	365	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	990	1,071	1,101	288	203	19	3,672	3.65	1.124	3.70	0.468	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 42.84%)	789	692	400	37	27	154	3,672	4.12	0.893	4.10	0.374	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	1,177	1,285	861	197	133	19	3,672	3.87	1.041	3.87	0.535	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	1,441	1,160	609	149	74	239	3,672	4.09	0.978	4.09	0.466
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	1,471	1,159	603	102	85	252	3,672	4.12	0.967	4.11	0.427
			40.06%	31.56%	16.42%	2.78%	2.31%	6.86%	100.00%				

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 形態名 計算機センター 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.266(**)	1												
Q3	.042(*)	.229(**)	1											
Q4	.105(**)	.376(**)	.080(**)	1										
Q5	.089(**)	.320(**)	.057(**)	.770(**)	1									
Q6	.105(**)	.385(**)	.118(**)	.512(**)	.531(**)	1								
Q7	.106(**)	.396(**)	.116(**)	.518(**)	.540(**)	.755(**)	1							
Q8	.085(**)	.374(**)	.056(**)	.666(**)	.686(**)	.714(**)	.737(**)	1						
Q9	.087(**)	.328(**)	.055(**)	.580(**)	.675(**)	.638(**)	.669(**)	.763(**)	1					
Q10	.101(**)	.458(**)	.191(**)	.531(**)	.514(**)	.592(**)	.594(**)	.623(**)	.565(**)	1				
Q11	.037(*)	.235(**)	.237(**)	.236(**)	.240(**)	.266(**)	.275(**)	.264(**)	.240(**)	.294(**)	1			
Q12	.094(**)	.420(**)	.093(**)	.657(**)	.662(**)	.717(**)	.731(**)	.812(**)	.733(**)	.714(**)	.302(**)	1		
Q13	.085(**)	.347(**)	.069(**)	.553(**)	.571(**)	.630(**)	.646(**)	.710(**)	.631(**)	.567(**)	.270(**)	.722(**)	1	
Q14	.089(**)	.332(**)	.079(**)	.555(**)	.550(**)	.609(**)	.624(**)	.657(**)	.584(**)	.551(**)	.270(**)	.687(**)	.816(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 経年変化比較表

部門名 計算機センター
形態名 講義

回答対象	番号	質問内容	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度			
			回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース	
			学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	4.75	0.602	4.69	0.247	4.76	0.585	4.71	0.229	4.78	0.580	4.71	0.252	4.79	0.546	4.74	0.221	4.78	0.573	4.74	0.203
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	3.88	0.967	3.86	0.316	4.00	0.988	3.99	0.346	4.07	0.984	4.07	0.311	3.93	1.056	3.94	0.302	3.95	1.074	3.94	0.341
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に 使った時間(予習復習・課題作成等を含む)は、 1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.15	1.351	2.20	0.522	2.01	1.276	2.02	0.489
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	3.73	1.059	3.70	0.403	3.78	1.130	3.74	0.561	3.81	1.150	3.82	0.500	3.74	1.140	3.70	0.518	3.74	1.153	3.70	0.597
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	3.62	1.117	3.62	0.390	3.73	1.112	3.73	0.530	3.73	1.164	3.77	0.459	3.70	1.154	3.68	0.505	3.67	1.165	3.66	0.523
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	3.77	1.005	3.82	0.387	3.97	1.005	4.01	0.487	4.04	0.979	4.10	0.424	3.97	0.993	3.98	0.399	4.02	0.985	4.02	0.511
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように 配慮している	3.91	0.981	3.96	0.346	3.98	0.998	4.03	0.434	4.07	0.965	4.13	0.359	3.98	1.006	4.00	0.399	4.03	0.994	4.04	0.460
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	3.74	1.107	3.75	0.447	3.83	1.127	3.83	0.610	3.85	1.146	3.88	0.553	3.84	1.126	3.83	0.531	3.84	1.133	3.83	0.622
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は 適切である	3.81	1.056	3.85	0.408	3.93	1.050	3.96	0.488	3.94	1.064	3.99	0.410	3.92	1.072	3.94	0.405	3.92	1.082	3.93	0.490
	(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいもの見方が得られたりした	3.60	1.089	3.66	0.337	3.64	1.104	3.71	0.459	3.68	1.118	3.78	0.439	3.64	1.122	3.69	0.379	3.65	1.124	3.70	0.468
	(11)	この授業は、シラバスに示されていた 授業内容と合致している	3.65	1.027	3.65	0.373	4.12	0.864	4.13	0.353	4.21	0.853	4.22	0.285	4.09	0.898	4.09	0.308	4.12	0.893	4.10	0.374
	(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	3.75	1.023	3.79	0.408	3.86	1.046	3.89	0.545	3.87	1.065	3.95	0.479	3.85	1.058	3.86	0.473	3.87	1.041	3.87	0.535
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	3.94	1.000	3.94	0.387	4.03	0.970	4.01	0.473	4.12	0.956	4.15	0.382	4.08	0.986	4.07	0.399	4.09	0.978	4.09	0.466
	(14)	教材(教科書、配布資料等)の内容は 適切である	3.97	0.958	3.97	0.359	4.07	0.948	4.05	0.433	4.12	0.943	4.14	0.348	4.11	0.955	4.09	0.373	4.12	0.967	4.11	0.427

Ⅶ. 外国語教育研究センター

1. 集計データからわかること

外国語教育研究センターの授業評価アンケート実施率は、平成 29 年度は対象とする 517 科目に対して実施は 500 科目であり、96.71%であったが、平成 30 年度は対象とする 508 科目に対して実施は 503 科目であり、99.02%となった。平成 29 年度は未実施科目が 17 科目であったのに対し、平成 30 年度は 5 科目となり、改善がなされた。

回答率については、平成 30 年度は前年度の 82.32%から 1.72 ポイント上昇の 84.04%であり、この 5 年間はほぼ 78%以上の数値で推移している。語学科目が、のべ 11,000 人を超える総履修者でも他学部・課程の演習科目並みの回答率を得ているのは、授業の規模が小さいこととの関連が考えられる。

全体として、前年度と比べ、科目ベースでいずれの項目においても上昇を示す結果となっているが、大きな変化は見られない。以下、各項目に関して分析結果を示す。

Q1「私のこの授業への出席率は」

この項目の科目ベースの平均値は 4.65 となっており、前年度に比べて 0.03 上昇した。過去の授業評価アンケートと同様に、4.5 を上回る高い数値となっている。これは、語学が必修科目となっていることだけではなく、3分の2以上出席しなくてはならないという規定が学生に広く認識され、授業において教員による出席確認も十分に行われているためであると思われる。また、40 人以下という比較的少人数で授業が実施されていることも学生の高い出席率に結びついていると思われる。

なお、平成 30 年度は 379 科目 (61.63%) が履修者 25 名以下のクラスで、236 科目 (38.38%) が履修者 26~65 名のクラスであった。平成 29 年度は 350 科目 (58.14%) が履修者 25 名以下のクラスであった。従って、前年度に比べ、1 クラスの人数増大傾向はいくぶん緩和した。

Q2「私はこの授業に意欲的に取り組んでいる」

この項目は、平成 29 年度に科目ベースで平均値 4.07 であったが、平成 30 年度には平均値 4.13 と上昇した。また、平成 29 年度は 74.9%の学生が意欲的に取り組んでいると回答した（「強くそう思う」、「そう思う」）のに対し、平成 30 年度は 77.32%と 2.42 ポイント高くなっている。「強くそう思う」という回答が平成 29 年度では 37.46%、平成 30 年度は 40.89%であり、こちらも 3.43 ポイント上回っている。学生が意欲的に授業に取り組めるような教員の工夫が功を奏したのも一因と思われる。引き続き、課題や小テスト等により、学生自身が授業に意欲的に取り組んでいることを自覚できる環境づくりを進めていく必要がある。

Q3 「私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間」

この項目は、3時間以上が前年度 7.38%から 0.4 ポイント低下し 6.98%、2時間以上3時間未満が前年度 7.81%から 0.04 ポイント低下し 7.77%、1時間以上2時間未満が前年度 25.01%から 0.22 ポイント低下し 24.79%、30分以上1時間未満が前年度 28.44%から 1.14 ポイント増加し 29.58%、30分未満が前年度 29.75%から 0.15 ポイント低下し 29.60%という結果になった。語学は日々の積み重ねが重要であるため、1時間以上が概ね低下し、30分未満がおよそ3割という数値は改善が望まれる。ここでもやはり、課題や小テストなどにより、学生自身が普段から語学修得に取り組むよう教員が工夫することが必要であろう。

Q4-1 「この授業のレベルは適切である」

Q4-2 「授業のレベルについて、どのように感じましたか」

Q4-1 に関しても適切であると回答した（「強くそう思う」、「そう思う」）学生の割合も、前年度 74.21%から 3.2 ポイント上昇し、77.41%となっている。開講されている授業のレベルは概ね適切なものと言えよう。

Q4-2 に関しては、上の設問で否定的な回答をした者のうち、平成 29 年度は「難しすぎる」67.36%、「易しすぎる」29.32%、無回答 3.32%であったが、平成 30 年度は「難しすぎる」72.73%、「易しすぎる」24.11%、無回答 3.16%となり、前年度に比べ難しすぎると感じている学生が若干増えている。いずれにせよ、のべ 506 名の学生が、授業のレベルに不満を感じており、習熟度別クラスなどが今後増やせれば、改善ができるかもしれない。

Q5-1 「この授業を進める速さは適切である」

Q5-2 「授業を進める速さについて、どのように感じましたか」

この項目も、肯定的な回答をする学生の割合は 80.93%であり、前年度 78.53%より 2.4 ポイント上昇している。否定的な回答も 4.11%となっていることから、概ね適切な速さで授業が進められていると考えることができる。「どちらとも言えない」という回答は、数値が前年度よりも 2.37 ポイント低くなっている。

Q6 「教員は熱意を持って授業を行っている」

この項目の科目ベースの平均値は 4.50 で、前年度 4.45 を 0.05 上回り、肯定的な回答の割合も 89.84%と前年度 89.1%よりわずかに上昇した。否定的な回答の割合は 1.59%と前年度 1.74%とほぼ同程度に留まっており、前年度同様に熱意をもって授業を行っている教員が多いと学生に認められていると考えてよいだろう。

Q7 「教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している」

この項目も、肯定的な回答の割合は 86.94%であり、前年度の 85.84%よりやや高い数値となっている。肯定的な回答が 85%を超えているということから、概ね授業環境は良好といえそうである。

Q8「教員は理解しやすい授業を行っている」

この項目の科目ベースの平均値は 4.36 であり、前年度の 4.33 を上回り、過去最高であった平成 28 年度の 4.37 に近づいた。肯定的な回答の割合が 84.5%と、前年度 84.26%より 0.24 ポイント上昇している。引き続きさらなる工夫をしていく必要があるだろう。

Q9-1「教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である」

この項目は科目ベースの平均値が 4.38 となっており、前年度を 0.02 上回った。また、肯定的な回答の割合が 84.09%で、前年度 83.97%より 0.12 ポイントの上昇が見られる一方、否定的な回答の割合も 3.63%と前年度 3.28%より 0.35 ポイントの上昇を示している。この項目については、ここ数年にわたって見ると数値の変化は小さくなく、教員は概ね適切な話し方をしていると考えてよいだろう。ただ、「どちらとも言えない」という回答も 10.66%あり、教員が話し方を改善すべき余地はまだ残されていると思われる。

具体的には、Q9-2 を見ると改善方法が分かる。およそ 3%にあたる者が回答しているが、「速すぎる」と答えた者が 126 名（9,898 名中）、「その他／聞き取りにくい」と答えた者が 189 名（9,898 名中）であった。外国語教育研究センターの授業は、日本人教員による日本語、日本人教員による外国語、外国人教員による外国語、外国人教員による日本語など多様であるため、具体的に何が速すぎ、何が聞き取りにくいのかは一概にはいえないが、個々の教員がアンケートの結果から改善してくれることを期待する。

例年、Q9 と Q8 の相関係数の値は高く、理解しやすい授業であることと教員の話し方が適切であることは関連性が高いことが分かる。これは、教員の話し方の工夫により学生の理解度が上がることを意味しており、教員がさらに適切な話し方をすることが求められるであろう。

Q10「この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした」

この項目は、科目ベースの平均値が 4.10 で、前年度 4.05 より 0.05 上昇した。肯定的な回答の割合も 73.87%と前年度の 72.44%から 1.43 ポイント上昇し、否定的な回答の割合は 5.97%で昨年度の 6.28%から 0.31 ポイント下降した。また「どちらとも言えない」の数値は 19.72%で前年度より 1.09 ポイント下降している。いずれも改善に向かいつつあるが、引き続きさらなる工夫をしていく必要があるだろう。

初習言語の場合、基礎的な発音練習や会話練習、文法練習に時間が割かれることが多く、知的好奇心が刺激される段階まではなかなか達しにくいことも影響していると思われる。そのような状況の中で、学生の知的好奇心を刺激し、新しいものの見方に触れる機会を作

るためには、その言語が使用されている国の様子や文化的特徴を示している映画やビデオ、写真等を活用していくことが一つの手段となるであろう。ビジュアルな情報を用いることにより、学生が訪れたことがない文化圏であっても、学生の興味、関心を高めることが可能となり、実際に訪れるきっかけになることもあると思われるからである。

Q11「この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」

この項目の平成30年度の科目ベースの平均値は4.33で、前年度4.31を0.02上回ったが、肯定的な回答の割合は44.37%に留まり、この項目が教員に関する評価項目の中では相対的に低い値となっていることも前年度と同様である。また、自分が履修している科目のシラバスを読まなかった学生が41.75%に上る。その原因は、語学科目では、履修する言語・クラスが予め限定されている学科も多いことや、初習言語の場合には、基礎的な会話表現や文法を学ぶということが分かっているために、シラバスを確認しない学生が多いことなどが考えられる。一方、中級以上の科目で履修すべきクラスが指定されていない場合には、シラバスの内容によって履修科目を決定する学生が多いため、今後も履修科目選択の際に役立つシラバス作成が求められるであろう。

Q12「総合的に見てこの授業は高く評価できる」

この項目は、科目ベースの平均値が4.33と前年度4.30より0.03高くなっている。また、肯定的な回答の割合が前年度より0.55ポイント高い84%、否定的な回答の割合が前年度より0.23ポイント低い3.49%と、数値が若干改善した。概ね学生は授業を高く評価しているといえる範囲だろう。

この項目と最も相関が強いのは、Q8「教員は理解しやすい授業を行っている」の.782（相関係数）、次いでQ9「教員の話し方は適切である」の.735、Q7「教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している」の.726、Q18「教員は授業時間を有効に活用している」の.721、Q10「この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした」の.700、Q17「1回1回の授業のねらいが明確である」の.692、Q6「教員は熱意を持って授業を行っている」の.690となっている。つまり、総合的に評価が高い授業とは、毎回のねらいが明確であり、教員の熱意が感じられ、時間の使い方が適切で、かつ話し方が適切で理解しやすく、知的好奇心が刺激される授業であるといえる。このような授業を提供できるようにするには、熱意のある教員をさらに支援できる体制を確立する必要があるだろう。

Q13「板書の仕方やスライドの提示の仕方は適切である」

科目ベースの平均値は4.31となっており、前年度より0.06高く、前々年と同じ数値である。肯定的な回答の割合は全体の79.98%に達し、前年度より1.95ポイント高い。「どちらとも言えない」との回答が12.60%に上ることから、まだ改善の余地があると思われる。授

業における教員の一層の努力と工夫とともに、使用しやすい機器をはじめとするハード面での授業環境の改善もさらに求められるであろう。

Q14 「教材（教科書、配布資料等）の内容は適切である」

科目ベースの平均値は 4.39 と、昨年度より 0.07 上昇した。肯定的な回答の割合も 82.93% であり、前年度の 81.25% より高い。概ね学生の要望や期待を満たすことはできていると思われるが、この数値をさらに高くするためには教員の事前準備を含む一層の努力が求められるであろう。

Q15 「教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた」

科目ベースの平均値は 4.36 であり、前年度 4.31 よりも 0.05 高く、前々年度と同じ値となった。肯定的な回答の割合は 79.16% で、前年度 77% より 2.16 ポイント上昇している。「どちらとも言えない」との回答は 11.16% と前年度よりも 1.87 ポイント低下している。概ね改善傾向にあるが、初習言語の場合はドリル的な練習が多いことから、学生が活発に発言や議論を行っているとは感じ取りにくい場合や、一方で、学生が発言する機会が不十分な可能性もあることから、今後も数値の変動を確認していく必要があるだろう。

Q16 「教員は参加者が課題に取り組むのを助けた」

科目ベースの平均値は 4.35 で、前年度より 0.05 高い数値であった。肯定的な回答の割合は 78.18% で、前年度の 77.18% より 1 ポイント高い。否定的な回答の割合は 3.03% と前年の 3.24% より 0.21 ポイント低くなった。これらのことから教員の多くは学生の学習をしっかり支援していることがうかがえる。この数値をさらに高いものにするためには、例文の暗唱、音読、プレゼンテーションやレポート、グループワーク等、語学の授業ならではの特徴を活かした課題を用いていくことが求められるであろう。

Q17 「1回1回の授業のねらいが明確である」

科目ベースの平均値は 4.28 となり、前年度の 4.24 と比べて若干高い数値となった。同じく肯定的な回答の割合も 75.31% と、前年度の 74.51% よりも 0.8 ポイント上昇している。概ね改善傾向にあるが、講読の授業の場合、一年を通した授業全体としてのねらい・目標は明確であっても、一回一回の授業のねらい・目標は意識されないことも多いと思われる。引き続き教員側が意識的にねらい・目標を明確に示し、学生に伝えていくことも必要となるであろう。

Q18 「教員は授業時間を有効に活用している」

科目ベースの平均値は 4.35 と、前年度 4.31 より 0.04 高い。肯定的な回答の割合も 78.55% と、前年度 77.77% から 0.78 ポイント上昇しており、概ね授業時間は有効に活用されてい

るといえそうである。ただし、無回答が 7.42%と比較的高い数値を示しており、教員がさらに努力を重ねていく必要があるであろう。

2. 今後の授業改善に向けて

外国語教育研究センターが提供している語学科目では、全般的に学生からの評価は肯定的であると考えてよいと思われる。高い数値を示す項目が大半を占めてはいるが、まだ改善の余地がある項目も見受けられる。従って、今後も継続して授業をより良いものにしていくための、教員の努力と環境の整備が求められるだろう。

学生のモチベーションを強化するためには、学部学科の履修規定を見直し、必修単位に認められる語学科目を増やすなどの方法も考えられる。

授業をより良いものにしていくためには、カリキュラムの見直しや、さらなる少人数教育の強化といった大きなものから、指導法の工夫やテキストの選択等の比較的小さな改善まで、様々なレベルの手段がある。中でも、学生の語学力を伸ばしていくには、さらなる少人数教育の徹底が特に重要である。

また、英語に関しては習熟度別クラス編成が必要となってくるであろう。本学ではすべての1年生が入学時に TOEIC を受験しているが、この結果から、入学時の英語習熟度にかんがりの開きが見られるようになっていくことが分かる。この TOEIC のスコアを活用することで、習熟度別クラス編成を行うことが可能である。

習熟度別クラス編成は、平成 27 年度より法学部法学科（1年生）で導入され、現在、法学部と理学部の全学科で実施されているが、結果、担当教員からは授業が行いやすくなったという感想が出ている。学生側から見ても適切な授業レベルを保証するものとして受け入れられているかを確認する必要があるが、全学的に習熟度別クラス編成が行われれば、さらなる教育効果の向上が望めることにもなるだろう。

また、現在の授業評価アンケートはすべてマークシート方式となっており、数値による分析のみが行われている。学生が具体的に何を語学科目に求めているのかを確認するためにも、今後、記述式の項目を取り入れ、学生が具体的な意見を述べる機会を提供することも検討が必要ではないかと思われる。

相関係数表 部門名 外国語教育研究センター
形態名 語学

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18
Q1																		
Q2	.320(**)																	
Q3	.061(**)	.286(**)																
Q4	.125(**)	.425(**)	.095(**)															
Q5	.101(**)	.396(**)	.077(**)	.759(**)														
Q6	.098(**)	.372(**)	.069(**)	.526(**)	.574(**)													
Q7	.086(**)	.383(**)	.076(**)	.546(**)	.607(**)	.771(**)												
Q8	.073(**)	.386(**)	.062(**)	.620(**)	.680(**)	.716(**)	.770(**)											
Q9	.072(**)	.360(**)	.063(**)	.592(**)	.657(**)	.662(**)	.717(**)	.806(**)										
Q10	.082(**)	.446(**)	.147(**)	.534(**)	.551(**)	.579(**)	.603(**)	.632(**)	.593(**)									
Q11	.014	.203(**)	.209(**)	.204(**)	.203(**)	.168(**)	.185(**)	.192(**)	.196(**)	.260(**)								
Q12	.078(**)	.421(**)	.077(**)	.642(**)	.672(**)	.690(**)	.726(**)	.782(**)	.735(**)	.700(**)	.240(**)							
Q13	.068(**)	.364(**)	.076(**)	.543(**)	.589(**)	.617(**)	.647(**)	.686(**)	.652(**)	.568(**)	.204(**)	.659(**)						
Q14	.075(**)	.371(**)	.070(**)	.597(**)	.615(**)	.606(**)	.639(**)	.677(**)	.645(**)	.568(**)	.208(**)	.670(**)	.788(**)					
Q15	.068(**)	.367(**)	.065(**)	.505(**)	.559(**)	.600(**)	.630(**)	.618(**)	.601(**)	.555(**)	.174(**)	.626(**)	.625(**)	.630(**)				
Q16	.058(**)	.370(**)	.060(**)	.532(**)	.578(**)	.633(**)	.666(**)	.671(**)	.642(**)	.593(**)	.181(**)	.678(**)	.670(**)	.670(**)	.768(**)			
Q17	.061(**)	.400(**)	.110(**)	.544(**)	.586(**)	.626(**)	.660(**)	.669(**)	.629(**)	.624(**)	.226(**)	.692(**)	.684(**)	.679(**)	.646(**)	.706(**)		
Q18	.051(**)	.381(**)	.088(**)	.542(**)	.615(**)	.639(**)	.691(**)	.683(**)	.653(**)	.607(**)	.211(**)	.721(**)	.680(**)	.691(**)	.668(**)	.704(**)	.794(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 経年変化比較表

部門名 外国語教育研究センター
形態名 語学

回答対象	番号	質問内容	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度			
			回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース		回答者ベース		科目ベース	
			学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:00%以上 4:30%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	4.58	0.709	4.57	0.243	4.59	0.712	4.56	0.271	4.64	0.669	4.62	0.246	4.65	0.668	4.62	0.239	4.68	0.645	4.65	0.228
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	4.05	0.867	4.08	0.330	4.11	0.847	4.12	0.309	4.18	0.840	4.19	0.296	4.06	0.927	4.07	0.315	4.12	0.927	4.13	0.327
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に 使った時間(予習復習・課題作成等を含む)は、 1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.34	1.199	2.36	0.520	2.32	1.183	2.35	0.527
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	4.13	0.880	4.15	0.401	4.18	0.878	4.18	0.373	4.21	0.892	4.22	0.380	4.06	0.940	4.08	0.402	4.14	0.921	4.15	0.374
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	4.17	0.877	4.20	0.405	4.23	0.863	4.24	0.377	4.28	0.845	4.29	0.365	4.16	0.887	4.17	0.389	4.23	0.882	4.24	0.381
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	4.37	0.776	4.39	0.356	4.48	0.721	4.49	0.316	4.50	0.717	4.52	0.317	4.44	0.747	4.45	0.331	4.49	0.739	4.50	0.308
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように 配慮している	4.31	0.795	4.34	0.326	4.36	0.787	4.38	0.328	4.41	0.784	4.43	0.320	4.35	0.806	4.38	0.346	4.40	0.802	4.43	0.321
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	4.28	0.864	4.31	0.422	4.30	0.863	4.32	0.423	4.35	0.856	4.37	0.411	4.31	0.882	4.33	0.455	4.34	0.880	4.36	0.418
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は 適切である	4.29	0.843	4.32	0.389	4.34	0.835	4.36	0.380	4.38	0.838	4.39	0.395	4.34	0.840	4.36	0.395	4.35	0.856	4.38	0.384
	(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいもの見方が得られたりした	4.06	0.948	4.10	0.430	4.07	0.931	4.10	0.402	4.11	0.936	4.13	0.388	4.02	0.987	4.05	0.432	4.07	0.976	4.10	0.399
	(11)	この授業は、シラバスに示されていた 授業内容と合致している	4.04	0.922	4.06	0.427	4.32	0.788	4.31	0.357	4.39	0.771	4.39	0.363	4.29	0.802	4.31	0.355	4.32	0.818	4.33	0.350
	(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	4.27	0.843	4.29	0.416	4.31	0.845	4.33	0.412	4.35	0.836	4.36	0.399	4.28	0.870	4.30	0.436	4.31	0.866	4.33	0.409
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	4.17	0.860	4.19	0.396	4.23	0.844	4.25	0.376	4.29	0.833	4.31	0.363	4.23	0.863	4.25	0.381	4.29	0.861	4.31	0.347
	(14)	教材(教科書、配布資料等)の内容は 適切である	4.24	0.832	4.26	0.367	4.32	0.810	4.33	0.352	4.37	0.805	4.38	0.343	4.30	0.824	4.32	0.355	4.37	0.823	4.39	0.332
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が発表に発言や議論が行えるよう 心がけていた	4.25	0.872	4.28	0.430	4.29	0.858	4.32	0.411	4.34	0.841	4.36	0.380	4.28	0.875	4.31	0.414	4.34	0.856	4.36	0.395
	(16)	教員は参加者が課題に取り組みの助けをした	4.27	0.850	4.29	0.416	4.29	0.848	4.32	0.401	4.34	0.832	4.36	0.363	4.27	0.863	4.30	0.415	4.32	0.861	4.35	0.383
「語学」 のみ	(17)	1回1回の授業のねらいが明確である	4.17	0.896	4.20	0.419	4.22	0.873	4.25	0.397	4.27	0.869	4.30	0.370	4.21	0.887	4.24	0.403	4.24	0.904	4.28	0.388
	(18)	教員は授業時間を有効に活用している	4.25	0.869	4.27	0.409	4.30	0.847	4.32	0.383	4.34	0.836	4.36	0.359	4.28	0.859	4.31	0.386	4.33	0.865	4.35	0.367

VIII. スポーツ・健康科学センター

1. 項目別

Q1「私のこの授業への出席率は」については、平均値 4.54 ポイントであり、出席率 80% 以上と回答した学生は 88.00%であった。他部門の出席率と比較すると、90%以上と回答した学生は 67.26%でやや低めの値となっている。これは、必修科目であるスポーツ・健康科学Ⅰ・Ⅱと選択科目であるスポーツ・健康科学Ⅲがまとまった形で集計されていることも要因であると考えられる。文学部・理学部1年生及び理学部2年生が主体となるⅠとⅡは、出席率は比較的高いが、全学対象の選択科目であるⅢの履修者は、3・4年生が比較的多く履修しており、就職活動等で欠席がちになることなどが、影響しているものと考えられる。科目の性質を考慮した集計も必要であると考えられる。

Q2「私は、この授業に意欲的に取り組んでいる」については、平均値 4.50 ポイントであった。86.63%の学生が「強く思う」「そう思う」と回答しているが、「どちらともいえない」が 10.33%という点にも着目すべきである。必修科目として履修している学生の中には、単位のためにしかたなく受講している者もいることが予想されるが、そのような学生にとっても必要な知識の習得とともに、充実感や達成感を持ってもらい意欲的に授業に参加してもらえるような工夫が必要であると考えられる。

Q3「私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間（予習復習・課題作成等を含む）は、一週間あたり平均で」は、平均値 1.82 ポイントで、「30分未満」と回答した学生が 73.70%と最も多かった。実技種目であるため、種目の用語やゲームのルールを学習することなどを課題としているが、実際に学習している学生は少ないようである。

Q4「この授業レベルは適切である」については、平均値 4.51 ポイントであった。88.26%の学生が、「強く思う」「そう思う」と回答しているが、「どちらともいえない」が 9.39%、「あまりそう思わない」1.17%も注目すべき点であると思われる。履修する学生はスポーツ経験者から初心者まで、また、体力レベルの高い者から低いものまで巾が広い。実技という特性から、非常に難しいことではあるが、いずれの学生に対しても適切なレベルで授業を展開できるような技量を身に着けることが教員には求められるのではないかと思われる。

Q4-2「授業のレベルについて、どのように感じましたか」については、Q4においてネガティブに回答した 33名のうち 19名（57.58%）が「難しすぎる」、14名（42.42%）が「易しすぎる」と回答している。

Q5「この授業を進める速さは適切である」については、平均値 4.63 ポイントと高い評価を受けている。学生の反応や技術の習得具合、各授業に対するリアクションペーパー等の内容から授業ごとに進度を調整していると思われる。今後も、適切な進度となるよう努めたい。

Q5-2「授業を進める速さについて、どのように感じましたか」については、Q5において

ネガティブに回答した 8 名のうち 3 名 (37.50%) が「速すぎる」、5 名 (62.50%) が「遅すぎる」と回答している。

Q6「教員は熱意を持って授業を行っている」については、平均値 4.74 ポイントと高い評価を受けている。96.00%の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。今後も熱意を持って授業に臨めるようにしていきたい。

Q7「教員は学生が集中できる授業環境になるよう配慮している」については、平均値 4.71 ポイントと高い評価を受けている。95.54%の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。また、「どちらとも言えない」と回答した学生も 3.78%存在しており、引き続き学習にふさわしい状況を保てるよう努めていきたい。

Q8「教員は理解しやすい授業を行っている」については、平均値 4.70 ポイントと高い評価を受けている。94.34%の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。実技科目の特性上、視覚的に課題の情報を捉えることによって、学習が進められることが多いと思われるが、言語による教示や適切な資料の配布など、理解しやすい授業となるよう努めていきたい。

Q9「教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である」については、平均値 4.74 ポイントと高い評価を受けている。95.74%の学生が「強くそう思う」「そう思う」と回答している。グラウンドや体育館、テニスコートといった教場が広く声が届きづらい状況ではあるが、集合のさせ方や話し方に工夫をし、適切な話し方となるよう努めていきたい。

Q9-2「教員の話し方について、どのように感じましたか」については、Q9においてネガティブに回答した 6 名のうち 1 名が「速すぎる」、1 名が「遅すぎる」、4 名が「その他/聞き取りにくい」と回答している。

Q10「この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした」については、平均値 4.46 ポイントと他の項目に比べてやや低めの回答であった。実技種目の特性上、実際の活動に主眼が置かれがちであるが、科学的なトレーニング方法の紹介や、効果的な技能習得方法の提示(様々な練習ドリルの紹介)、スポーツ種目にまつわる歴史やルールの解説など、学生に興味や関心を持たせることも必要であると思われる。教員自身の技量の向上や知識の獲得のために、情報の収集や研修会への参加を積極的に行っていかなければならない。

Q11「この授業はシラバスに示されていた授業内容と合致している」については、平均値 4.64 ポイントであった。シラバスを読まなかったと回答した学生が、46.50%いた。シラバスの記載方法については、工夫を凝らしてきているが、より情報が伝わりやすくすることやシラバスを見てもらえるような工夫も必要であると思われる。

Q12「総合的に見てこの授業は高く評価できる」については、平均値 4.68 ポイントであった。「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計は 94.63%であり、かなり高い評価を受けていると考えられる。今回の評価に甘んじることなく更なる改善に向けて努力していかなければならない。

Q21「運動量は」については、平均値 4.61 ポイントであった。91.92%の学生が「十分」「おおむね十分」と回答している。また、「どちらとも言えない」と回答した学生が 5.04% いる。経験者、初心者、体力のある者ない者ともに十分な運動量を確保できるような授業となるよう努めたい。

Q22「体力・健康状態が改善された」については、平均値は 4.37 ポイントと他の項目と比較してやや低い評価となった。「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計が 80.97%と他の項目に比較してやや低い数値となった。週間頻度 2～3 回の運動実践が体力向上に必要であるとされていることから、週 1 回の授業のみでの効果は小さいと思われる。履修することによって、授業外での自発的な運動実践に結びつく指導ができるよう努めたい。

Q23「運動技術が向上した」については、平均値 4.40 ポイントであった。「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計が 82.92%であった。「どちらとも言えない」と回答した学生が 14.04%おり、また、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は合わせて 3.04%となる。初心者レベルから向上しなかったのか、それともある程度のレベルから向上しなかったのかは、不明である。一斉指導では様々なレベルの学生に対応することは困難ではあるが、より多くの学生の技術が向上するよう努めていきたい。

Q24「履修したスポーツ種目等について新しい知識が得られた」については、平均値 4.52 ポイントであった。「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計が 89.16%であった。

Q25「身体・運動に対する関心が高まった」については、平均値 4.45 ポイントであった。「強くそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計が 85.90%であった。Q9とも関連することであるが、教員自身の技量の向上や知識の獲得のために、情報の収集や研修会への参加を積極的に行っていかなければならない。

Q26「自分の身体の健康・体力の再認識ができた」については、平均値 4.56 ポイントであった。例年、第一学期中に受講者全員を対象として体力テストを実施している。その結果のフィードバックの方法をさらに向上させることによって、この項目に対する認識がさらに深まるものと期待できる。

Q27「自分の生活習慣を見直す機会となった」については、平均値 4.42 ポイントとやや低めの数値であった。学生の時期は一般的に健康に対して無関心なこともあり、授業そのものが本学学生のライフスタイルに及ぼす影響は小さいかもしれないが、授業で運動や栄養・休養の重要性については言及し、健康的な生活習慣が身につくよう指導していきたい。

Q28「施設・用具も含め授業の準備は十分なされていた」については、平均値 4.70 ポイントと比較的高い評価となった。施設については、グラウンドの人工芝化など比較的好条件の中で授業が行われていると考えられるが、雨天時の体育館更衣室から卓球場への移動や、テニスコートにおける暑熱環境下への対策など改善していくべき点もあると考えられる。用具についても、受講者数、破損、劣化具合を考慮して適宜整備していきたい。

2. 学年別

Q23～Q30 の質問項目について、強くそう思うと回答した割合は、学年が高くなるにつれて高くなる傾向がみられた。学部1年生では50%前後、学部4年生では80%前後が強くそう思うと回答している。これは、1年生は文学部・理学部の選択必修として受講している者が多く、基礎体力作りや基本的な技術練習からスタートする科目が多いが、上級生は選択科目として受講している者が多く、試合形式の実技が多く実施されていることなどが影響していると思われる。また、本アンケートに対する姿勢として、低学年ほど真剣に回答しており、上級生になるほど項目を熟読せず「(5)」を機械的にマークして提出しているような様子も感じられ、アンケートの実施に際して、真剣に取り組ませるような配慮も必要ではないかと思われる。

3. 相関係数から

Q1「私のこの授業への出席率は」とQ3「私がこの授業のために、授業時間以外で学習に使った時間は、1週間あたり平均で」、Q11「この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」の間には有意な相関は認められなかった。Q1「私のこの授業への出席率は」とQ22「体力・健康状態が改善された」、Q27「自分の生活習慣を見直す機会となった」の間では5%水準で有意な相関が認められた。それ以外の項目では、相互に1%水準で有意な相関が認められた。相関係数が0.7以上の項目は、Q6「教員は熱意を持って授業を行なっている」とQ7「教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している」Q8「教員は理解しやすい授業を行なっている」、Q9「教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である」、Q7「教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している」とQ8「教員は理解しやすい授業を行なっている」Q9「教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である」、Q8「教員は理解しやすい授業を行なっている」とQ9「教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である」、Q22「体力・健康状態が改善された」とQ23「運動技術が向上した」、Q25「身体や運動に対する関心が高まった」とQ26「自分の身体の健康、体力の再認識ができた」、Q26「自分の身体の健康、体力の再認識ができた」とQ27「自分の生活習慣を見直す機会となった」であった。

4. 経年比較から

過去5年間の経年変化において、特に目立つ変化のある項目はなかった。Q3「私がこの授業のために、授業時間以外で学習に使った時間は、1週間あたり平均で」は、2017年度1.94 から1.89へと低下した。Q27「自分の生活習慣を見直す機会となった」では、2014年度から4.36、4.37、4.39、4.39、4.42とわずかながら上昇傾向が認められた。

相関係数表 部門名 スポーツ・健康科学センター
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16	Q21	Q22	Q23	Q24	Q25	Q26	Q27	Q28	
Q1	1																						
Q2	.286(**)	1																					
Q3	0.047	.184(**)	1																				
Q4	.133(**)	.368(**)	.158(**)	1																			
Q5	.133(**)	.387(**)	.088(**)	.680(**)	1																		
Q6	.104(**)	.330(**)	.072(**)	.510(**)	.588(**)	1																	
Q7	.108(**)	.379(**)	.097(**)	.554(**)	.648(**)	.812(**)	1																
Q8	.092(**)	.341(**)	.087(**)	.558(**)	.648(**)	.745(**)	.820(**)	1															
Q9	.102(**)	.359(**)	.079(**)	.534(**)	.687(**)	.708(**)	.775(**)	.809(**)	1														
Q10	.098(**)	.409(**)	.180(**)	.467(**)	.505(**)	.488(**)	.513(**)	.540(**)	.507(**)	1													
Q11	-.031	.100(**)	.214(**)	.119(**)	.153(**)	.116(**)	.127(**)	.122(**)	.133(**)	.225(**)	1												
Q12	.106(**)	.409(**)	.110(**)	.613(**)	.678(**)	.686(**)	.726(**)	.729(**)	.710(**)	.658(**)	.181(**)	1											
Q15	.083(**)	.322(**)	.163(**)	.391(**)	.445(**)	.442(**)	.465(**)	.488(**)	.427(**)	.498(**)	.154(**)	.494(**)	1										
Q16	.080(**)	.337(**)	.154(**)	.435(**)	.513(**)	.506(**)	.542(**)	.582(**)	.522(**)	.540(**)	.155(**)	.565(**)	.713(**)	1									
Q21	.108(**)	.258(**)	.130(**)	.330(**)	.359(**)	.327(**)	.343(**)	.333(**)	.348(**)	.348(**)	.168(**)	.397(**)	.289(**)	.319(**)	1								
Q22	.085(**)	.345(**)	.201(**)	.364(**)	.391(**)	.393(**)	.411(**)	.419(**)	.379(**)	.522(**)	.222(**)	.485(**)	.439(**)	.437(**)	.555(**)	1							
Q23	.100(**)	.364(**)	.209(**)	.393(**)	.355(**)	.384(**)	.414(**)	.439(**)	.384(**)	.558(**)	.194(**)	.489(**)	.455(**)	.448(**)	.486(**)	.723(**)	1						
Q24	.100(**)	.266(**)	.111(**)	.365(**)	.403(**)	.428(**)	.424(**)	.448(**)	.420(**)	.532(**)	.175(**)	.494(**)	.402(**)	.480(**)	.428(**)	.530(**)	.625(**)	1					
Q25	.073(**)	.395(**)	.180(**)	.411(**)	.448(**)	.404(**)	.439(**)	.472(**)	.439(**)	.618(**)	.180(**)	.548(**)	.454(**)	.483(**)	.438(**)	.658(**)	.690(**)	.675(**)	1				
Q26	.103(**)	.350(**)	.151(**)	.430(**)	.405(**)	.426(**)	.462(**)	.463(**)	.486(**)	.527(**)	.167(**)	.537(**)	.466(**)	.452(**)	.459(**)	.627(**)	.614(**)	.657(**)	.710(**)	1			
Q27	.055(**)	.325(**)	.194(**)	.366(**)	.389(**)	.388(**)	.404(**)	.425(**)	.414(**)	.535(**)	.204(**)	.485(**)	.483(**)	.448(**)	.400(**)	.652(**)	.678(**)	.524(**)	.688(**)	.717(**)	1		
Q28	.091(**)	.320(**)	.113(**)	.461(**)	.524(**)	.547(**)	.584(**)	.609(**)	.610(**)	.446(**)	.123(**)	.600(**)	.451(**)	.483(**)	.431(**)	.442(**)	.479(**)	.529(**)	.517(**)	.581(**)	.521(**)	1	

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。
* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

IX. 基礎教養科目運営委員会

本章では、「総合基礎科目」のうち、外国語科目、スポーツ・健康科学科目、情報科目を除く、「基礎教養科目」について分析する。

1. 集計データからわかること

平成 30 年度の「基礎教養科目」開設科目数は 102 科目、内訳として講義形態が 101 科目、演習形態が 1 科目となっており、アンケート実施率では講義形態が 94.06%で 6 科目が未実施、演習形態は 1 科目中 1 科目が未実施であった。

のべ総履修者数は 10,532 名で、このうちアンケート回答者数は 6,005 名に留まり、回答率は 57.02%という結果となった。前年度の回答率 56.90%と比較すると 0.12 ポイント上昇しており、依然として半数は維持できている。また、「基礎教養科目」の回答率 57.02%という値は全科目平均の 60.01%を下回っているが、講義科目のみの平均値 51.83%よりは上回っており、概ね平均的な範囲に留まっているといえよう。

以下、質問項目別に分析するが、前述のとおり、基礎教養科目は演習形態の科目が 1 科目のみであるため、記載する数値は演習に特化した Q15・Q16 を除き、すべて講義形態のものを引用する。

Q1「私のこの授業への出席率は」

出席率 80%以上と回答した学生の合計は 5,474 名であり、回答者の 91.39%となった。よく出席している学生がアンケート実施時の回答者として多く含まれる可能性は高いであろうから、出席状況は良好な数値となるはずであり、これはどの開設部門にも共通の傾向である。講義形態の全体平均 (92.16%) との比較では若干低い、0.77 ポイントの僅差であるため、顕著な差異は見られない。

Q2「私はこの授業に意欲的に取り組んでいる」

学生の授業への意欲度については、肯定を意味する「強くそう思う」「そう思う」という回答の合計比率（以下、「肯定の割合」と略す）が 61.21%となり、平成 29 年度の 58.20%から上昇している。ただしこの値は、講義形態全体としての肯定の割合である 63.02%との比較においては低くなっている。

Q3「私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間は、1 週間あたり平均で」

授業時間外の学習時間を調査する項目であるが、2 時間以上が 8.12%である一方、1 時間未満は 80.18%となっている。大学設置基準上の予習・復習時間の目安が講義時間の 3 倍とされている点を鑑みると、授業外の学習時間数が不足しがちである傾向が窺える。

Q4「この授業のレベルは適切である」

授業のレベルの適切度について、肯定の割合は 80.28%であり、平成 29 年度の 74.64% から上昇する結果となり、かつ、依然として大学全体の講義形態の平均 69.46%を大きく上回っているため、レベル設定の妥当性に対する満足度は比較的高いことを示す結果となっている。

Q4-2「授業のレベルについて、どのように感じましたか」

「難しすぎる」という比率が 78.40%を占めているが、前項で否定的な回答をした学生のみにも占める割合であり、平成 29 年度の 91.95%からは大幅な低下がみられる。なお、講義形態全体では平成 30 年度も 92.21%と高い数値を示しているが、二者択一の回答方式ではこうした傾向が表れる可能性もあると解釈している。

Q5「この授業を進める速さは適切である」

授業を進める速さの適切度については、大学全体の平均 (72.35%) を上回り、肯定の割合は 83.25%となった。平成 29 年度の 78.50%との比較でも上昇しており、全体平均との差は比較的大きいため、基礎教養科目の本項目における一定の満足度は保たれているといえよう。

Q5-2「授業を進める速さについて、どのように感じましたか」

前項で否定的な回答をした学生のみにも占める割合であるが、「速すぎる」の割合が 50.78%となっており、「遅すぎる」の割合 49.22%と拮抗している。なお、大学全体では「速すぎる」が 81.60%と高い数値を示している。

Q6「教員は熱意を持って授業を行っている」

授業に対する教員の熱意については、60.21%の学生が「強くそう思う」と回答しており、加えて平成 28 年度が 57.83%、平成 29 年度が 56.45%であったことから、例年数字上半数以上を維持している点は評価できよう。肯定の割合で見た場合でも 91.13%となり、これは、大学全体の結果 (85.74%) より高い評価となっているため、基礎教養科目を担当する教員の熱意が学生に十分に伝わっていると考えられる。

Q7「教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している」

教室内が学習にふさわしい状態に保たれているかについては、講義科目全体の平均 (80.18%) を上回り、肯定の割合は 84.41%であった。平成 29 年度の 80.77%に引き続き 80%を超える比率を維持している点においては、好ましい状況が続いていると理解できる。

Q8「教員は理解しやすい授業を行っている」

授業の理解しやすさについては、肯定の割合は 85.15%（平成 29 年度 80.01%）で、講義科目全体の平均 76.54%（平成 29 年度 74.84%）を上回る結果であった。両年度とも全体平均より高い値を示している点において、傾向に大きな変化はない。

Q9「教員の話し方（スピード、聞き取りやすさ）は適切である」

教員の話し方についても、肯定の割合は 86.72%で、講義科目全体の平均（78.49%）を上回った。本項目の肯定の割合の高さは、前項目の結果と関連していると考えられる。

Q9-2「教員の話し方について、どのように感じましたか」

前項で否定的な回答をした学生のみにも占める割合であるが、「その他／聞き取りにくい」が 66.67%となり、講義科目全体の平均（56.26%）よりも高くなっているほか、対前年度（平成 29 年度 52.42%）においても大きく比率が増加している点を注視したい。

Q10「この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした」

知的好奇心の刺激についても、講義科目全体の平均 72.86%を上回り、肯定の割合は 84.46%であった。

Q11「この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している」

肯定の割合は 53.36%であり、講義科目全体の 47.75%よりは上回ったが、全設問中、肯定の割合が低い部類となる数値を示した。一方で、シラバスを読まなかったという学生は 36.72%（2,085 名）に上り、講義概要を把握しないまま履修をしている実態が分かることから、この点は今後の課題と言えよう。この傾向は大学全体でも同様であり、全体平均で 40.72%が「読まなかった」と回答している。過去の本報告でも指摘されていたが、シラバスにおいて、学習の到達目標や準備学習の目安を記載し、学修成果をあげることが期待されていることから、新入生への履修指導やシラバスの活用方法を丁寧に周知することの必要性があらためて認識された。

Q12「総合的に見てこの授業は高く評価できる」

授業への総合的評価についての肯定の割合は 85.79%であり、前年度（平成 29 年度 81.03%）から上昇している。平成 28 年度が 83.42%であった点を考慮すると、近年は 80%を超える高水準を維持していると評価できる。

Q13「板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である」

板書の仕方やすライド提示の仕方については、肯定の割合が 86.03%であり、対前年度（平成 29 年度 81.52%）で増加している。講義科目全体の平均（78.54%）との比較でもこれを

上回っており、各授業担当者における授業改善の取り組みが進行中であることがうかがえる。

Q14 「教材（教科書、配付資料等）の内容は適切である」

教材の内容の適切度についての肯定の割合は、講義科目全体の平均（79.75%）を上回る86.04%となった。年度により科目毎の教材の内容が異なる可能性があることは想定しているが、教材の適切性を示すデータの一つとなる本指標については今後も注視していく必要がある。

Q15 「教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた」

本設問は演習に特化されたものである。平成29年度は肯定的な回答の割合が73.33%となっていたが、平成30年度は基礎教養科目における調査対象（1科目）がアンケート未実施であったため、データなしとなっている。

Q16 「教員は参加者が課題に取り組むのを助けた」

本設問も演習に特化されたものである。これについても平成29年度は肯定的な回答の割合が78.34%となっていたが、平成30年度は調査対象（1科目）がアンケート未実施のためデータなしとなっている点は前項と同様である。

Q19 「授業は全学共通の総合基礎科目としてふさわしいものだった」

本設問は基礎教養科目に特化した項目であり、肯定の割合は89.74%であった。平成29年度の85.50%との比較において増加しており、引き続き高水準を維持しているといえよう。

Q20 「授業の内容や構成は全体としてまとまりのあるものだった」

この設問については、回答者数が1,446名となり、他項目と比較して少ない結果となった。平成29年度の回答者数1,896名との比較でも減少している。他項目との対比で回答者数が低調となった要因として、この設問は判断が難しく、学生はどう評価したらいいのかわからず、回答を見送ったケースが多かったのではないかと推察される。

2. 今後の授業改善に向けて

授業評価アンケートは今回で13回目の実施となったが、前年に引き続き、全設問において肯定の割合が高い結果となった。これは過去のアンケート結果等を踏まえた近年の各担当教員における授業内容改善の努力が結果としてあらわれたものと考えられ、各授業担当者に感謝したい。

なお、例年半数程度に留まっている回答率が毎年の課題となっているが、平成30年度については平成29年度の56.90%から上昇し57.02%という結果となった。

単年度の動きのみで判断せず中期的な推移を捉える必要があるが、こうした結果をふまえ、平成 28 年度の G P A 制度導入に伴う「棄権」の廃止や、平成 30 年度新入学生以降のキャップ制の導入等、履修や成績評価に関する諸制度の改正に伴う学生の意識の変化を引き続き注視していきたい。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

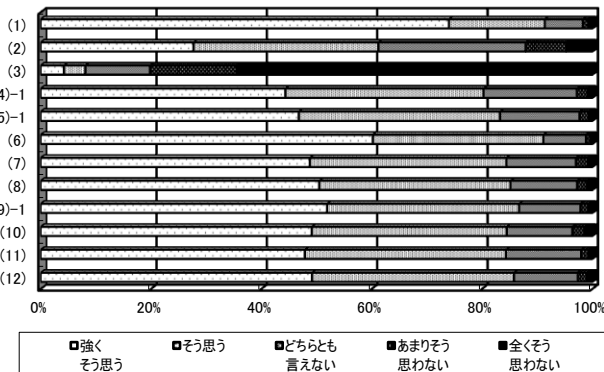
部門名 基礎教養

形態名 講義

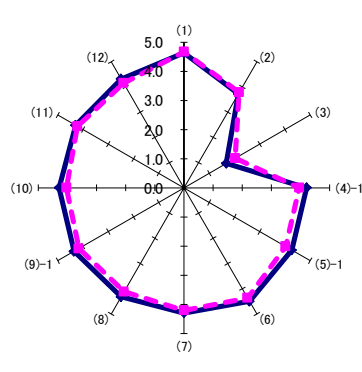
	合計	総履修者数	回答率
回答数	6,005	10,532	57.02%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース							科目ベース			
			5 強く そう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	4,433	1,041	412	66	38	15	6,005	4.63	0.716	4.56	0.299
			73.82%	17.34%	6.86%	1.10%	0.63%	0.25%	100.00%				
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	1,654	1,997	1,593	438	283	40	6,005	3.72	1.090	3.69	0.370
			27.54%	33.26%	26.53%	7.29%	4.71%	0.67%	100.00%				
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上 3時間未満 3: 1時間以上 2時間未満 2: 30分以上 1時間未満 1: 30分未満	251	230	693	935	3,813	83	6,005	1.68	1.093	1.75	0.357
			4.18%	3.83%	11.54%	15.57%	63.50%	1.38%	100.00%				
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	2,652	2,147	1,010	120	49	27	6,005	4.21	0.850	4.17	0.339
			44.16%	35.75%	16.82%	2.00%	0.82%	0.45%	100.00%				
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	127	35	-	-	-	7	169	-	-	-	-
			75.15%	20.71%	-	-	-	4.14%	100.00%				
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	2,795	2,178	861	99	40	32	6,005	4.27	0.816	4.23	0.324
			46.54%	36.27%	14.34%	1.65%	0.67%	0.53%	100.00%				
(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	65	63	-	-	-	11	139	-	-	-	-	
		46.76%	45.32%	-	-	-	7.91%	100.00%					
(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	3,603	1,850	462	49	20	21	6,005	4.50	0.703	4.49	0.215	
		60.00%	30.81%	7.69%	0.82%	0.33%	0.35%	100.00%					
(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	2,904	2,118	750	130	47	56	6,005	4.29	0.828	4.32	0.247	
		48.36%	35.27%	12.49%	2.16%	0.78%	0.93%	100.00%					
(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	3,020	2,072	723	109	56	25	6,005	4.32	0.825	4.31	0.317	
		50.29%	34.50%	12.04%	1.82%	0.93%	0.42%	100.00%					
(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	3,066	2,055	657	85	42	100	6,005	4.36	0.790	4.35	0.271	
		51.06%	34.22%	10.94%	1.42%	0.70%	1.67%	100.00%					
(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	30	8	76	-	-	13	127	-	-	-	-	
		23.62%	6.30%	59.84%	-	-	10.24%	100.00%					
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	2,934	2,107	711	132	84	37	6,005	4.29	0.863	4.27	0.278	
		48.86%	35.09%	11.84%	2.20%	1.40%	0.62%	100.00%					
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 34.72%)	1,721	1,309	491	46	26	327	6,005	4.30	0.803	4.27	0.298	
		28.66%	21.80%	8.18%	0.77%	0.43%	5.45%	100.00%					
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	2,939	2,186	691	100	58	31	6,005	4.31	0.815	4.29	0.303	
		48.94%	36.40%	11.51%	1.67%	0.97%	0.52%	100.00%					
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である	2,857	2,002	615	127	60	344	6,005	4.32	0.835	4.29	0.333
			47.58%	33.34%	10.24%	2.11%	1.00%	5.73%	100.00%				
(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	2,818	2,037	646	95	47	362	6,005	4.33	0.806	4.31	0.305	
		46.93%	33.92%	10.76%	1.58%	0.78%	6.03%	100.00%					
基礎教養科目 運営委員会	(19)	授業は全学共通の総合基礎科目としてふさわしいものだった	1,477	919	218	31	25	3,335	6,005	4.42	0.768	4.40	0.353
			24.60%	15.30%	3.63%	0.52%	0.42%	55.54%	100.00%				
(20)	授業の内容や構成は全体としてまとまりのあるものだった (複数講師による授業の場合のみ回答)	696	565	152	21	12	4,559	6,005	4.32	0.785	4.30	0.455	
		11.59%	9.41%	2.53%	0.35%	0.20%	75.92%	100.00%					

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 基礎教養
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q19	Q20
Q1	1															
Q2	.295(**)	1														
Q3	0	.241(**)	1													
Q4	.163(**)	.426(**)	.097(**)	1												
Q5	.155(**)	.399(**)	.081(**)	.775(**)	1											
Q6	.143(**)	.349(**)	.065(**)	.558(**)	.596(**)	1										
Q7	.128(**)	.374(**)	.095(**)	.527(**)	.561(**)	.666(**)	1									
Q8	.135(**)	.407(**)	.092(**)	.659(**)	.657(**)	.671(**)	.709(**)	1								
Q9	.128(**)	.365(**)	.075(**)	.608(**)	.670(**)	.648(**)	.645(**)	.766(**)	1							
Q10	.144(**)	.440(**)	.118(**)	.570(**)	.580(**)	.574(**)	.537(**)	.629(**)	.577(**)	1						
Q11	.032(*)	.233(**)	.208(**)	.175(**)	.186(**)	.147(**)	.184(**)	.196(**)	.188(**)	.235(**)	1					
Q12	.150(**)	.437(**)	.097(**)	.645(**)	.656(**)	.644(**)	.634(**)	.740(**)	.690(**)	.724(**)	.247(**)	1				
Q13	.122(**)	.359(**)	.088(**)	.547(**)	.587(**)	.551(**)	.538(**)	.645(**)	.608(**)	.532(**)	.187(**)	.648(**)	1			
Q14	.136(**)	.357(**)	.086(**)	.563(**)	.588(**)	.572(**)	.559(**)	.655(**)	.608(**)	.549(**)	.190(**)	.655(**)	.781(**)	1		
Q19	.128(**)	.345(**)	.066(**)	.599(**)	.563(**)	.591(**)	.505(**)	.624(**)	.555(**)	.592(**)	.171(**)	.677(**)	.606(**)	.625(**)	1	
Q20	.120(**)	.413(**)	.121(**)	.570(**)	.562(**)	.594(**)	.550(**)	.644(**)	.585(**)	.568(**)	.229(**)	.645(**)	.597(**)	.633(**)	.744(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

X. 教職課程

教職課程開設科目の履修は、卒業要件とはなっておらず、教員免許取得を希望する学生が自発的に行うものである。しかし他方で、教職課程開設科目と履修単位数等は、教育職員免許法等に基づいて規定されており、その授業内容も国の課程認定行政指導等によって、近年では拘束性（「教職課程コア・カリキュラム」）が強まってきている。また、授業形態も、教育学・心理学の基礎理論領域を担当する授業は講義形式でかつ履修者も比較的多い形態をとらざるを得ないのが現状である。しかし、近年の政策的重点事項の一つである「(学校教員としての) 実践的指導力の育成」強化を受けて、教科教育法の授業を中心に模擬授業や場面指導などの具体的かつ実践的な内容及び方法を取り入れてきている。

以上のような現状のもと、平成 30 年度あるいは経年変化比較においても、履修者の出席状況は他部門と比較して相対的に良いとはいえものの、意欲的に取り組んでいるかといえ、専門科目の学習活動と比較すると、やむを得ないこととはいえ、必ずしも良いとはいえない実態が、ほぼ同様に続いてきている。また、予習・復習等の授業外の学習時間に関しても、同様の実態が続いてきている。履修者にとっては、それぞれの専門分野の学習に加えての「教職課程履修」ということでもあるために、出席はするが、意欲の注ぎ方は各専門分野の学習に比べればやや劣るといった状況になりがちであるといえよう。さらには、「シラバスを読まなかった」との回答が 4 割を超えている状況が続いているが、これも上記のような課程認定行政から学生の興味・関心に合わせた授業内容の構想ということができないがために、学生にとっては内容ではなく履修可能な曜日・時限の選択だけに関心が向いてしまっている。

しかし、教職課程としては、決して、やむを得ないことだと諦めているわけではなく、そのような実態に傾きがちであるという現実をふまえ、授業内容の改善及び授業時間内での確実なる定着の工夫など、なお一層の改善努力をしていきたいと考えている。

履修者による授業評価結果は、他部門と引き比べるならば、全体としていずれの項目もほぼ同様の結果であるといえよう。しかし、講義形態の科目に関しては、講義内容のレベルや進み方の速さといった点で、引き続き、やや困難を感じている学生がいると思われる結果が続いてきている。今後の改善課題の一つであることは確かだが、その一方で、学校現場において児童・生徒に関する多様な問題の発生とその対応としての新しい政策的動向を鑑みるに、学校教員養成に必要な教育内容の量／質は増加し、レベルは高まるばかりであるため、指導計画上の困難さは大きくなるばかりである。

教職課程では、現在、『教職課程年報』を毎年度発行しており、その中で、「研究論文」に加えて「授業研究」ジャンルを設け、専任教員のみならず教職課程開設科目を担当する非常勤講師及び関係者の「授業取り組み例」として研究的に相互交流を図り、困難さについても共有するとともに、その打開・改善に向けて努めていこうとしている。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

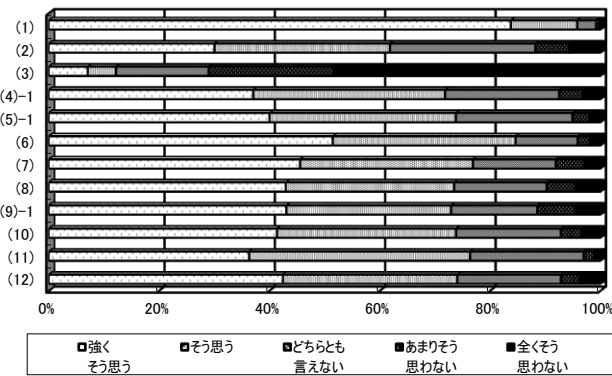
部門名 教職課程

形態名 講義

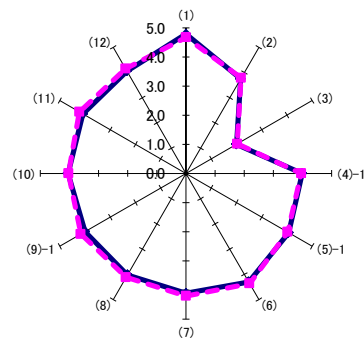
	合計	総履修者数	回答率
回答数	1,167	1,516	76.98%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース		
			5	4	3	2	1	無回答				部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	976	140	40	6	3	2	1,167	4.79	0.547	4.74	0.211	
			83.63%	12.00%	3.43%	0.51%	0.26%	0.17%	100.00%					
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	347	367	304	71	65	13	1,167	3.75	1.120	3.97	0.431	
			29.73%	31.45%	26.05%	6.08%	5.57%	1.11%	100.00%					
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	82	59	194	262	558	12	1,167	2.00	1.223	1.98	0.316	
			7.03%	5.06%	16.62%	22.45%	47.81%	1.03%	100.00%					
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	432	405	241	50	37	2	1,167	3.98	1.018	4.22	0.527	
			37.02%	34.70%	20.65%	4.28%	3.17%	0.17%	100.00%					
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	76	6	-	-	-	-	5	87	-	-	-	-
			87.36%	6.90%	-	-	-	-	5.75%	100.00%				
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	466	393	246	36	23	3	1,167	4.07	0.954	4.28	0.430	
			39.93%	33.68%	21.08%	3.08%	1.97%	0.26%	100.00%					
(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	40	14	-	-	-	-	5	59	-	-	-	-	
		67.80%	23.73%	-	-	-	-	8.47%	100.00%					
(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	600	386	131	26	22	2	1,167	4.30	0.893	4.50	0.353		
		51.41%	33.08%	11.23%	2.23%	1.89%	0.17%	100.00%						
(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	525	361	173	59	34	15	1,167	4.11	1.032	4.37	0.448		
		44.99%	30.93%	14.82%	5.06%	2.91%	1.29%	100.00%						
(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	500	355	195	61	52	4	1,167	4.02	1.100	4.29	0.579		
		42.84%	30.42%	16.71%	5.23%	4.46%	0.34%	100.00%						
(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	494	342	179	79	52	21	1,167	4.00	1.128	4.29	0.561		
		42.33%	29.31%	15.34%	6.77%	4.46%	1.80%	100.00%						
(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	16	4	108	-	-	-	3	131	-	-	-	-	
		12.21%	3.05%	82.44%	-	-	-	2.29%	100.00%					
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	481	377	221	44	39	5	1,167	4.05	1.028	4.29	0.468		
		41.22%	32.31%	18.94%	3.77%	3.34%	0.43%	100.00%						
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 44.64%)	217	239	123	11	7	49	1,167	4.09	0.862	4.27	0.352		
		18.59%	20.48%	10.54%	0.94%	0.60%	4.20%	100.00%						
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	493	367	218	39	44	6	1,167	4.06	1.042	4.30	0.524		
		42.25%	31.45%	18.68%	3.34%	3.77%	0.51%	100.00%						
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	492	328	179	55	74	39	1,167	3.98	1.175	4.22	0.613	
			42.16%	28.11%	15.34%	4.71%	6.34%	3.34%	100.00%					
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	523	344	188	41	33	38	1,167	4.14	1.010	4.35	0.445	
			44.82%	29.48%	16.11%	3.51%	2.83%	3.26%	100.00%					

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

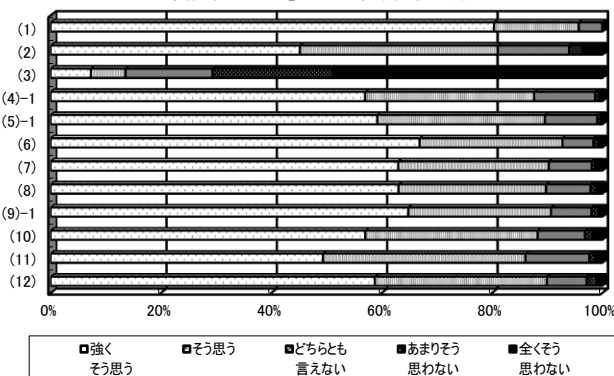
部門名 教職課程

	合計	総履修者数	回答率
回答数	984	1,268	77.60%

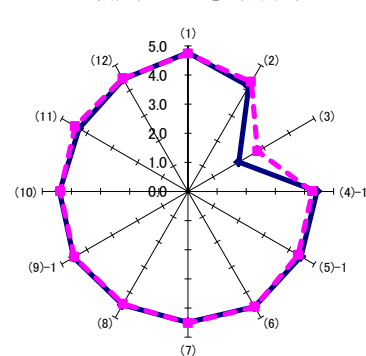
形態名 演習

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
			5	4	3	2	1	無回答				部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	790	151	42	0	0	1	984	4.76	0.517	4.75	0.128
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	441	350	126	24	35	8	984	4.17	0.988	4.18	0.276
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	70	60	151	209	468	26	984	2.01	1.247	2.12	0.530
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	558	300	108	8	5	5	984	4.43	0.759	4.41	0.214
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	6	6	-	-	-	-	13	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	579	297	93	6	3	6	984	4.48	0.717	4.47	0.207
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	4	5	-	-	-	0	9	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	656	254	55	9	7	3	984	4.57	0.706	4.54	0.232
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	616	267	76	6	13	6	984	4.50	0.776	4.48	0.233
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	618	262	79	11	10	4	984	4.50	0.776	4.47	0.241
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	627	250	71	12	7	17	984	4.53	0.747	4.52	0.216
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	3	2	14	-	-	0	19	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	559	306	84	13	18	4	984	4.40	0.844	4.39	0.275	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 39.53%)	269	200	63	6	7	50	984	4.32	0.818	4.28	0.299	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	577	306	71	18	10	2	984	4.45	0.790	4.42	0.241	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	529	233	74	18	7	123	984	4.46	0.803	4.47	0.338
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	510	243	84	15	9	123	984	4.43	0.819	4.46	0.342

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 教職課程
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.186(**)	1												
Q3	.049	.249(**)	1											
Q4	.078(**)	.461(**)	.153(**)	1										
Q5	.075(*)	.437(**)	.118(**)	.756(**)	1									
Q6	.065(*)	.394(**)	.097(**)	.574(**)	.577(**)	1								
Q7	.073(*)	.388(**)	.108(**)	.650(**)	.625(**)	.726(**)	1							
Q8	.065(*)	.427(**)	.109(**)	.742(**)	.683(**)	.701(**)	.810(**)	1						
Q9	.024	.384(**)	.080(**)	.675(**)	.663(**)	.660(**)	.731(**)	.793(**)	1					
Q10	.111(**)	.497(**)	.140(**)	.638(**)	.605(**)	.652(**)	.626(**)	.668(**)	.632(**)	1				
Q11	.023	.276(**)	.204(**)	.221(**)	.210(**)	.179(**)	.182(**)	.189(**)	.201(**)	.274(**)	1			
Q12	.096(**)	.482(**)	.104(**)	.717(**)	.692(**)	.706(**)	.756(**)	.828(**)	.765(**)	.739(**)	.238(**)	1		
Q13	.061(*)	.374(**)	.124(**)	.692(**)	.653(**)	.577(**)	.688(**)	.757(**)	.693(**)	.582(**)	.152(**)	.731(**)	1	
Q14	.090(**)	.393(**)	.119(**)	.664(**)	.645(**)	.620(**)	.678(**)	.733(**)	.664(**)	.639(**)	.183(**)	.744(**)	.826(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 教職課程
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.236(**)	1												
Q3	-.011	.245(**)	1											
Q4	.165(**)	.499(**)	.086(**)	1										
Q5	.139(**)	.418(**)	.059	.821(**)	1									
Q6	.119(**)	.416(**)	.071(*)	.637(**)	.633(**)	1								
Q7	.135(**)	.429(**)	.075(*)	.623(**)	.603(**)	.794(**)	1							
Q8	.129(**)	.406(**)	.033	.675(**)	.681(**)	.740(**)	.754(**)	1						
Q9	.158(**)	.377(**)	.026	.646(**)	.669(**)	.673(**)	.679(**)	.784(**)	1					
Q10	.125(**)	.522(**)	.128(**)	.603(**)	.551(**)	.664(**)	.646(**)	.648(**)	.583(**)	1				
Q11	-.008	.154(**)	.194(**)	.079(*)	.067(*)	.134(**)	.129(**)	.096(**)	.088(**)	.113(**)	1			
Q12	.120(**)	.498(**)	.094(**)	.696(**)	.667(**)	.757(**)	.770(**)	.786(**)	.713(**)	.762(**)	.152(**)	1		
Q15	.141(**)	.396(**)	.05	.556(**)	.571(**)	.618(**)	.599(**)	.658(**)	.599(**)	.561(**)	0.06	.676(**)	1	
Q16	.106(**)	.381(**)	.049	.564(**)	.560(**)	.645(**)	.640(**)	.667(**)	.601(**)	.590(**)	.092(**)	.706(**)	.816(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

XI. 学芸員課程委員会

平成 24 (2012) 年度より始まった博物館学芸員資格の取得にかかる新課程 (9 科目 19 単位) は、近年、教員にも受講生にも十分浸透してきた。とはいえ、新課程となることで細分化された講義科目における教育の質の確保と履修生の意識の向上という点では、今後ともさらに授業改善に対して積極的に取り組んでいきたいと考えている。

平成 30 年度の授業評価アンケートの結果からうかがえる問題は、以前より定着している傾向でもあるが、講義科目と演習科目 (学芸員課程での演習科目は実質的には実習である) 間の評価結果の差である。実習の授業では、授業に対する学生のモチベーションが高く、それが各項目の極めて高い評価結果に現れている。しかし講義科目に関しては、たとえば出席率 (Q1) の平均値は 4.70 と高いにもかかわらず意欲的な取り組み (Q2) の平均値は 3.86 となっている。この傾向が、5 年間変わっていないことを深刻に受け止めたい。

教員の熱意や授業の適切な進め方、新しいものの見方が得られたなどの項目の評価結果は決して低いものではないが、それに対して意欲的な取り組みに対する履修生の自己評価が低いことは大いに問題である。この問題に際しては、出席点を懸念して出席はするものの、授業に対して主体的な参加意識を持ってないという学生の声に耳を傾けたい。

また講義科目では、実習に比して相対的に授業の復習や事前準備などを促す課題が少ないことも、主体的な参加意識が低くなる要因であると考えられる。よってラーニング・ポートフォリオシステム **manaba** やポータルサイト **G-port** を活用した授業資料・レジュメの事前配布による授業内容への関心惹起、**manaba** の質問機能やリアクションペーパーなどの活用による学生自身の授業へのアクティブな関与を促していくよう、各教員が授業の工夫を進めていくこととした。

ラーニング・ポートフォリオシステム **manaba** については、未だ十分にその利便性と使いこなしの工夫や知識が教員間に共有されていない状況でもあり、各教員が知悉できるよう、事務室からも積極的に情報発信していくこととした。



学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

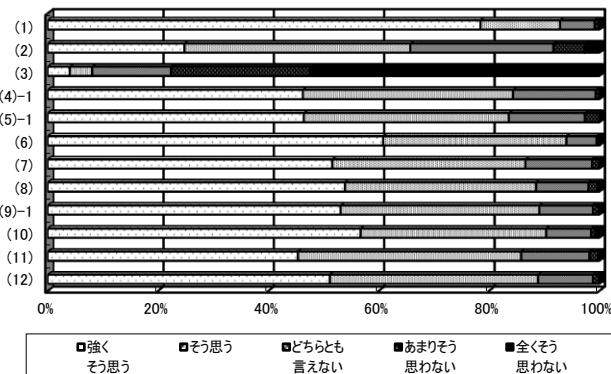
部門名 学芸員

形態名 講義

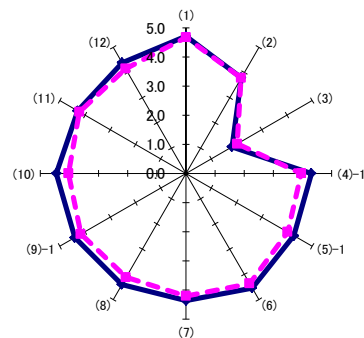
	合計	総履修者数	回答率
回答数	604	731	82.63%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	473	87	38	5	0	1	604	4.70	0.620	4.70	0.118
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	149	246	156	34	16	3	604	3.80	0.966	3.86	0.289
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	24	24	85	150	312	9	604	1.82	1.078	1.91	0.478
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	278	229	90	4	0	3	604	4.30	0.742	4.33	0.191
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	1	2	-	-	-	1	4	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	280	224	83	16	0	1	604	4.27	0.796	4.31	0.238
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	6	8	-	-	-	2	16	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	366	200	33	3	0	2	604	4.54	0.623	4.57	0.219
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	308	209	72	8	0	7	604	4.37	0.745	4.40	0.227
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	324	208	57	10	2	3	604	4.40	0.755	4.44	0.225
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	317	215	58	6	1	7	604	4.41	0.719	4.45	0.239
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	1	1	4	-	-	1	7	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	341	202	49	5	4	3	604	4.45	0.736	4.50	0.196	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 31.79%)	176	157	48	6	1	24	604	4.29	0.761	4.29	0.201	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	308	227	60	6	1	2	604	4.39	0.719	4.44	0.227	
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	290	202	77	24	3	8	604	4.26	0.869	4.31	0.295
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	286	208	86	13	2	9	604	4.28	0.815	4.32	0.254

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

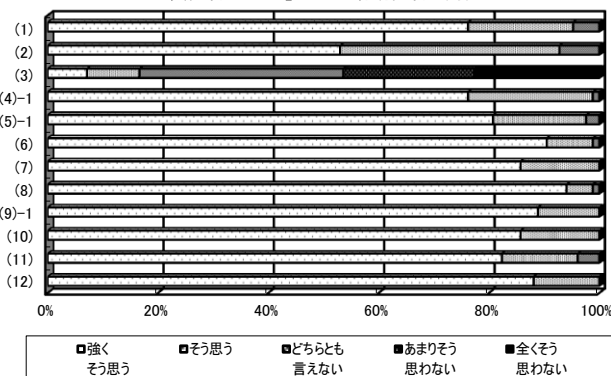
部門名 学芸員

形態名 演習

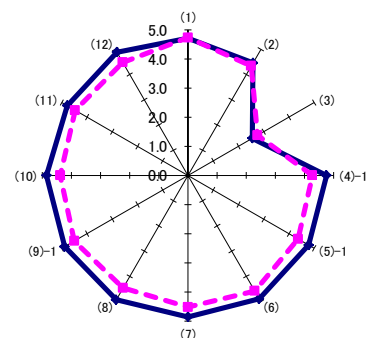
	合計	総履修者数	回答率
回答数	84	101	83.17%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
			5	4	3	2	1	無回答				部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く 思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	64	16	4	0	0	0	84	4.71	0.550	4.72	0.219
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	44	33	6	0	0	1	84	4.46	0.631	4.46	0.224
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	6	8	31	20	19	0	84	2.55	1.155	2.56	0.569
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	64	19	1	0	0	0	84	4.75	0.462	4.76	0.170
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易すぎる	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	67	14	2	0	0	1	84	4.78	0.470	4.79	0.145
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	76	7	1	0	0	0	84	4.89	0.348	4.90	0.111
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	72	12	0	0	0	0	84	4.86	0.352	4.87	0.115
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	79	4	1	0	0	0	84	4.93	0.302	4.93	0.094
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	72	9	0	0	0	3	84	4.89	0.316	4.89	0.092
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	0	0	0	-	-	-	0	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	72	12	0	0	0	0	84	4.86	0.352	4.87	0.102	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 35.71%)	42	7	2	0	0	3	84	4.78	0.503	4.73	0.305	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	74	10	0	0	0	0	84	4.88	0.326	4.89	0.117	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	64	17	3	0	0	0	84	4.73	0.523	4.74	0.166
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	71	13	0	0	0	0	84	4.85	0.364	4.85	0.138
			84.52%	15.48%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%				

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



相関係数表 部門名 学芸員
形態名 講義

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
Q1	1													
Q2	.232(**)	1												
Q3	.090(*)	.361(**)	1											
Q4	.135(**)	.435(**)	.199(**)	1										
Q5	.130(**)	.373(**)	.180(**)	.744(**)	1									
Q6	0.046	.324(**)	.141(**)	.546(**)	.561(**)	1								
Q7	0.055	.341(**)	.144(**)	.576(**)	.606(**)	.684(**)	1							
Q8	0.056	.352(**)	.143(**)	.689(**)	.644(**)	.647(**)	.710(**)	1						
Q9	.093(*)	.285(**)	.174(**)	.621(**)	.639(**)	.620(**)	.635(**)	.728(**)	1					
Q10	0.046	.426(**)	.201(**)	.519(**)	.457(**)	.446(**)	.442(**)	.549(**)	.474(**)	1				
Q11	0.022	.255(**)	.186(**)	.185(**)	.201(**)	.226(**)	.198(**)	.219(**)	.177(**)	.245(**)	1			
Q12	.152(**)	.410(**)	.238(**)	.670(**)	.664(**)	.652(**)	.655(**)	.744(**)	.675(**)	.613(**)	.299(**)	1		
Q13	.105(*)	.274(**)	.156(**)	.486(**)	.585(**)	.481(**)	.540(**)	.581(**)	.553(**)	.407(**)	.221(**)	.628(**)	1	
Q14	.117(**)	.297(**)	.217(**)	.555(**)	.539(**)	.493(**)	.520(**)	.587(**)	.522(**)	.420(**)	.177(**)	.617(**)	.671(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

相関係数表 部門名 学芸員
形態名 演習

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q15	Q16
Q1	1													
Q2	.407(**)	1												
Q3	.363(**)	.244(*)	1											
Q4	0.095	.387(**)	0.124	1										
Q5	0.095	.264(*)	0.129	.718(**)	1									
Q6	-0.099	0.038	.238(*)	.506(**)	.523(**)	1								
Q7	0.098	0.172	0.106	.518(**)	.543(**)	.562(**)	1							
Q8	0.021	.239(*)	0.079	.388(**)	.658(**)	.385(**)	.469(**)	1						
Q9	0.04	.282(*)	0.102	.580(**)	.500(**)	.559(**)	.627(**)	.557(**)	1					
Q10	0.16	.229(*)	0.135	.444(**)	.396(**)	.267(*)	.514(**)	.356(**)	.516(**)	1				
Q11	0.204	.274(*)	.225(*)	0.118	0.112	0.002	.233(*)	0.07	0.182	.258(*)	1			
Q12	0.077	0.193	0.079	.520(**)	.621(**)	.631(**)	.900(**)	.525(**)	.584(**)	.480(**)	0.153	1		
Q15	0.018	.226(*)	-0.168	.361(**)	.445(**)	.367(**)	.505(**)	.409(**)	.481(**)	.374(**)	-0.072	.514(**)	1	
Q16	0.017	0.156	0.061	.483(**)	.510(**)	.439(**)	.484(**)	.337(**)	.381(**)	.484(**)	0.079	.554(**)	.534(**)	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

第4章

授業への取り組み例

I. 法学部

● 「英米法」

授業においては視覚的に訴え、記憶を想起する効果を期待して、関連画像を含むパワーポイントを多用している。それとは別に、事前にパワーポイントの内容を文章化したレジюмеとその回において取り上げる判決文（原文と抄訳）を配布している。（2019年度は564ページとなった。）パワーポイントの画像情報については、著作権等に鑑み、配布の対象とはしていない。

毎回、その授業に出席することで記入できる「出席票」を用い、関連する情報に対する関心を喚起する一工夫としている。前回の復習の意味も含め、次回に解説をし、さらに、レジюмеとは別に解説も配布している。

レジюмеがあればそれだけで試験対策になるという錯覚はほぼなくなっており、受講者数と学期末試験受験者数との齟齬はそれほど大きくない。

例年と変わらず、レジюмеに書かれているにも関わらず検索をかけて不正確な情報を記入する、問題全体を読まずにキー・ワードと判断した事項に飛びついて記入するなどの例が、かなり、あったが、学籍番号と名前だけという記載は過年度と比べると減少している。

● 「特設演習（会社法の基礎を学ぶ）」「商法演習」

履修者全員が、分かりやすく他者に伝える技法・能力を鍛え、他者の報告をもとに建設的な議論を展開する能力を身につけられるよう、**peer review** を活用している。具体的には、毎回の報告者による報告の後、まず、①報告を聞いていた学生を指名し、報告の良かった点、手本とすべき点を訊き、その後、②別の学生を指名し、より良い報告とするために改善すべき点を指摘してもらうようにする。②の改善点を問われた学生は、特に授業の初期段階においては、報告者に遠慮し「特に改善点はありません。」と回答することもあるが、それで終わらせることはせず、どんなに小さなことでも良いので指摘するように促す。このように報告を客観的に評価する訓練を重ねることで、授業が進むにつれて、他の学生の報告を評価する力、ひいては、自分自身の報告を評価する力が養われ、報告内容の洗練化と、(いいがかりではない) 議論の活性化につながっていくことが期待できる。

上記の内容は平成29年度以前に開始したものであるが、実際に学生が他者の報告等について適切な評価をすることができるようになるという効果が認められるため、平成30年度も継続して行った。

● 「国際政治 I・II」

1回の授業の中で、2, 3回、自分がそこまでの講義で述べたことについて質問はないか、学生全体に聞く。テーマについて学生が何を知り、何を知らず、どんな考えを持っているかを知るために、こちらから個別に学生に授業中に質問することがある。できるだけ教師対不特定多数という形を避け、学生との教室でのやりとりでは、相手の名前を聞くことがある。授業で映像資料を多く用いる。笑いや悲しみは記憶力を高めることもあるため、資料の中には、ユーモアの要素のあるもの、あるいは悲哀を与えるものを入れている。映像資料の途中、何度も止めて、コメントしたり、確認したり、質問したりする。資料の大半は英語で、理解しにくい学生もいるが、英語が苦手だと学生から相談を受けたときは、細部は分からなくとも、要点が分かればよいと慰める。

授業で論点についての資料を準備して教室で配布することが多い。

期末レポートの提出を試験とともに必須とし、試験と半々の比率で成績評価をつける。レポートの課題は、何等かの作業を行わなければならないような、つまり何かを抜き書きすればできるものではないような形に工夫する。こちらでレポートの課題案を最初に学期中に学生に示し、それ以外に書いてみたいテーマが個々の学生にあれば、教師に知らせ、それをも、レポート課題の選択肢の中に入れるように案内している。(ただし今までで自分から提案した学生は殆どいない。) レポートの書き方については、課題設定の中で注文をつけることがある。なおTAの使用については制限が課されており、特に「コピペ」の見破りなど大切な作業があるのに、また長いコメントなどをつけて返却するためには教員一人では非常に難しいのに、TAをその目的で使えないという非常に不便な状態で、レポートを読み成績はつけるが、レポートにコメントして学生に返却することはほとんどできなくなった。学部授業の充実には、大学院生、特に博士後期レベルの学生の層の厚さが必須であると感じる。

昨今の「セメスター制」導入の名目で、成績提出の期限が早まった結果、学生が夏休みなどを利用してレポートとして研究をすることができなくなったことを、近年の本学の大きな教育上の後退であると考えている。しかし、要望があれば、締め切り前にレポートのドラフトを読み、決定稿の提出に向けてアドバイスしている。

例えば脱北者など、何等かの現場を体験したことのある人々を中心として、ゲストスピーカーを1学期に1回招き、話してもらい、Q and Aの時間を設ける。

試験とレポート作成の両方をしなければならないこともあり、学生は最終段階で淘汰されることが少なくない。近年の、成績評価における「棄権」という制度が無くなったため、勉強しなかったのに試験を受け答案を出さねばならない者、あるいはレポートを提出しない者などがあり、彼らはこれまでは「棄権」という制度に救われたが、昨今は、教員は彼らに非常に不本意ながら0点をつけなければならない、この「改革」も近年における本学の教育上の大きな後退であると考えている。

● 「国際政治演習」

学生に意欲を持たせるために、履修者4名程度のチームを作り、外国で学会発表をやってみようと思うように誘導している。一昨年は、現実には、難民についてのチーム研究をゼミ生に行わせ、研究発表に応募したところ受け入れられ、アメリカのアジア学会の地方支部会において日本在住の脱北者について英語での報告を行った。毎年実現するとは限らないが、可能性は探っている。発表能力や分析能力は学生は研究者には大きく劣っても、日本の学生は、国際政治関連の分野では、日本、あるいはアジア、といった地の利を持つから、外国に行って十分に希少価値のある発表ができる場合がある。

● 「西洋政治思想史Ⅰ・Ⅱ」

成績評価は、学期末試験60%（知識問題3割、論述問題7割）、小テスト（1学期に4回）40%、学期末任意レポート20%加点、という形で行っている。2017年度までは学期末試験は完全な論述式であったが、2018年度以降、知識問題を導入した。その理由は主として二つあり、一つは堅実な知識の要求、もう一つは真面目に勉強しているが論述式が苦手な学生への配慮である。

講義は、詳しいレジュメをG-portに事前に掲載し、講義時に紙媒体でも配布している。レジュメの3割程度は説明を割愛する一方（受講者の多くは、思想史理解の前提となる歴史的知識（史実、制度等）を十分に持っていないため、レジュメで予習・復習をしてもらう）、口頭・板書で、レジュメの内容以外のことも教えている。受講者の集中力維持のため、講義の半ばに5分間の休憩を設定し、休憩後、5分程度、ビデオや画像資料を使っている。

小テスト（授業の最後の20分間に実施）は講義内容の応用という形で、主に現代政治の問題を取り上げている（例：(1)古典古代の公職者弾劾制度→近年の大統領弾劾の事例(2)寛容論・政教分離論→西欧でのイスラム教問題。テスト実施の次の講義で、「模範」解答の提示と講評を行う）。期末テストは、小テストでのトレーニングを踏まえて、論述問題を課している（期末試験後、「模範」解答と解説をG-portに掲載）。要求される記述量が多いため、90分間の試験で受験者の9割は最後まで残っている。毎回真面目に聴講していても、記述スピードが遅いため試験で失敗する学生が一定数おり、制限時間内での記述能力を重視する試験方式の適宜性を近年自問している。じっくり時間をかけて考えさせるにはレポートの方が良いが、レポートは代作が可能であり、評価方法としての適宜性に疑念が残るので、2017年度以降廃止せざるを得なかった。小テストについては、希望者には時間延長を認めており、講義後15分ほど居残って提出する学生が毎回数名いる。

● 「アメリカ政治Ⅰ」

PPTを利用して視覚性を高め、学生が授業内容を理解しやすいように心がけている。

その際、文字情報と画像情報に分け、文字情報を扱った PPT ファイルは G-Port からダウンロードできるようにしておくが、PPT に全ての情報を書き込むことはせず、必要に応じて重要ポイントを空欄にするなど、授業への出席を促し、かつ授業中の学生の集中力を維持させるための工夫を施している。画像情報は、授業で扱っている内容を裏付けるデータやグラフのみならず、学生の興味を惹きつけるような写真・イラスト・風刺画等も活用する。著作権等の問題を回避するため、画像情報を扱っている PPT ファイルは G-Port 経由で配布することはしていない。

● 「アメリカ政治演習」

履修者同士の関係性を深め、クラス内で積極的に発言することが自然となるよう、授業の早い段階でグループ単位での作業を課すようにしている。また、4年生の就職活動に伴う日中の拘束時間の長期化や、学生の多忙化に伴うスケジュール調整の困難さを考慮し、5時限に開講することで、学生同士が話し合う時間を授業後にとれるようにしている。こうした授業運営全般に関わる工夫に加え、以下のような活動・作業を通じて学生による理解の深化と、主体的な学修姿勢の会得を目指している。

・英文記事読解：アメリカ政治の舞台でリアルタイムに起きていることを読みながら、アメリカ政治の制度的枠組みや政治文化などに対する理解を深めていくため、英字新聞から興味深い記事を1本選んで配付し、翌週、簡単な記述問題を授業内で解かせる。これを解説しながら、英語力も鍛えていく。

・ディベート：第1学期は、クラスを4チームに分け、アメリカ政治の最新の争点を取り上げてディベートを行う。第2学期には他大学のアメリカ政治ゼミとディベートを行い、第1学期の経験を活用していく。

・ターム・ペーパー執筆：授業内で2～3回、全員が自らのリサーチ・クエスチョンや検証したい仮説と、研究の進捗を報告し、これに対して教員や TA だけでなく履修者同士がコメントすることで、リサーチの組み立て方などを学ぶ。

● 「地方政治 I・II」

本科目の目的は、講義で学んだことを身近な自治体の問題に当てはめて分析することで、地方自治を切り口に、現代日本社会に対する自分の考えを学生が形成できるようにすることにある。そのための工夫として、学生によるターゲット自治体についての調査を授業に組み込んでいる。履修者に対する課題はインターネットで調べられる範囲のものとし、調査結果の一部は有志による報告という形で、クラス内で共有される。同時に、報告者を含めた履修者全員の調査結果は、ラーニング・ポートフォリオシステム「manaba」を通じて教員に提出され、それ以後の授業の内容に反映される。加えて、授業で得た知識を具体的事例に当てはめて分析する能力を養うために、ビデオや新聞記事を題材とした討論の機会も用意している。

● 「日本政治過程論演習」

先端的な計量政治学研究を体験してもらうことを目的として、学生にサーベイ実験（異なる世論調査の質問文を無作為に割り当てて、回答がどう異なるかを調べる実験）を設計させ、演習用予算を使って実際にオンライン調査会社に委託して実施するという内容の演習である。サーベイ実験の実例を学ぶ回では、簡易なジグソー法を採用している。これは学生に責任をもって課題に取り組みせるとともに、通常の文献購読よりも多くの論文を読むことにもつながる。仮説と実験デザインを決める回では、2～3人の班で1つの実験を設計・実施することとし、その場でパソコンを使って先行研究を探して読んで議論するだけでなく、授業中に図書室に行くことも可とし、完全な自由行動時間としている。

学生が苦手意識をもつ傾向にある統計分析の学習は、第2学期の後半（実験を調査会社に委託して実施する間）に配置し、統計分析についていけずに授業を脱落することが少なくなるよう工夫している。昨年度に本授業とほぼ同内容を半期で行った「特別演習（サーベイ実験と因果推論の実習）」では、学術的価値のある成果を得ることができ、そこで行った実験をもとにした履修生2人との共著論文の執筆につながっている。

II. 経済学部

● 「計量経済学」

数式を理解させるために、図を多く交えてイメージによっても説明している。データ分析のレポートでは、各個人が異なる原データになるよう努めている。その結果、学生が自分自身でソフトウェアを回す機会が増えていると考えられる。

● 「環境経済学」

理論と現実をバランスよく教えるため、次のような流れで講義を行っている。

- (イ) 理論についての概論を面白そうな事例や画像を用いて数式は使わずに説明する。
- (ロ) 理論が適用できる現実の環境問題について歴史的経緯やデータ、動画などにより具体的に伝わるように説明する。
- (ハ) 数式を用いた簡単なモデルを示し、解けるようにする。

上記 (イ)、(ロ) までで最低限の知識を得ることができるようにしていること、具体的な例を多く用いていることもあり、学生からは経済学が現実はどう使われるかがわかったという反応をもらうことが多い。(ハ) についてはある程度厳密に理解したい学生向きであるため、反応が分かれるがこれは仕方のないことと考えている。

講義は pdf 化した資料をタブレットを用いてスクリーンに映し、資料を拡大したり、資料に直接下線を引く、書き込むなどにより、何を説明しているかをわかりやすくしている。教科書もタブレットから表示し該当箇所を指示、強調するなどあわせて行っている。

講義で使う図表などを含んだ資料についてはあらかじめインターネットで配布し、就職活動などで欠席した学生が後から入手可能にしてある。また、ある程度進んだ段階でまとめの資料を配布している。

なお、ラーニング・ポートフォリオシステム **manaba** を使った資料配布が授業開始日直後には行えないという運用上の問題があったが、運用の変更等、対策を検討するよう事務局に要望している。

● 「演習」

- ・法経図書センターのガイダンスを利用して、データベースの利用法および研究倫理について学んでもらっています。(2年生)
- ・学生が主体となって調べ、発表してもらう形で演習を運営しています。発表の前に、教員と打ち合わせすることで、発表の水準を高め、また、授業の運営を円滑にするよう努力しています。(2・3・4年生)

● 「日本経済論 I」

前任校でも manaba を使用していたため、当該科目でも manaba を使用した授業を展開している。具体的には、以下の通りである。

- ・出席管理のためクリッカーアプリ **respon** を使用し、出席回収時間の節約を行う。出席管理の教員側の負担も少ないため、頻繁に出席を取ることができる。履修者数は多い（250 人程度）が、出席率が高いように思う。
- ・授業時間内に講義内容に関連するミニクイズを manaba で行い、ライブで選択肢の解答割合を掲示し、学生の講義内容の理解度を把握している。学生は授業中に手を動かすことになるので、授業への参加度が高まっているように感じる。
- ・講義内で使用している manaba にアップし、欠席した学生がダウンロードできるようにしている。学生の資料の閲覧数等も確認できる。

● 「社会保障論」「経済学特殊講義（貧困地域再生の経済学）」

授業の最後 15 分から 20 分は、質問タイムとして学生からの質問を自由に行っている。質問は、他の学生と情報共有するために、その場で立ってマイクを通して質問してもらい、私が壇上から質問に対する回答をする。人数の多い大講義なので、なるべく双方向のやり取りをして、学生の参加意識を促すための仕掛けである。質問 1 回につき 2 点を加算するので、毎回 10 人ぐらいの学生が質問をする。授業だけではなく、関連するどんな質問してもよいと言っているため、予想外のテーマの質問もあるが、双方真剣勝負になるので、ライブ感がある。私の授業の中でも、もっとも盛り上がる瞬間である。また、導入部分などで、私が過去に出演したテレビ番組の特集などの動画を流すことがある。これも、大講義の単調さを和らげる工夫となっており、学生の集中力を切らさない工夫である。

● 「統計学」「外国書購読」

授業内容を復習してもらうために、授業のあとで問題を出したり、レポートを提出させたりしている。その際、manaba を積極的に使っている。質問や、授業内容に関する要望なども、manaba を通じて随時受け付けている。

● 「消費者行動」「経営学特殊講義（現代消費論）」

毎回の授業において、IC カードリーダーによる出席確認、manaba 経由でのコメント・ペーパーの提出、respon を使った授業中アンケートを実施し、学生の授業への参加意欲の向上、理解度の確認、双方向的な授業運営が行えるよう工夫している。また、授業中に提示するパワーポイントのスライドについては、PDF 化した上で、manaba および経済学部サーバ S ドライブからダウンロードできるようにしている。この他、経済・経営

関連のニュース番組の動画を授業中に提示し、出来る限り具体的な事例を通して、学生が理解できるよう工夫している。

●「経営入門演習」「産業事情（オムニチャネル戦略）」

科目問わず、前提として、担当する授業においては、実業も行っている特別客員教授として、学生に、世の中で起こっていること、産業の変化、注目企業の目指していることに興味を持ってもらい、発信されるリリースやニュースにも関心を示してもらえようようにすることを狙いとしています。その過程や興味関心をもったことの深堀りに学問としての知識が活かされることが目標です。

また、学生に興味関心を持たせることが狙いのため、「質」を「満足度」と捉え、講演やビジネススクールでの講義のアンケート調査結果で比較的好評とされる方法を取り入れています。

・経営入門演習

資料は、イメージさせること、認識のブレを少なくするために、図や画像、動画を多めに使用しています。

講義中に、質問をして、考えさせて、近くの学生と答えをシェアさせたあとに発表をしてもらっています。

グループワークは、多面的な見方や意見があることを受け入れて活かせるように、授業以外の時間も学生同士でコミュニケーションを取るくらいの負荷で実施しています。

・産業事情（オムニチャネル戦略）

資料は、イメージさせること、認識のブレを少なくするために、図や画像、動画を多めに使用しています。

講義中に、質問をして、考えさせて、近くの学生と答えをシェアさせたあとに発表をもらっています。

グループワークは、付箋と模造紙を使用してKJ法のイメージでワークをしてもらい、ロジックを組み立てて発表してもらっています。

また、ゲストを招いて、オムニチャネルで求められる実業務とそこで求められるスキルや思考プロセスも話をもらっています。

●「経営学特殊講義（価格マーケティング）」

講義の時とグループワークの時とありますが、講義の時もディスカッションをして飽きさせないようにしています。（学生は手ごわいですが。）

● 「経営学特殊講義（地域活性化のマーケティング）」

最初、3回くらい講義をした後、千葉県君津市とタイアップし、毎年、地域活性化に関する課題を出してもらい、グループワークを行い、君津市職員に来てもらい、中間報告、最終報告を行う。グループが、今の学生には楽しいようである。

● 「マーケティング（前期）」

授業の時に、関連する CM を YouTube で見せている。このセレクトによって、学生は集中して聞いているし、興味を持つものが多い。ただし、手ごわい学生もおり、一部寝ています。

● 「生産システム」「経営科学1」

大人数の授業なので、なかなか一人一人の疑問や要望を拾い上げることができず、ついついペースが早くなったり、一方通行の授業になったりしがちだった。授業評価アンケートでも、授業のペースについては学生からしばしば指摘されていた。今年度から Sli.do というウェブサービスを用いることで、リアルタイムに質問の投稿ができるようにして、丁寧な対応ができるようになった。

コメント欄には当初、雑談のようなコメントがたくさん寄せられたが、主旨をしっかりと説明することで、学期中盤にさしかかって、雑談コメントは激減している。それどころか、授業内容についての質問に、私の気付かない内に学生同士で教え合っているような投稿が見られて興味深い。

ウェブアンケートをその場で作成して、投票してもらったものをリアルタイムに教室で表示することもできるので、授業トピックへの導入や、授業中の学生のリフレッシュなどに活用できている。

● 「システム科学 I」

(工夫) 講義内容の実践を通じた理解の深化のため、グループ演習を多く取り入れている。

(知見) 通常の講義で解説した程度では、こちらが思う以上に学生は理解していない。しかし、実際に手や頭を動かしてみることで理解が深まった、という声が多い。

● 「経営統計 I」

(工夫) 通常の統計分析の内容に加えて、データ収集の方法論（社会調査法の基礎的な内容）を数コマ程度で解説している。

(知見) 学生の声によると、統計分析を扱う科目は幾つかあるものの、そもそも分析にかけるデータをどう集めるかのところから教えてくれる科目はなく、実践的役に立つ、とのことである。

● 「キャリア・デザイン」

- ・ 授業資料は manaba の活用により完全ペーパーレス化。
⇒コスト・労力の削減、欠席者や復習のためにも活用できる。
- ・ manaba による毎回のリアクション・ペーパーの提出（出席確認を兼ねる）と、教員からのコメント付き返信・評価。
⇒理解度や質疑応答だけでなく、学生が現在抱えている不安・悩み・疑問なども手取るようにわかる。
- ・ グループ・ディスカッション（GD）のやり方を毎回説明しながら（口を酸っぱくして伝えないと、実践できるようにならない）、約 15～20 分の GD を多用する。
⇒社会に入ってからでも活用できる GD スキルが身に付く。直近では、就職活動の選考でも役立つ。
- ・ ワイヤレスマイクを一番後ろに座っている学生に渡し、順番に教員と学生の双方向でやり取りしながら理解を深める。恥をかかせることが目的ではないので、「10 秒ルール（10 秒考えて分からなければ、パスして構わない）」を適用しているが、学生には「社会に入ると“3 秒ルール”が適用されるんだよ」と話している。
⇒考え、自分の言葉で話す力が身に付く。大教室でも回を追うごとに、全体的に前の方に学生が集まるようになる（↓参照）。



Ⅲ. 文学部

【哲学科】

(1) シラバスの活用を促す取り組み

近年の調査では、シラバスを活用していない学生の増加が問題となっている。そのため、教員がシラバスを充実させる取り組みはもちろんのこと、学生にシラバスの利用を促す活動に力を入れている。具体的には、4月の初めに行われるガイダンスでシラバスの重要性を伝えたり、履修相談の際に実際にシラバスをみながら指導を行ったり、といった活動が挙げられる。また、第一回の授業で教員がシラバスを提示しながら説明を行うことで、その情報が何を示し、どういった場面で有効になるのかを伝え、シラバスの有用さを理解してもらえるような工夫もしている。さらに、授業の進行の様子によっては、シラバスの内容を再構成し、それを提示することで、授業内容の振り返りにも役立て、そういったシラバスの活用の仕方も実践的に学生に示している。

(2) リアクションペーパーによるアクティブラーニングの実践

哲学科の授業においても、双方向的な授業としていく取り組みは必須である。これについては、リアクションペーパーを活用することで、多くの教員が実践していると言えるだろう。リアクションペーパーは授業参加者の理解度や関心の高さを知る上で、貴重な資料となっている。特に受講人数の多い講義のような授業では、時間内に毎回すべての学生とコミュニケーションをとることは難しいため、こういった手段を活用している。また、哲学の授業などでは、深く考えることが必要となり、短い時間内でのやり取りでは、理解が不十分なまま発言せざるを得なくなってしまう。そこで、リアクションペーパーを活用することで、十分な時間をとって学生との応答が可能となる。授業の冒頭で教員が意見や感想、疑問に答えたり、また各人にコメントを付して返却するなど、授業の実態に即した活用が出来ることも大きなメリットと言える。こういった取り組みは、文学部全体の講義科目への評価の高さにもつながっていると考えられ、今後もさらなる工夫をして、授業の質の向上につなげていきたい考えである。

(3) 学生とのつながりの強化

これまでの調査で、受講者数の少ない演習の科目では学生の満足度が高くなる傾向が見られ、また学年が上がり演習の中心とした専門性の高い授業が増えるにしたがって満足度が高くなる傾向も示された。少人数教育に力をいれる哲学科としても、こういった強みをさらに強化していこうと考え、授業内容の充実のみならず、学生とのつながりを一層深める取り組みに励んでいる。オフィスアワーの活用はもちろんのこと、授業の出席率の低い学生には早期のコンタクトを心がけ、慎重でありながら、親身で

丁寧な対応ができるよう努めている。とくにケアが必要な学生については、教員同士で連携もとりながら、対応を行う。とくに文学部では卒業論文の執筆が重視されているため、教員は自身の担当する学生か否かにかかわらず、卒業論文執筆にむけての面談や相談を積極的に行っている。

(4) 演習の授業での工夫

初学者がつまづきがちな点のひとつに、演習の授業がある。そこで哲学科では、まず一年次で必修となっている基礎演習において、演習形式の授業の受け方を学ぶような内容を増やしている。学生が二年次以降、専門的な演習に参加するときに戸惑わないよう、演習形式の授業に抵抗感をなくし、基本的な流れや、学習の仕方を学べるような回に重点を置き、授業構成を工夫している教員が多い。また、演習の授業は専門性が高いものが多く、一部の学生にとっては、満足度が低くなりがちな面も否めない。そこで、学科内のゼミで、様々な興味関心をカバーできるように、授業内容の多様化を進めている最中である。哲学・思想史系では、伝統的な輪読のスタイルもあれば、日本語文献を多読して現代の問題に引き付けた議論を展開するゼミも出てくるなど、様々な授業方法を模索している。また、美学・美術史系では、各々が作品分析と発表を繰り返すことで専門的なスキルを習得していくが、それぞれの学生が自ら問題意識を持って課題に取り組むことを主眼においており、その中で個々が自分らしいテーマを見つけ、それに取り組むための細やかな支援を行っている。

(5) アカデミック・スキルズの開講

以前は図書館が担当してきた基礎教育科目のアカデミック・スキルズの授業を哲学科で担当し、学生の基礎的なアカデミックスキルの向上を目指している。文献の探し方や、文章の書き方、体裁の整え方を十分に学べる場がないという点は、これまで問題となっていた。そこで、哲学科で授業内容を再構成し、さらに大学での学習にすぐに役立てられるような内容を拡充した。また、実践的な課題も増やし、学生が無理なく基本的な知識や技能を身に付けられるよう工夫している。これは、こういった基礎固めのできる授業が増えることで、「授業についていけない」という学生を少しでも減らすことが、全体の満足度の向上や学習意欲の増進につながると考えるためである。

(6) サポート体制の充実

本学全体の傾向として、授業の進みが早いと感じている学生の割合はすくなくない。一方で、大学の授業として求められる情報量や作業量もこなさなくてはならない現状がある。そこで哲学科では、授業の質の向上にくわえ、授業外でもそれを補うような工夫をこらしている。

二年次で本格的な演習が始まる前にジュニアセミナーを開催し、予習の仕方や効

果的な授業の受け方などを指導している。これは新たに受講する授業に不安を感じている学生らにも好評であり、年々その内容の充実を図っている。さらに哲学・思想史系では、文献読解の基礎を復習する内容の回も行うなど、基礎学力を鍛える補習の役割も果たしている。

他方、美学・美術史系では、美術館・博物館見学会等を頻繁に開催し、より多くの情報を学生に提供できるよう努めている。とくに、美学・美術史系では実際の作品を間近で鑑賞し、じっくり観察する能力を養うことが非常に重要とされる。こういった活動も含め、さらに学生にとって有用な授業にしていきたい所存である。

また、多くの教員は、授業時間外の質問や補修にも積極的に応えており、そういった取り組みによって、学生のニーズに即した授業に近づけるよう、工夫を重ねている。

【史学科】

(1) 学生の学習達成度の検証と授業への反映

・出席率について

文学部1年生全体をみると出席率が90パーセント以上との回答は83.20%を占めるが、史学科1年次の基礎演習に関しては90%を超える数値となるであろう。史学科1年次に開設した日本史概説、東洋史概説、西洋史概説については100名を超える受講生となっているが、毎回の出欠を厳しくしているため、出席率90%以上の講義77.51%と学部1年の83.2%という数値よりは若干高いかもしれない。

・課外学習時間について

1週間あたりの課外学習時間が講義では30分未満、演習で2時間未満という平均的な数値はまあ妥当な結果であるかもしれない。ただたとえば1年次の各担当者個人の集計結果を見ると、基礎演習において1時間未満が多いのは、少し残念な数値といえる。学生は報告の担当週には多くの時間を費やすが、他者の報告時に課題を事前に検討することは徹底していないようである。課外学習時間の確保は今後真剣に取り組むべきテーマである。

・授業レベルへの評価について

授業のレベルは適切であるのかという質問と、授業のレベルが難しすぎるか易しすぎるのかという二者択一の質問事項は、設問の仕方を再考すべきであろう。学生は100%に近いほとんどの学生が難しすぎるといっているが、他方でレベルは適切であるという。授業が難しすぎるというのではなく、学生は高度な内容を求めているのであろう。授業の速さが適切かという質問と、速すぎるか、遅すぎるかの二者択一の質問においても、同じことがいえる。

・教員への評価について

教員の熱意、配慮、話し方については個人差もあり、全体の統計的な平均値を見て

個々人の教員の授業へ反映させるのは難しい。まずは個々人の集計結果を見て、各自が反省すべきものであろう。しかし個々人の教員の集計結果を見て新年度の授業にどのように反映させるべきであるのか、数値だけを見て反省するだけでは難しいかもしれない。教員の熱意や刺激を学生がどのように受け止めて感じているかどうか、学生の側の意欲がどの程度あるかにも関係してくる。100%の学生が満足する授業を目指すことがよいことであるのか、それともたとえば意欲のある50%の学生が満足する授業をめざすべきであるのか、また極端に言えば20%の学生が満足する授業の方が内容のあるものになるかもしれない。数値以上の授業の質の議論を教員相互が進めていくべきであろう。

(2) 授業への取り組み例

・基礎演習（1年次）について

30名前後のクラス編成で1クラスずつ基本的に2名の教員が担当する。歴史学に必要な基本的な文献の扱い方、歴史学研究の基本的な研究論文などを日本史、東洋史、西洋史の教員が担当する。受講生はプレゼンテーションを行い、レポートも提出させるので、かなり厳しい指導をしている。卒業論文までの4年間の史学科の学習の基本を学ばせるのを目標としている。史学科の1年次の学生は、高等学校で歴史の教科を得意とし、また歴史そのものが好きだという学生が多い。それだけに学生が大学で学ぶ歴史学との差を大きく感じた場合、教員はそのギャップを埋めることに努力している。学習意欲の質を転換させていくことが重要であろう。

・研修旅行（1年次）について

基礎演習の特別課外授業として5月に1泊2日で1年次全学生、史学科教職員参加の研修旅行を毎年実施している。平成30年度は静岡県に出かけ、東海道清見関、興津坐漁荘、清水湊、駿府城、登呂遺跡、賤機山古墳を見学した。学生にはしおりを事前に作成させ、現地で報告させた。しおりの作成には大学院生が助言し、終了後にはレポートも提出させた。1年次の学生にとっては入学後1ヶ月あまりの行事であり、今後歴史学を学んでいくための基本的な姿勢や意欲を修得する場となっている。

・歴史文献講読入門（2年次以上）について

外国語の歴史研究論文や外国語史料を読みこなす学力を養う科目として設置した。平成25年度に開設し、6年目となった。西洋史分野を選択する学生のほとんどが履修しており、卒業論文の準備として大きな役割を果たしている。英語文献能力の読解能力は、東洋史、とくに東洋近代史を学ぶ学生にも効果がある。

・演習（2・3年次）について

2年次に進学したときに、日本史、東洋史、西洋史の各演習を自由に選択させ、この演習を2年間受講させることが専門研究のトレーニングの場となる。基本は史料をしっかりと読むことにある。卒業論文の執筆の際には、自分で史料を選び、読みこま

なければならない。歴史学に対する意欲を持たせるために、演習参加学生同士の自主的な連帯感を持たせることも重要である。3年次の学生が2年次を指導し、3年次のゼミ幹事が諸活動を運営する。夏と春に実施するゼミ合宿は、集中して史料を読み、各自の研究発表の場となり、日本史の場合は巡検の体験を積ませるものとなっている。

・卒論演習（4年次）について

本文 400 字 80 枚～100 枚程度、手書きの卒業論文の作成は、1年次～3年次の学習の積み重ねにある。4年生演習は最後の論文の進行をチェックするために設けた。卒論は過去の研究論文の紹介でもないし、すでに読まれている史料の紹介でもない。学生みずからが史料と格闘する作業がなければ、論文として成立しない。安易にコピペをする、極端に枚数が少ない、研究の典拠を挙げずに論文を引用する、このような卒論は厳しく判定している。学生が好きなテーマを選びながら、論文を書くことの難しさや苦しみを体験しながら、完成させる。このような学生に満足度の高さが認められる。教員は学生の能力を見極めながら、一人一人にあった指導をしている。

【日本語日本文学科】

Q11 の結果にあるように、シラバスを読まずに授業を履修する学生が多くなっていることは重要な問題である。その対策として、開講時にシラバスを紙媒体に印刷し配付して説明している授業もある。現在、その効果を検討している。

また、Q3 の結果——授業時間外での学習をほとんどしないということも重要な問題を提起している。その対策として、定期的に課題を出して、レポートを提出させ、その評価を平常点として組み込んでいる授業もある。一定の効果は出ているが、そうしたタイプの授業の履修者は減少していく傾向にある。また、manaba を活用し、学びのプロセスを把握すると同時にコメントを定期的に返却している授業もある。いずれの試みもまだ試行段階である。

Q2 学生の意欲的取り組み度、Q4 授業のレベル、Q8 授業のわかりやすさ、Q10 知的好奇心の喚起などに関しては、毎回の授業についてのコメントシートを活用することで授業改善に努めている。履修者が気軽にコメントや質問ができるように、出席カードの裏面を積極的に活用している授業もあり、多くの教員が何らかの形で実施している。履修者からのフィードバックを得ることで、授業内容に関する、履修者の理解度や質問、疑問、要望などを具体的に把握して、授業改善につなげている。また、履修者のコメントを授業内で取りあげるとは、彼らの理解を深め、彼らがより積極的に授業に取り組むことにつながっている。

日本語日本文学科は、日本語日本文学系と日本語教育系との二つの系からなる学科である。それぞれの系では授業のやり方が異なっている点もあるので、以下、系ごとに授業改

善のための取り組み例を記述する。

1. 日本語日本文学系

(1) 古典文学：古典文学の舞台となった場所の調査を、毎年いくつかのゼミで実施している。これまで、大阪・京都・奈良・吉野・熊野・琵琶湖・伊勢志摩・金沢・佐渡・水戸・日光・箱根・平泉・仙台等を調査してきた。江戸の名所めぐりは繰り返し行っている。言葉を通して想像してきた場所と実際の風景は大きく異なる場合が多い。それを体験することで、学生は言葉の力とは何か、文学的想像力とは何なのかといった重要な問題を考える契機を得ることができる。この他、授業に関連する美術館や博物館の展覧会があれば、希望する学生を中心として、見学会を実施することもある。歌舞伎や能などに関しては、映像資料を活用している。

(2) 近代文学：抽象度の高い論理的な文章や、漢語や外来語が多用される難解な文章、さらには感情の機微を読み解くことを苦手と感じる学生が増えていると思われる。そのため、映像資料や図解などを適切に使用して履修者の理解を促進する工夫をしている。また、履修者が授業で考察した作品の背景を深く理解し、その作者の生きた時代を身近に感じることができるよう、学習院大学周辺の雑司ヶ谷、文京区や台東区など、近代文学に関わる名所・建築物・墓地等の、いわゆる「文学散歩」を毎年実施している。

(3) 日本文化・民俗学：授業で取りあげた地域の調査をゼミ旅行として行っている。この調査を通じて、参加した学生は民俗学におけるフィールドワークの意義を考えるようになったと思われる。

2. 日本語教育系

(1) 日本語学：若い世代に人気のある書物を分析対象にしたり、フィールドワークを取り入れたりすることで、方法論や結果の記述について実践的に学び、履修者が興味をもって取り組めるような工夫を重ねている。

(2) 日本語教育：学生に対して、学習院大学主催の海外日本語教育研修及び地域向け各種日本語教育活動、豊島区教育センターでの外国人児童生徒の学習支援等への積極的参加を促し、日本語を母語としない人々を対象とした日本語指導に触れる機会を提供している。また、外国語教育研究センターと連携し、学内留学生に対する学生アシスタント制度を活用して、日本語を学ぶ人々との交流を奨励している。これらの、学びと実践をつなぐ工夫により、授業での学びを実践に生かすこと、実践によってもたらされた気づきや問題意識をさらなる学びへの動機づけとすることが可能となっている。さらに、国際交流基金（JF）の助成を受けて行う大学連携日本語パートナーズ（タイ2大学、マレーシア1大学）に学生を派遣し、現地での教育実習や多様な人々との交流を通じ、教育実践能力だけでなく、異文化理解能力の向上を図っている。

【英語英米文化学科】

(1) ルーブリックの導入

最近の教育界では授業計画だけでなく、授業計画に則った評価基準をどのように設けているかを、授業前に明示することが重要だと考えられている。しかし、本学部の授業計画には、授業計画表と評価に関する比較的簡単な情報（評価項目、配点等）が示されているだけで、明確な評価基準が示されていない。このことは、授業計画と評価の関連に透明性をもたせるという意味では改善の余地がある。近年の学生の授業評価の結果からも分かるように、一部の学生は授業計画に関心をもっておらず、授業計画をほとんど読まずに受講する学生すら存在する。そうした望ましくない傾向が見られる原因の一つには「授業計画と評価の関連の不透明性」がある可能性も考えられる。

そこで、英語英米文化学科では、授業計画と評価の関連性に透明性をもたせる目的で、ルーブリックを用い始めた。ルーブリックを取り入れている科目は、専任教員と非常勤講師が担当する「アカデミック・ライティング」「アカデミック・プレゼンテーション」と夏季にアイルランドで実施する「海外語学文化研修」(注)の3科目である。これらの科目の担当者は前年度中に、メール上の会議と対面式会議を行い、全担当教員の合意の上で、それぞれのルーブリックを作成する。各授業では、第1回目の授業においてルーブリックを学生に提示し、どのようなことが、どこまでできるようになると、どのような評価が得られるかを示す。

ルーブリックは、2016年度にはじめて試験的に導入したが、その後2年間の経過をみた結果、教育上の効果が得られることが確認できたため、2018年度以降も引き続き活用することにした。また、2017年度からは、卒業論文についても一部の分野でルーブリックを試験的に使用し始めたが、ルーブリックを用いることによって、卒業論文の目指すところが学生に分かりやすく提示でき、評価をする際の透明性を確保するために重要な役割を果たすことが明らかになったことから、2018年度からは複数の教員が共通のルーブリックを用いた指導を行っている。

(注) 海外語学文化研修を担当する専任教員は事前事後授業を実施し、研修先の責任者との協議を重ねた上で、授業内容、宿泊方法、成績評価等を含む研修全般の質的確保に努めている。

(2) 講義における双方向性の追求

従来の日本の大学における講義科目の場合には、一方通行的に教員の話す内容を学生が聞き取るという形式が最も一般的な授業方法であった。しかし、そうした一方通行型の講義の場合には、学生が主体的に授業に取り組む姿勢が欠如してしまう可能性があり、自発的な学習の場を提供する機会が少なくなるという欠点がある。近年の学生の授業評価のQ2への回答結果からも明らかのように、文学部の学生の「(講義科

目における)意欲的取り組み度」については、必ずしも高いとは言えない。

そうした講義形式授業のもつ欠点を補う目的で、当学科の教員は、「講義における(教員と学生の)双方向性」の実現に向けて、様々な試みをしている。具体的には、例えば毎回の講義終了時に「コメント・質問カード」を提出させ、それらの中から興味深いものや発展性のあるものを選択して、次回以降の授業の中で取り扱うといった方法を採用している。そのような形で自分の質問や見解を取り上げてもらった学生は、自分の書いた内容が認められたことに励まされ、次の学習への意欲を増し、受講態度がさらに真剣になる。このような双方向的な活動を取り入れた講義を受けた学生は、一方的に授業を聞くだけでなく、自ら進んで主体的に学習しようという意欲をもつ可能性が高く、懸案の「(講義科目における)意欲的取り組み度」を向上させることにも貢献するであろう。

当学科の講義科目を担当する教員の何人かは、受講者の出席の確認に所定の出席カードを用いる。カードの裏面は当該授業に対する学生のコメント欄になっており、受講者には、コメントを自由に書くように促し、書かれた感想や意見などは、以降の授業で活用できる場合が多い。一つの講義に対するコメント欄の記述を全て読むことにより、教員が講義で意図していたことが、受講者には必ずしも伝わっていないことに教員が気付かされることもあり、授業改善のヒントを与えられることもままある。但し、出席カードのコメント欄には、受講者にとっては、授業に対する厳しい批判は書きにくい筈である。授業に対する学生の本当の感想が教員には伝わらない可能性は小さくない。そのようなことを踏まえ、出席カードのコメント欄とは別に、無記名式で、学生による授業評価を記述形式で行わせている教員もいる。この方式によると、出席カードのコメント欄では書かれることのない、学生からの批判や意見が多く得られ、授業に活かせる余地は更に広がる。

また、授業における双方向性については、年度を超えた形で取り入れることもできる。当学科のある教員は、ある授業で、前年度の同じ授業を受講した学生が書いた「一年間の授業の中での思索方法の変化や授業内容に関する感想」の一部を紹介し、そうした学生の視点から見た見解や知見を出発点とした授業目標を設定している。このような形で(教員によるトップダウン式の目標設定ではなく)、学生によるボトムアップ式の目標設定を行うことによって、学生の主体的な学びを促進しようとしている。

(3) 反転授業によるアクティブ・ラーニングの試み

近年の学生による授業評価で、ほかの回答結果と比較して低い数値を示しているのが「学生の意欲的取り組み度」である点については、上記(2)でも触れたことであるが、当学科には、学生の意欲的取り組みを促進する目的で「反転授業」を用いたアクティブ・ラーニングに取り組んでいる教員もいる。具体的には、授業前に閲覧すべき課題としてインターネット上のテキストや動画を与え、授業で学ぶべきコンテンツ

を事前に理解させ、授業ではその内容に関する質疑応答、プレゼンテーション、ディスカッション等を行っている。こうした方法は反転授業と呼ばれるものであるが、学生達の反応は非常によく、積極的・主体的に授業の内容の理解に努めており、批判的思考力と創造的思考力も向上している。

また、追加的な「反転授業」としては、G-port に音声教材のファイルを登録してリスニングの予習をすることを指示したり、動画等のファイルを学生に USB メモリ等の形で渡し、それを前提に授業をしている教員もいる。その授業では、さらに Moodle を利用して、課題を動画のクリップ付きで受講生に提出させ、それを教員がコメントの上、返却している。これらのやりとりはすべてネット上で行うことが出来るので、提出した受講生と教員のやり取りを他の受講生も見ることが出来る。一人の受講生への教員からのコメントを全受講生が共有できるので、教員と学生の間での双方向の教育というだけではなく、受講者同士の横のつながりをも促すことが出来る。

Moodle を利用したさらなる利用法として、卒業論文（卒業研究）への計画的な取り組みが挙げられる。本学科では全員の学生が 3 年次 4 年次とゼミに所属し、ゼミの担当教員の指導のもとで卒業論文（卒業研究）を完成させることになる。教員による卒論（卒研）指導をすべて Moodle 上のファイルのやりとりとして残すことで、学生が卒論（卒研）の進展を逐次確認できるようになる。また過年度の学生と教員とのやりとり、他学生と教員とのやりとりを学生達も閲覧できるようにすることで、特に卒論（卒研）の進め方に不安を持つ 3 年次の学生に対して、卒論（卒研）完成への指針を示すことができるようになる。

このような新しい様々な試みの成果を将来的に公にすることなども含め、今後も努力を積み重ねて行くことに努めている。

【ドイツ語圏文化学科】

(1) 基礎教育の充実

ドイツ語圏文化学科では、学生が自らの興味に応じて 3 年次から三つのコース（言語・情報コース、文学・文化コース、現代地域事情コース）のうちいずれかを選択し、専門の勉強を始める。三つのコースに進む前の段階として、1・2 年次は、基礎的なドイツ語力を付けるカリキュラムが組まれている。その中心となるのは、日本人教員が担当する初級・中級文法のクラス（通年週 1 コマ）と母語話者と日本人の教員がチームティーチングをするコミュニケーション主体のクラス（通年週 3 コマ）である。これらの授業の参加者はいずれも基本的に 1 クラス 25 名以下（再履修者がいても 30 人以下）に押さえられており、これはアンケート項目の「総合的に見てこの授業は高く評価できる」の「総履修者別」集計結果で、もっと評価が高かった「25 名以下」(4.47 ポイント) をカリキュラムとしてすでに実現していることになる。

また、1 年次は、「現代地域事情入門ゼミナール」を 1 年履修することが必修とな

っており、現代ドイツ語圏の基本的な情報を習得するとともに、発表の仕方、文献検索の仕方、レポート作成といったアカデミックスキルの指導も行っている。来年度からは、この指導を更に効率化するために、第1学期に「アカデミックスキルズ入門」という科目を設定し、第2学期は、現在1年次生全員が1クラスになっている「現代地域事情入門ゼミナール」を2クラスにし、第1学期に習得したアカデミックスキルをもとに、ドイツ語圏の事情を調査・発表する授業形態に改めるというカリキュラム改善案を検討しているところである。

2年次はすでに細かい指導が可能になるようにクラスを二分割し、1学期完結の形で「言語・情報コース入門ゼミナール」と「文学・文化コース入門ゼミナール」を必修としている。

このように2年間にわたり三つの入門ゼミを受講することで、文化学、言語学、文学の基礎知識を得ることができ、3年次に専門コースを選択する際に役立つように設計されている。

(2) アクティブ・ラーニングの実践

ドイツ語圏文化学科のゼミナールではほぼすべてでリアクションペーパーを導入し、学生の学習状況を把握し、質問等にきめ細かく答えられる態勢になっている。また、予め課題に関するレポートを提出させ、授業中ではその内容に対する討議を行う「反転学習」も実践している。

その一環として、毎年5月に、1年生、3年生を対象にした文献検索等のガイダンスを大学図書館に依頼し実施している。各コースゼミナールにおいて、ゼミの内容に関連した課題を出し、ガイダンスに参加することで課題が解けるように企画している。また、学年ごとの学生の到達目標を勘案し、教員と図書館職員との打ち合わせをした上で実施してもらっている。これにより、1年生は基本的な文献の検索、3年生は卒業論文・卒業研究執筆に必要な専門文献を検索し入手する技術が身につくようにしている。

コースゼミナールと専門演習においては、学生の積極的な参加を促すグループワーク形式を採用し、課題発見力、発信力、問題解決力の養成を目指している。

(3) 学術講演会の実施

ドイツ語圏文化学科では、コースゼミナールの時間帯や土曜日など学生が参加しやすい時間帯に年に複数回の学術講演会を実施している。ここには、ドイツ語圏の著名な研究者のほか、情報番組の制作者や作家などを招待しており、学生に多くの知的刺激を与えるように工夫を凝らしている。これにより、コースゼミナール等で学習した内容を学際的な観点から振り返りことができるとともに、国際的な研究とのリンクを通して、総合的な学術能力を養えるようにしている。

(4) 卒業論文・卒業研究のきめ細かな指導体制

卒業論文指導は、3年次の7月に行われる第1回ガイダンスから始まる。続いて11月に行われる第2回目のガイダンスでは、具体的テーマの絞り込みに関する相談が行われる。4年次初めには、これらの結果をうけて卒業論文準備レポートの提出を課し、その審査を経て指導教員の決定が行われ、学生は指導教員の面接指導等を受けながら卒業論文を執筆することになる。卒業研究では、学生が自分の所属するコースゼミの内容に関連したテーマを考え、教員と相談しながらテーマを決定し、指導教員の面接指導等を経て書き上げる。卒業論文も卒業研究も、年度ごとの執筆要綱が学科ホームページからダウンロードできるようになっており、その要綱に沿って論文を書くことが求められる。

このように当学科では、学生一人一人に対して、教員が多く時間を割き、きめ細かな指導を行っている。

【フランス語圏文化学科】

- (1) 学生の意欲を高め、かつ授業を双方向的なものにするべく、リアクション・ペーパーを活用している。これによって、授業中のみでは把握できない学生の疑問、意見などを汲み取り、それらに柔軟に対応できるようにしている。また、授業の理解度、興味の方角性などを見極めるための資料ともしている。
- (2) 授業で課すレポートなどの提出物は、出したままで終わらないよう、課題全体についての講評を行なうことに加え、添削やコメントなどを付して個別に返却している。
- (3) フランス語の授業については、学生間での習熟度の差について授業担当者同士で情報を共有し、できる限り躓いた、ないしは躓きそうな学生をフォローするようにしている。出席状況が悪い学生については学科会議で話し合い、教員全員が情報を共有して対応するようにしている。また、出席状況の悪い学生とは主任、教務委員、助教を中心とした教員が面談を行なっている。事例によっては学生相談室とも連携して対応している。
- (4) 年に1～2回ではあるが、日本語話者による（またはフランス語話者に通訳がつく）講演会も開催し、フランス語圏文化の知識を深める契機を提供している。
- (5) 学科として、3年次学生全員に「3年次レポート」を課している。これは、学生自身が関心を明確化し、また文章の構成などに習熟するための機会であるが、同時に、4年生で履修する必要がある卒業論文、卒業翻訳、卒業演習のいずれかを選択するす

るにつき、教員が学生の適性や関心をきめ細かく把握できるようにするためのものでもある。特にその学生をゼミで担当する教員は、「3年次レポート」を元に個別に対応、指導している。

- (6) 新たな試みとして、2年次学生全員に、良質なレポートを作成するための課題を与える予定である。これは、より早い段階でレポート作成能力を習得させることを目的としている。「基礎演習2」の担当者が授業内で課題を配布し、夏期休暇中に各人に取り組みさせる。教員は夏季休暇後に集めた課題にコメントを付して返却し、それぞれの学生の力を伸ばすことを目指す。

【心理学科】

- (1) 新学期の履修ガイダンスにおいて、シラバスの活用をさらに促す

授業評価アンケートの結果から読み取れる問題の一つは、多くの学生がシラバスをあまり活用していないということである。この問題を解決するために、心理学科では、例年、新学期の履修ガイダンスにおいて、履修する授業を決める際には必ずシラバスを十分に読むようにと指導している。今後は、ガイダンスにおいてシラバスの活用をさらに促すとともに、シラバスの一部分だけ（例えば、成績評価の方法・基準」欄だけ）しか読まない学生が散見されるので、シラバスは最初から最後まですべてをよく読むようにという指導も行う。さらに、新入生に対する履修ガイダンスでは、そもそもシラバスとは何かをよく知らない学生も多いであろうことを考慮して、シラバスとは何かという説明も加える予定である。

- (2) 授業時間外の学習時間を確保する

授業評価アンケートから浮き彫りになる第二の問題は、授業時間外の学習時間が短いことである。そこで、授業時間外の学習を促すために、一部の授業では、毎回の授業前にG-Portを通じて自習のための課題を出している。学生は、準備学習として授業時間外に課題を行い、次の授業の際に持参して提出する。提出された課題は定期試験前にすべて返却し、授業全体を振り返って復習することができるように配慮している。

- (3) ビデオ教材も含めた視聴覚教材を活用する

一部の講義科目では、授業内容をより明瞭に理解できるようにするために、Power Point等のツールを使用して視聴覚教材を活用している。さらに、ノートパソコンを用いて動画を手軽に提示することが可能になっていることから、図や写真などに加えて、ビデオ教材も提示することで、授業内容をさらに具体的に理解できるように配慮している。

【教育学科】

(1) 理論と実践の往還の重視

一方において、必修科目である「教育学理論」・「初等教育学」などの理論的な科目で、教育・人間・公教育に関する思想を講義しており、他方で、必修科目である「自然体験実習」・「社会体験実習」などの実践的な科目で、教育・子ども・学校のフィールド研究を体験している。これらを同時に学ぶことによって、教育における理論と実践の往還を目指している。また、模擬授業等も、この視点から取り組んでいる。

(2) 1年次から4年次までの演習における学習・研究の取り組み

1年次「基礎演習」、2年次「教育学・教育実践演習Ⅰ」、3年次「教育創造演習」、4年次「卒業論文指導」を開講して、4年間を通して教員と学生による演習を展開している。基礎演習では、大学での学問をするための基礎・基本を習得し、教育学・教育実践演習Ⅰでは、教育学という学問を教育基礎学・教育実践学・教育創造という三つの観点から深め、教育創造演習では、ゼミナールの選択と卒業論文の掘り下げをおこない、卒業論文指導では、具体的に卒業論文に取り組んでいる。

(3) 小学校教員としての教育力の育成

小学校教員養成のための理論的科目では、教育の基礎・心理・制度・課程について、レクチャーしている。これらを前提として、実践的科目では、教科教育と教科外教育について、ワークしている。学習指導要領の学習、学習指導案の作成、模擬授業の実施、については、すべての教科教育法で取り組んでいる。これらをふまえた上で、4年次においては、「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」において、4週間にわたって、小学校の現場実習をおこなっている。

(4) 現代的課題の学び合い

「世界の教育」・「教育社会学」などの教育と現代社会に関する科目、「環境教育論」・「ボランティア学習論」などの新しい実践の創造に関する科目、「発信技法」・「アクティブ・ラーニング」などの表現と体験に関する科目、を配置することで、それぞれの学生の興味・関心に即して、これまでの学習・研究が深化できるようにしている。

(5) 学生の進路についての情報共有と対応

この3月に卒業した第3期生の進路は、小学校教員を中心として、大学院・企業・公務員・その他、となっている。例年のことではあるが、卒業や進路に関して、一人ひとりの学生の状況を教員間で情報共有しながら、丁寧に対応していく。

IV. 理学部

- 新年度開始から1、2か月経過後、学科ごとに1年生と助教から教授までの教員全員との懇談会を行い、そこでの1年生の感想・意見等について教員間で検討し、教授会で報告している。さらに、問題点があれば教授会で議論し、必要に応じて、外国語教育研究センター等の他部門にも報告し、授業改善を要請することもある。
- 体系化された学問は各科目間のつながりが強く、一つの科目では完結し得ない。理科系科目においてはその傾向は特に強く、科目担当者の密な連絡がなければ講義を進めることができない。そのため、学科ごとに、教員は教室会議等でかなり頻繁に授業の情報交換をしている。特に物理学科では、非常勤講師も含めた教員間のメーリングリストを用い、授業内容や進度の細やかな情報交換を行っている。
- 授業内容の理解を促進するために、授業途中ないし授業の最後に授業の内容に関する簡単な小テストをおこない、その場または次回の授業で解答を解説している。小テストは教科書の練習問題または章末問題からそのまま出題するということを予告し、自発的な予習を促している。期末試験に加えて学期途中に中間試験を実施し、その問題を使った演習を行うことで、学生の理解度を図っている。
- 数学科において、特に1、2年生の基礎的科目（「線形代数」、「微分積分」等）で小テストを頻繁に行った。学生のレベル把握が深まり、それに応じた適切な指導が可能となった他、学生にとっては、テスト前だけでなく日常の学習を心がけるように見受けられた。
- 「代数学」の授業において、授業中に解説する定義や定理・命題等を簡単に纏めたものを予習・復習用にホームページにアップした。その際、証明や詳しい解説をあえて書かないことで、学生の自主的な学習を促すようにした。
- 試験の結果について、各設問に対する得点分布を度数分布表によって視覚化したものと共に学生にフィードバックした。これによって、単に合格点に達したかどうかでなく、学生個々人が自らの理解度を把握できたと思われる。
- 担当している必修および選択科目については、授業内容をしっかり理解させるために学期末試験に加え、中間試験を実施している。両試験においては出題傾向は変えないものの、試験問題そのものは毎年同じにならないようにしている。なお、これらの試験前に

は、試験範囲の中での重要事項についてまとめを行い、理解を深めさせている。さらに試験実施後は速やかに採点し、答案の返却を行うと共に、その答案をスキャン後、大学で導入しているラーニング・ポートフォリオシステム「manaba」に学生ごとに個別にアップし、学習成果として保存し、積み上げられるようにしている。

- 2年生および3年生の実験科目について、行った実験の方法や原理を正しく理解し、得られた結果を正確に記載した上で、その結果についてしっかり考察できるよう、提出された実験レポートについて速やかに添削を行い、履修者全員にレポートの修正版の再提出を行わせている。「再提出」でも不十分な場合は添削した後、さらに修正を求め、しっかり内容になるまで添削ならび提出を繰り返している。それら添削されたレポートについては、スキャンした上でPDFファイルとして学習支援ツールである「manaba」に個別にアップし、学習成果として積み上げている。
- 実習の科目で、実際に用いる実験手法の原理について小テストを行った。これにより、実習内容の予習をした学生が増えたように見受けられた。
- 生命科学科に入学してくる学生には、高等学校で生物を履修していない学生もいることから、生命科学科1年前期の必須科目「生化学1」において、高等学校の生物教育における最重要用語（日本学術会議選定）250語について小テストを行なった。
- ブランディング事業の一環として、生命科学科を中心に、超高齢社会問題を文理連携で考える理学部提供の基礎教養科目『生命社会学』を昨年度から開設した。本学の全学部・全センターから講師をラインナップし、ワンキャンパスの特性を活かした新たな学際科目である。特徴の一つは、特定のテーマについて理系・文系の教員がそれぞれの立場から、トピックスを交えつつフロント研究と政策の現場をセットで講義する点にある。例えば認知症問題をテーマにした場合、認知症がどのようなものか、認知症研究のフロントラインがどこにあるのかを理系の教員が紹介し、文系の教員は認知症の後見人問題について、法整備の観点から問題を提起した。履修生には、認知症を科学的な側面と法的な側面の両方から捉えるトレーニングがなされることとなる。また特徴の二つ目として、関連問題について発問をし、参加者を班に分けてグループ討論を行い、各班の代表者に議論の要点を整理して紹介させるアクティブラーニング方式を採用した。文系・理系の学生が混在した班で議論することにより、同世代ながら異なる視点からの意見を聞く機会を創出できた。その結果、今までにない新たな知的刺激を受けたと言う学生が多く見受けられた。毎回の授業の最後ではリアクションペーパーを提出してもらい、次回の講義時に全員分の内容を配布したことで、より深く掘り下げて対象テーマを考える機会を提供した。学生たちは回を重ねるごとにアクティブラーニングに慣れ、討論に参加する

ための知識も増え、考える視点についても幅が広くなり、超高齢社会問題について深掘りした議論ができるようになった。

V. 国際社会科学部

- 「Cross-Cultural Organizational Behavior」

- 「International Human Resource Management」

いわゆる大講義（受講生 200 人以上）ではよくありがちの「授業外の学習時間が少ない」という問題意識をもち、以下のような改善策を取り組んだ。

毎回の授業で課題を出し、その課題の内容は次回の授業でクラス・ディスカッションの内容になる。さらに、大人数によるディスカッションは難しくなかなか学生たちは発言をしない傾向がある。その対策として、「発言ポイント制」を取り入れて、クラスで積極的に発言をした学生はポイントをもらい、授業評価に反映する。一方、英語による専門科目であるので、英語による発言が難しく感じる場合、**Reaction paper** に英語で意見を書き、いずれは言葉でも表現できるように奨励する。

また、学期中に 2 回のテストを実施することで、授業で学んだ内容を授業外の時間で復習するきっかけとする。

上記の改善策を通して、受講生は課題を行い、テストの勉強をすることで授業内容の復習・予習につながり、授業外の学習時間も増えることが期待できる。

- 「Case Study Methods」

この科目を実施するのは初年度であったが、他の英語科目のアンケート結果を受け、次の対策を実施した。

1. 英語科目では、内容についていけない学生がどうしても一定数いるので、対応する日本語スライドも作成し Moodle にアップし、学生が必要に応じて日本語版も見られるようにした。
2. 授業 1 回分を授業外で行なうデータ収集・分析の課題に当て、日本語での補足説明を希望する学生のみを対象に復習授業を行なった。

- 「ミクロ経済学」

質問・問いかけを増やすことにより、より能動的な学習を促した。

- 板書とスライド（穴埋め式）のバランス、および穴埋めの箇所について毎年度再検討し、変更を加えながら授業を行っている。年々進度の速さや難度の高さを指摘する回答が少なくなってきたおり、一定の効果が得られていると考えている。

- 授業の進度が早いとの回答が多かったため、講義全体の分量を減らし、各トピックに費やす時間を増やした。

- 1) In all classes, students expressed that my speaking speed was too fast. I have practiced slowing down my speech and have recorded my voice to check my speaking speed. I hope it is a more suitable speed for students now.
- 2) Students expressed that there was too much material in EITW. I have shifted some of the student tasks to in-class tasks and provided more support through revised PPT lectures to present material in more details. Informal end of course feedback I have received from students this year (Reiwa 1) indicated that students appreciated this PPT support and could understand the material well, and it supplemented the bridge lecture course in international economics.
- 学生の授業の中の重点を認識してもらうため、毎回ミニテストを実行することにした。これにより、学生の方も当方がどうした点に力点を置いているか分かると思う。
- ・授業の進行スピードが速いというコメントがあったため、授業中適宜、質問を受け付ける時間を取った。
- ・課題の答えを書く時間が足りないとのコメントがあったため、希望者にはオンラインで授業後に提出することを認めた。
- 「入門演習」

従来、受講生を4つの班に分け、中間報告と最終報告の2回にわけて、各班にプレゼンを行うように指示していた。ところが、班ごとのメンバーで顔を合わせる機会が少ないため、学生の要望を踏まえて、中間報告と最終報告のそれぞれの前の授業で、最後の20分を、学生同士の議論の時間にあてるように変更した。その結果、とくに中間報告の発表の水準が上がった。
- 「海外研修Ⅱ」

キャリア教育の一環として、毎学期ゲスト講師を招いて、ゲストの留学経験、海外経験、キャリアチョイスに基づいて、レクチャーをしていただいている。ゲストのレクチャー部分についてはFDの授業評価項目に直接出てこないが、別に行っている学生の最終コメント記述において「大変よかった」と、例年高く評価されている。今年度は、そこから、一歩進めて、各ゲストがどのように自己分析を行なった上でキャリアを築いてきたのかに着目させて、レクチャーを聞き、レクチャー後のレポートを書くようにさせた。キャリア教育における自己分析能力を身につけさせることが重要であるからである。各ゲストの自己分析枠組みの4つのうち2つは、ゲストの方と担当教員が協働して開発・改良した。

- アンケートの結果をみると改善すべき点がありませんでしたが、
 - ・どのクラスでも、評価基準をはっきりさせて学生に提示すること
 - ・各活動の狙いを説明時に確認すること
 - ・英語力が低くても、課題の積み重ねによって良い成績をとることが可能なことの3点はこころがけ授業を実施した。

- 「アフリカ経済論」

授業の内容量が多い、講義のスピードが速いという意見が多かったため、内容を少し減らし、話すスピードを遅くするよう意識した。また、重要なポイントがわかりにくいという意見もあったため、重要な用語はパワーポイント資料でも色を変え、重要な用語であることを口頭で何度も言うようにした。

VI. 計算機センター

以下に、授業への取り組み例を述べる。それぞれ、科目の担当教員が独自の判断と工夫のもとに行なっているもので、組織として取り組んでいるものではない。

初等情報処理科目の講義では、学生の情報リテラシーの幅が大きく、従って、授業内容の理解に困難を感じる学生へのフォローが重要である。特に、限定的ではあっても、反転学習の手法を導入し、擬似的に個別指導を行うことにより、学生の個人差に対応できることが期待できる。この目的の為に、通常は口頭で内容を補うことを前提に作成する資料を、詳細なレベルで作成し、学生が予習・復習に利用できるよう事前に資料を Web にアップロードする試みを行なっている。利用する学生と利用しない学生に明確に分離してしまうが、利用する学生はリピート率が高く、効果があるように感じられる。

また、大人数クラスでは、質問などをしにくい雰囲気にあるので、独自に「匿名掲示板」システムを開発し、運用している。匿名掲示板は、学生が授業中にコメントや質問をネットワーク掲示板に書き込み、それを教員・学生がリアルタイムに見られるようにしたシステムである。教員は、質問やコメントを見ながら、学生の理解度を測ることが可能となり、理解度に応じて授業の進行を調整することが可能となる。学生も、他の学生に遠慮をすることなく、簡単な質問でも行うことができ、また、コメントにより教員に自分の理解度を伝えることができる為、授業に対する参加意識が高まる。匿名であることが重要であるが、匿名であることにより授業妨害などの弊害が生じる可能性があるため、書き込みのログを残すようにし、問題が生じた場合には学生を特定できるような工夫も行なっている。もともと、このようなシステムが存在しなかった為、独自にシステムを開発して運用しているが、現在では商用サービスとして類似のサービスが提供されている。

プログラミング教育では、ハンズオンの教育効果が高いことが、従前より指摘されている。特に、最近では、**Jupyter** というハンズオンを効果的に行う環境が開発され、また、**Jupyter** の動く **Python** というプログラミング言語が企業で広く使われるようになってきたことから、**Jupyter** の環境で **Python** を学ぶ講義の試みを実施している。但し、学内ネットワークでは、システム的な理由から、**Jupyter** の利用は難しく、その為、独自にサーバーを立ち上げ、学生がインターネット経由でハンズオン環境にアクセスするシステムを立ち上げるところから始めざるを得なかった。この試みは現在も継続中であり、最近注目を浴びているデータサイエンスの教育も視野に入れて、順次規模を拡大していきたいと考えている。

VII. 外国語教育研究センター

- コミュニケーションの授業では、授業時間の一部を使い、写真やビデオを見せながら現地の文化や社会等に関する説明を行い、学生たちの興味関心を喚起するよう努めた。
- リーディングの授業で、書画カメラでテキストを映し出し、直接原稿に線や矢印等を書き込んで、文の構造や、他の文との関係等を示すことで、学生の読解を助けた。
- 練習問題を解かせる際に、学生たちの机の間を頻繁に行き来し、理解の不十分な学生を見つけて、分からない点を再度説明したり、より噛み砕いた説明で理解させるように努めた。
- コミュニケーションの授業で会話や作文の練習をする際、学生の興味やモチベーションを高めるため、インターネット上の当該言語のサイトを教材に使い、その言語や社会等に対する親近感を持たせるようにした。
- 文法の授業で、学習内容が定着しやすくなるように、単元毎に試験を行った。
- リーディングの教材として、新聞や雑誌、インターネットのサイト内のテキスト等を用いて、アクチュアルな題材を取り上げることで、学生の興味を刺激するよう努めた。
- オンライン学習支援システムを利用して、自宅からアクセスすることで授業後も継続して学習できる環境を提供している。
- オンライン学習支援システムで問題毎の正答率を出して、正答率の低い項目を重点的に復習させるようにした。
- 言語表現等の上達を図るため、授業中に当該外国語でブログを書かせ、コメントや意見を付け加えて返すようにしている。
- 興味を持たせながら語彙を増やすために、当該言語の辞典での語句の定義や解釈を示し、その語句を推測させた。
- 日本語以外の外国語科目で、ネイティブスピーカーおよび長期留学経験者のティーチングアシスタントを使い、学生の実践的な演習の機会を増やした。

VIII. スポーツ・健康化学センター

- 「教員は熱意を持って授業を行なっている」「教員は理解しやすい授業を行なっている」に「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答する学生が一定数いる。これらの状況を改善する効果も期待して、専任教員・非常勤講師を併せて4名は、公益社団法人全国大学体育連合の開催する教養体育の指導者養成講習会およびスノーボード研究会研修会に参加し、教授方法、実技指導方法などの講習を受講した。他大学の教員とも意見交換を行うなど、教育能力の向上に努めている。
- 「施設・用具も含め授業の準備は十分なされていた」に「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答する者が一定数いる。近年の猛暑による熱中症対策も考慮して、体育館に工業用大型扇風機、冷風機を設置した。また、卓球場にエアコンを設置した。

第5章

資料集

(質問項目別基礎データクロス表)



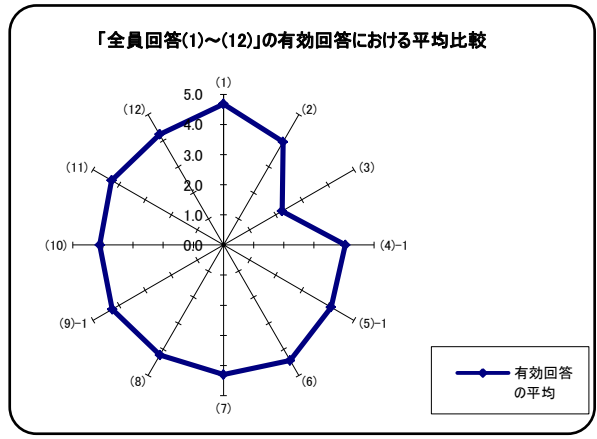
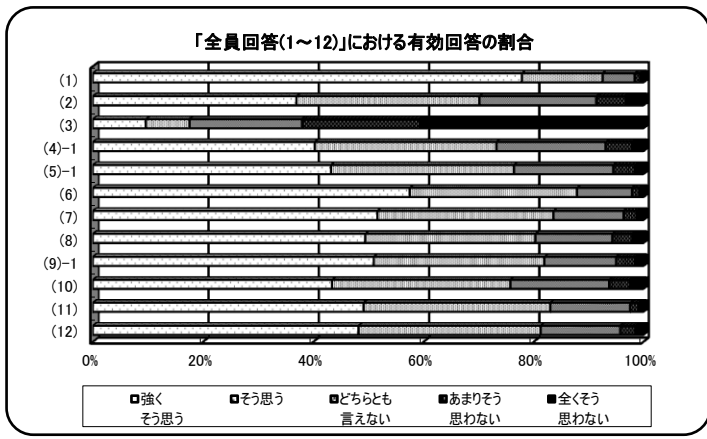
学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

部門名 全科目

	合計	総履修者数	回答率
回答数	71,444	119,047	60.01%

形態名 全形態(講義・演習・語学)

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5 強く 思う	4 そう 思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5:90%以上 4:80%以上 3:70%以上 2:50%以上 1:50%未満	55,513	10,505	4,160	759	371	136	71,444	4.68	0.678	4.67	0.254
			77.70%	14.70%	5.82%	1.06%	0.52%	0.19%	100.00%				
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	26,185	23,534	15,084	3,830	2,257	554	71,444	3.95	1.040	4.10	0.427
			36.65%	32.94%	21.11%	5.36%	3.16%	0.78%	100.00%				
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5:3時間以上 4:2時間以上3時間未満 3:1時間以上2時間未満 2:30分以上1時間未満 1:30分未満	6,784	5,555	14,361	15,065	28,563	1,116	71,444	2.25	1.317	2.44	0.708
			9.50%	7.78%	20.10%	21.09%	39.98%	1.56%	100.00%				
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	28,611	23,400	14,118	3,463	1,434	418	71,444	4.05	0.988	4.13	0.457
			40.05%	32.75%	19.76%	4.85%	2.01%	0.59%	100.00%				
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5:難しすぎる 4:易すぎる	4,173	494	-	-	-	230	4,897	-	-	-	-
			85.22%	10.09%	-	-	-	4.70%	100.00%				
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	30,668	23,556	12,846	2,831	1,069	474	71,444	4.13	0.945	4.22	0.431
			42.93%	32.97%	17.98%	3.96%	1.50%	0.66%	100.00%				
(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる	2,892	759	-	-	-	249	3,900	-	-	-	-	
		74.15%	19.46%	-	-	-	6.38%	100.00%					
(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	40,894	21,616	7,141	961	510	322	71,444	4.43	0.783	4.49	0.337	
		57.24%	30.26%	10.00%	1.35%	0.71%	0.45%	100.00%					
(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように 配慮している	36,512	22,623	9,043	1,684	870	712	71,444	4.30	0.870	4.41	0.359	
		51.11%	31.67%	12.66%	2.36%	1.22%	1.00%	100.00%					
(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	35,113	21,946	9,969	2,618	1,408	390	71,444	4.22	0.955	4.32	0.469	
		49.15%	30.72%	13.95%	3.66%	1.97%	0.55%	100.00%					
(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	35,746	21,717	9,186	2,400	1,090	1,305	71,444	4.26	0.921	4.36	0.431	
		50.03%	30.40%	12.86%	3.36%	1.53%	1.83%	100.00%					
(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5:速すぎる 4:遅すぎる 3:その他/聞き取りにくい	1,243	167	1,831	-	-	249	3,490	-	-	-	-	
		35.62%	4.79%	52.46%	-	-	7.13%	100.00%					
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいもの見方が得られたりした	30,795	22,960	12,806	2,744	1,673	466	71,444	4.11	0.985	4.20	0.442	
		43.10%	32.14%	17.92%	3.84%	2.34%	0.65%	100.00%					
(11)	この授業は、シラバスに示されていた 授業内容と合致している(シラバスを読まなかった人 ⇒ 38.47%)	19,523	13,461	5,801	601	352	4,218	71,444	4.29	0.833	4.35	0.363	
		27.33%	18.84%	8.12%	0.84%	0.49%	5.90%	100.00%					
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	34,233	23,464	10,301	1,966	1,040	440	71,444	4.24	0.902	4.33	0.435	
		47.92%	32.84%	14.42%	2.75%	1.46%	0.62%	100.00%					





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

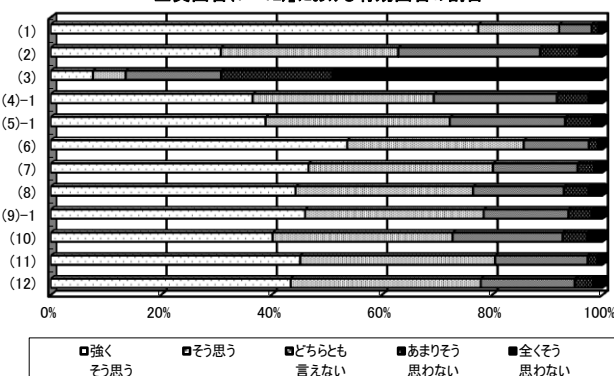
部門名 全科目

形態名 講義

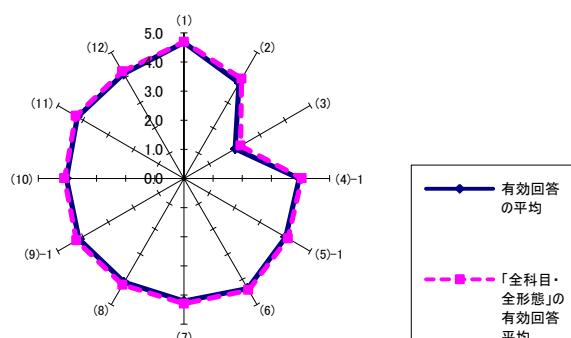
	合計	総履修者数	回答率
回答数	45,780	88,325	51.83%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース					
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差	
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	35,405	6,693	2,692	546	342	102	45,780	4.67	0.708	4.64	0.250	
			77.34%	14.62%	5.88%	1.19%	0.75%	0.22%	100.00%					
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	14,017	14,608	11,668	3,194	1,938	355	45,780	3.78	1.088	3.85	0.416	
			30.62%	31.91%	25.49%	6.98%	4.23%	0.78%	100.00%					
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	3,459	2,665	7,774	9,066	22,054	762	45,780	2.03	1.261	2.10	0.517	
			7.56%	5.82%	16.98%	19.80%	48.17%	1.66%	100.00%					
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	16,662	14,941	10,142	2,620	1,134	281	45,780	3.95	1.021	3.97	0.501	
			36.40%	32.64%	22.15%	5.72%	2.48%	0.61%	100.00%					
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	3,302	279	-	-	-	-	173	3,754	-	-	-	-
			87.96%	7.43%	-	-	-	-	4.61%	100.00%				
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	17,713	15,183	9,496	2,213	861	314	45,780	4.03	0.981	4.06	0.452	
			38.69%	33.17%	20.74%	4.83%	1.88%	0.69%	100.00%					
(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	2,346	529	-	-	-	-	199	3,074	-	-	-	-	
		76.32%	17.21%	-	-	-	-	6.47%	100.00%					
(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	24,475	14,569	5,376	730	386	244	45,780	4.36	0.815	4.37	0.358		
		53.46%	31.82%	11.74%	1.59%	0.84%	0.53%	100.00%						
(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	21,163	15,147	6,942	1,363	674	491	45,780	4.21	0.912	4.26	0.367		
		46.23%	33.09%	15.16%	2.98%	1.47%	1.07%	100.00%						
(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	20,194	14,625	7,495	2,064	1,114	288	45,780	4.11	0.999	4.14	0.490		
		44.11%	31.95%	16.37%	4.51%	2.43%	0.63%	100.00%						
(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	20,706	14,532	6,891	1,903	866	882	45,780	4.17	0.965	4.19	0.446		
		45.23%	31.74%	15.05%	4.16%	1.89%	1.93%	100.00%						
(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	997	124	1,442	-	-	-	206	2,769	-	-	-	-	
		36.01%	4.48%	52.08%	-	-	-	7.44%	100.00%					
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	18,277	14,831	9,063	2,041	1,233	335	45,780	4.03	1.012	4.09	0.450		
		39.92%	32.40%	19.80%	4.46%	2.69%	0.73%	100.00%						
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 38.49%)	11,601	9,059	4,301	448	238	2513	45,780	4.22	0.851	4.25	0.340		
		25.34%	19.79%	9.39%	0.98%	0.52%	5.49%	100.00%						
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	19,777	15,666	7,723	1,508	784	322	45,780	4.15	0.933	4.18	0.441		
		43.20%	34.22%	16.87%	3.29%	1.71%	0.70%	100.00%						
「講義」 「語学」 のみ	(13)	板書の仕方やすライド提示の仕方は適切である	20,225	14,233	6,617	1,848	947	1,910	45,780	4.16	0.974	4.19	0.434	
			44.18%	31.09%	14.45%	4.04%	2.07%	4.17%	100.00%					
	(14)	教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である	20,442	14,429	6,883	1,265	706	2,055	45,780	4.20	0.919	4.23	0.383	
		44.65%	31.52%	15.03%	2.76%	1.54%	4.49%	100.00%						

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較





学習院大学 平成30(2018)年度 授業評価アンケート 集計結果

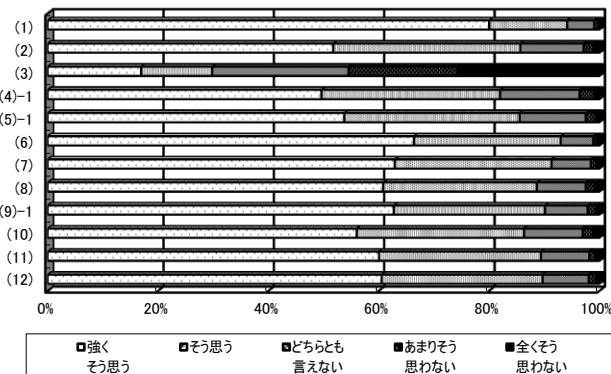
部門名 全科目

形態名 演習

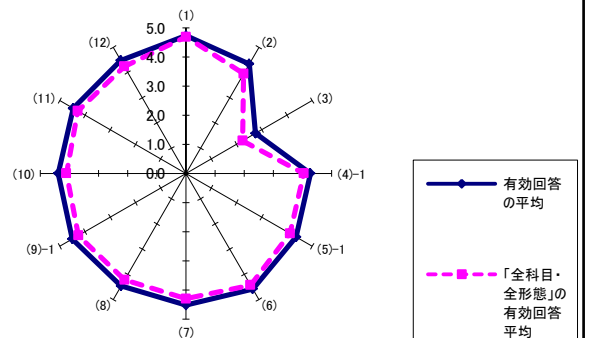
	合計	総履修者数	回答率
回答数	13,400	16,105	83.20%

回答対象	番号	質問内容	回答者ベース						科目ベース				
			5	4	3	2	1	無回答	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別 形態別 平均	部門別 形態別 標準偏差
			強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
「全員」 回答	(1)	私のこの授業への出席率は 5: 90%以上 4: 80%以上 3: 70%以上 2: 50%以上 1: 50%未満	10,709	1,888	657	105	22	19	13,400	4.73	0.602	4.70	0.274
	(2)	私はこの授業に意欲的に取り組んでいる (事前の準備や復習等を含む)	6,881	4,507	1,522	239	142	109	13,400	4.34	0.829	4.36	0.317
	(3)	私がこの授業のために、授業時間外で学習に使った時間 (予習復習・課題作成等を含む)は、1週間あたり平均で 5: 3時間以上 4: 2時間以上3時間未満 3: 1時間以上2時間未満 2: 30分以上1時間未満 1: 30分未満	2,238	1,701	3,261	2,613	3,392	195	13,400	2.76	1.405	2.78	0.789
	(4)-1	この授業のレベルは適切である	6,612	4,311	1,919	349	130	79	13,400	4.27	0.872	4.31	0.376
	(4)-2	授業のレベルについて、どのように感じましたか 5: 難しすぎる 4: 易しすぎる	391	56	-	-	-	32	479	-	-	-	-
	(5)-1	この授業を進める速さは適切である	7,159	4,230	1,598	251	76	86	13,400	4.36	0.808	4.41	0.352
	(5)-2	授業を進める速さについて、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる	216	85	-	-	-	26	327	-	-	-	-
	(6)	教員は熱意を持って授業を行っている	8,871	3,552	787	99	49	42	13,400	4.58	0.671	4.61	0.276
	(7)	教員は学生が集中できる授業環境になるように配慮している	8,361	3,774	945	129	79	112	13,400	4.52	0.722	4.56	0.292
	(8)	教員は理解しやすい授業を行っている	8,117	3,718	1,178	230	101	56	13,400	4.46	0.787	4.51	0.365
	(9)-1	教員の話し方(スピード、聞き取りやすさ)は適切である	8,258	3,605	1,024	190	85	238	13,400	4.50	0.755	4.55	0.344
	(9)-2	教員の話し方について、どのように感じましたか 5: 速すぎる 4: 遅すぎる 3: その他/聞き取りにくい	88	10	159	-	-	18	275	-	-	-	-
(10)	この授業によって知的好奇心が刺激されたり、 新しいものの見方が得られたりした	7,467	4,042	1,416	246	155	74	13,400	4.38	0.836	4.43	0.366	
(11)	この授業は、シラバスに示されていた授業内容と合致している (シラバスを読まなかった人 ⇒ 35.53%)	4,630	2,262	676	87	53	931	13,400	4.47	0.758	4.49	0.361	
(12)	総合的に見てこの授業は高く評価できる	8,068	3,897	1,114	181	76	74	13,400	4.48	0.753	4.52	0.349	
「演習」 「語学」 のみ	(15)	教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう 心がけていた	7,337	3,525	1,182	167	79	1,110	13,400	4.45	0.774	4.52	0.338
	(16)	教員は参加者が課題に取り組むのを助けた	7,410	3,530	1,076	178	77	1,129	13,400	4.47	0.766	4.53	0.333

「全員回答(1~12)」における有効回答の割合



「全員回答(1~12)」の有効回答における平均比較



Q4-2 授業のレベルについて、どのように感じましたか

【部門別・形態別】

		回答者ベース			科目ベース			
		5 難しすぎる	4 易しすぎる	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
計七	講義	448 88.19%	60 11.81%	508 100.00%	-	-	-	-
外七	語学	368 75.10%	122 24.90%	490 100.00%	-	-	-	-
スポーツ	演習	19 57.58%	14 42.42%	33 100.00%	-	-	-	-
基礎教養	講義	127 78.40%	35 21.60%	162 100.00%	-	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
	計	127 78.40%	35 21.60%	162 100.00%	-	-	-	-
法学部	講義	630 94.03%	40 5.97%	670 100.00%	-	-	-	-
	演習	63 92.65%	5 7.35%	68 100.00%	-	-	-	-
	計	693 93.90%	45 6.10%	738 100.00%	-	-	-	-
経済学部	講義	655 92.91%	50 7.09%	705 100.00%	-	-	-	-
	演習	27 87.10%	4 12.90%	31 100.00%	-	-	-	-
	計	682 92.66%	54 7.34%	736 100.00%	-	-	-	-
文学部	講義	488 96.06%	20 3.94%	508 100.00%	-	-	-	-
	演習	191 90.09%	21 9.91%	212 100.00%	-	-	-	-
	計	679 94.31%	41 5.69%	720 100.00%	-	-	-	-
理学部	講義	589 95.93%	25 4.07%	614 100.00%	-	-	-	-
	演習	77 95.06%	4 4.94%	81 100.00%	-	-	-	-
	計	666 95.83%	29 4.17%	695 100.00%	-	-	-	-
国際社会科学部	講義	288 87.54%	41 12.46%	329 100.00%	-	-	-	-
	演習	8 80.00%	2 20.00%	10 100.00%	-	-	-	-
	語学	112 75.17%	37 24.83%	149 100.00%	-	-	-	-
	計	408 83.61%	80 16.39%	488 100.00%	-	-	-	-
教職課程	講義	76 92.68%	6 7.32%	82 100.00%	-	-	-	-
	演習	6 50.00%	6 50.00%	12 100.00%	-	-	-	-
	計	82 87.23%	12 12.77%	94 100.00%	-	-	-	-
学芸員	講義	1 33.33%	2 66.67%	3 100.00%	-	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
	計	1 33.33%	2 66.67%	3 100.00%	-	-	-	-
合計	4,173 89.42%	494 10.58%	4,667 100.00%	-	-	-	-	

【形態別】

	回答者ベース			科目ベース			
	5 難しすぎる	4 易しすぎる	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	形態別 平均	形態別 標準偏差
講義	3,302 92.21%	279 7.79%	3,581 100.00%	-	-	-	-
演習	391 87.47%	56 12.53%	447 100.00%	-	-	-	-
語学	480 75.12%	159 24.88%	639 100.00%	-	-	-	-
合計	4,173 89.42%	494 10.58%	4,667 100.00%	-	-	-	-

【学部生・学年別】

	回答者ベース			学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5 難しすぎる	4 易しすぎる	計		
学部1年	2,101 89.06%	258 10.94%	2,359 100.00%	-	-
学部2年	1,147 91.91%	101 8.09%	1,248 100.00%	-	-
学部3年	593 89.44%	70 10.56%	663 100.00%	-	-
学部4年	89 78.76%	24 21.24%	113 100.00%	-	-

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース			科目ベース	
	5 難しすぎる	4 易しすぎる	計	平均	標準偏差
25名以下	481 81.53%	109 18.47%	590 100.00%	-	-
26～50名	781 85.45%	133 14.55%	914 100.00%	-	-
51～100名	1,190 91.96%	104 8.04%	1,294 100.00%	-	-
101～200名	894 94.70%	50 5.30%	944 100.00%	-	-
201名以上	827 89.41%	98 10.59%	925 100.00%	-	-
合計	4,173 89.42%	494 10.58%	4,667 100.00%	-	-

Q5-2 授業を進める速さについて、どのように感じましたか

【部門別・形態別】

		回答者ベース			科目ベース		
		5 速すぎる	4 遅すぎる	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均
計七	講義	502 88.38%	66 11.62%	568 100.00%	-	-	-
外七	語学	257 66.07%	132 33.93%	389 100.00%	-	-	-
スポーツ	演習	3 37.50%	5 62.50%	8 100.00%	-	-	-
基礎教養	講義	65 50.78%	63 49.22%	128 100.00%	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-
	計	65 50.78%	63 49.22%	128 100.00%	-	-	-
法学部	講義	430 78.47%	118 21.53%	548 100.00%	-	-	-
	演習	26 70.27%	11 29.73%	37 100.00%	-	-	-
	計	456 77.95%	129 22.05%	585 100.00%	-	-	-
経済学部	講義	519 85.64%	87 14.36%	606 100.00%	-	-	-
	演習	15 53.57%	13 46.43%	28 100.00%	-	-	-
	計	534 84.23%	100 15.77%	634 100.00%	-	-	-
文学部	講義	256 70.33%	108 29.67%	364 100.00%	-	-	-
	演習	129 80.63%	31 19.38%	160 100.00%	-	-	-
	計	385 73.47%	139 26.53%	524 100.00%	-	-	-
理学部	講義	388 92.82%	30 7.18%	418 100.00%	-	-	-
	演習	27 69.23%	12 30.77%	39 100.00%	-	-	-
	計	415 90.81%	42 9.19%	457 100.00%	-	-	-
国際社会科学部	講義	140 80.00%	35 20.00%	175 100.00%	-	-	-
	演習	12 60.00%	8 40.00%	20 100.00%	-	-	-
	語学	73 84.88%	13 15.12%	86 100.00%	-	-	-
	計	225 80.07%	56 19.93%	281 100.00%	-	-	-
教職課程	講義	40 74.07%	14 25.93%	54 100.00%	-	-	-
	演習	4 44.44%	5 55.56%	9 100.00%	-	-	-
	計	44 69.84%	19 30.16%	63 100.00%	-	-	-
学芸員	講義	6 42.86%	8 57.14%	14 100.00%	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-
	計	6 42.86%	8 57.14%	14 100.00%	-	-	-
合計	2,892 79.21%	759 20.79%	3,651 100.00%	-	-	-	

【形態別】

	回答者ベース			科目ベース			
	5 速すぎる	4 遅すぎる	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	形態別 平均	形態別 標準偏差
講義	2,346 81.60%	529 18.40%	2,875 100.00%	-	-	-	-
演習	216 71.76%	85 28.24%	301 100.00%	-	-	-	-
語学	330 69.47%	145 30.53%	475 100.00%	-	-	-	-
合計	2,892 79.21%	759 20.79%	3,651 100.00%	-	-	-	-

【学部生・学年別】

	回答者ベース			学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5 速すぎる	4 遅すぎる	計		
学部1年	1,680 81.71%	376 18.29%	2,056 100.00%	-	-
学部2年	697 76.01%	220 23.99%	917 100.00%	-	-
学部3年	312 75.73%	100 24.27%	412 100.00%	-	-
学部4年	46 74.19%	16 25.81%	62 100.00%	-	-

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース			科目ベース	
	5 速すぎる	4 遅すぎる	計	平均	標準偏差
25名以下	305 71.93%	119 28.07%	424 100.00%	-	-
26～50名	490 74.70%	166 25.30%	656 100.00%	-	-
51～100名	939 85.99%	153 14.01%	1,092 100.00%	-	-
101～200名	578 80.39%	141 19.61%	719 100.00%	-	-
201名以上	580 76.32%	180 23.68%	760 100.00%	-	-
合計	2,892 79.21%	759 20.79%	3,651 100.00%	-	-

Q9-2 教員の話し方について、どのように感じましたか

【部門別・形態別】

		回答者ベース				科目ベース			
		5 速すぎる	4 遅すぎる	3 その他/ 聞き取りにくい	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
計セ	講義	188 53.71%	16 4.57%	146 41.71%	350 100.00%	-	-	-	-
外セ	語学	126 36.84%	27 7.89%	189 55.26%	342 100.00%	-	-	-	-
スポ健	演習	1 16.67%	1 16.67%	4 66.67%	6 100.00%	-	-	-	-
基礎教養	講義	30 26.32%	8 7.02%	76 66.67%	114 100.00%	-	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
	計	30 26.32%	8 7.02%	76 66.67%	114 100.00%	-	-	-	-
法学部	講義	261 45.47%	26 4.53%	287 50.00%	574 100.00%	-	-	-	-
	演習	13 39.39%	1 3.03%	19 57.58%	33 100.00%	-	-	-	-
	計	274 45.14%	27 4.45%	306 50.41%	607 100.00%	-	-	-	-
経済学部	講義	147 36.03%	32 7.84%	229 56.13%	408 100.00%	-	-	-	-
	演習	5 23.81%	0 0.00%	16 76.19%	21 100.00%	-	-	-	-
	計	152 35.43%	32 7.46%	245 57.11%	429 100.00%	-	-	-	-
文学部	講義	148 36.54%	23 5.68%	234 57.78%	405 100.00%	-	-	-	-
	演習	60 46.15%	2 1.54%	68 52.31%	130 100.00%	-	-	-	-
	計	208 38.88%	25 4.67%	302 56.45%	535 100.00%	-	-	-	-
理学部	講義	134 40.12%	4 1.20%	196 58.68%	334 100.00%	-	-	-	-
	演習	5 12.82%	3 7.69%	31 79.49%	39 100.00%	-	-	-	-
	計	139 37.27%	7 1.88%	227 60.86%	373 100.00%	-	-	-	-
国際社会科学部	講義	72 29.51%	10 4.10%	162 66.39%	244 100.00%	-	-	-	-
	演習	1 11.11%	1 11.11%	7 77.78%	9 100.00%	-	-	-	-
	語学	32 40.51%	6 7.59%	41 51.90%	79 100.00%	-	-	-	-
	計	105 31.63%	17 5.12%	210 63.25%	332 100.00%	-	-	-	-
教職課程	講義	16 12.50%	4 3.13%	108 84.38%	128 100.00%	-	-	-	-
	演習	3 15.79%	2 10.53%	14 73.68%	19 100.00%	-	-	-	-
	計	19 12.93%	6 4.08%	122 82.99%	147 100.00%	-	-	-	-
学芸員	講義	1 16.67%	1 16.67%	4 66.67%	6 100.00%	-	-	-	-
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
	計	1 16.67%	1 16.67%	4 66.67%	6 100.00%	-	-	-	-
合計	1,243 38.35%	167 5.15%	1,831 56.49%	3,241 100.00%	-	-	-	-	

【形態別】

	回答者ベース				科目ベース			
	5 速すぎる	4 遅すぎる	3 その他/ 聞き取りにくい	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	形態別 平均	形態別 標準偏差
講義	997 38.90%	124 4.84%	1,442 56.26%	2,563 100.00%	-	-	-	-
演習	88 34.24%	10 3.89%	159 61.87%	257 100.00%	-	-	-	-
語学	158 37.53%	33 7.84%	230 54.63%	421 100.00%	-	-	-	-
合計	1,243 38.35%	167 5.15%	1,831 56.49%	3,241 100.00%	-	-	-	-

【学部生・学年別】

	回答者ベース				計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5 速すぎる	4 遅すぎる	3 その他/ 聞き取りにくい	計			
学部1年	664 38.92%	79 4.63%	963 56.45%	1,706 100.00%	-	-	
学部2年	329 37.39%	45 5.11%	506 57.50%	880 100.00%	-	-	
学部3年	168 41.58%	26 6.44%	210 51.98%	404 100.00%	-	-	
学部4年	25 35.71%	2 2.86%	43 61.43%	70 100.00%	-	-	

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース				科目ベース			
	5 速すぎる	4 遅すぎる	3 その他/ 聞き取りにくい	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	平均	標準偏差
25名以下	144 41.38%	29 8.33%	175 50.29%	348 100.00%	-	-	-	-
26～50名	233 40.03%	30 5.15%	319 54.81%	582 100.00%	-	-	-	-
51～100名	376 42.82%	34 3.87%	468 53.30%	878 100.00%	-	-	-	-
101～200名	226 32.61%	26 3.75%	441 63.64%	693 100.00%	-	-	-	-
201名以上	264 35.68%	48 6.49%	428 57.84%	740 100.00%	-	-	-	-
合計	1,243 38.35%	167 5.15%	1,831 56.49%	3,241 100.00%	-	-	-	-

Q10 この授業によって知的好奇心が刺激されたり、新しいものの見方が得られたりした

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
計セ	講義	990 27.10%	1,071 29.32%	1,101 30.14%	288 7.88%	203 5.56%	3,653 100.00%	3.65	1.124	3.70	0.468
外セ	語学	4,030 40.90%	3,281 33.30%	1,952 19.81%	372 3.78%	219 2.22%	9,854 100.00%	4.07	0.976	4.10	0.399
スポーツ	演習	950 58.71%	445 27.50%	170 10.51%	27 1.67%	26 1.61%	1,618 100.00%	4.40	0.862	4.46	0.321
基礎教養	講義	2,934 49.16%	2,107 35.30%	711 11.91%	132 2.21%	84 1.41%	5,968 100.00%	4.29	0.863	4.27	0.278
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
	計	2,934 49.16%	2,107 35.30%	711 11.91%	132 2.21%	84 1.41%	5,968 100.00%	4.29	0.863	4.27	0.278
法学部	講義	3,477 39.45%	3,048 34.58%	1,709 19.39%	403 4.57%	177 2.01%	8,814 100.00%	4.05	0.975	4.14	0.394
	演習	1,012 62.62%	427 26.42%	144 8.91%	24 1.49%	9 0.56%	1,616 100.00%	4.49	0.764	4.52	0.356
	計	4,489 43.04%	3,475 33.32%	1,853 17.77%	427 4.09%	186 1.78%	10,430 100.00%	4.12	0.958	4.30	0.423
経済学部	講義	3,163 38.04%	2,523 30.34%	1,911 22.98%	449 5.40%	269 3.24%	8,315 100.00%	3.95	1.056	4.02	0.489
	演習	990 62.34%	451 28.40%	121 7.62%	14 0.88%	12 0.76%	1,588 100.00%	4.51	0.739	4.51	0.409
	計	4,153 41.94%	2,974 30.03%	2,032 20.52%	463 4.68%	281 2.84%	9,903 100.00%	4.04	1.032	4.24	0.516
文学部	講義	4,006 45.91%	2,949 33.80%	1,313 15.05%	303 3.47%	155 1.78%	8,726 100.00%	4.19	0.935	4.29	0.381
	演習	3,035 52.34%	1,934 33.35%	661 11.40%	122 2.10%	47 0.81%	5,799 100.00%	4.34	0.823	4.39	0.336
	計	7,041 48.48%	4,883 33.62%	1,974 13.59%	425 2.93%	202 1.39%	14,525 100.00%	4.25	0.895	4.35	0.359
理学部	講義	1,375 32.83%	1,314 31.38%	1,122 26.79%	215 5.13%	162 3.87%	4,188 100.00%	3.84	1.061	3.89	0.411
	演習	506 48.75%	290 27.94%	169 16.28%	37 3.56%	36 3.47%	1,038 100.00%	4.15	1.041	4.13	0.512
	計	1,881 35.99%	1,604 30.69%	1,291 24.70%	252 4.82%	198 3.79%	5,226 100.00%	3.90	1.064	3.93	0.438
国際社会科学部	講義	1,510 37.58%	1,240 30.86%	926 23.05%	202 5.03%	140 3.48%	4,018 100.00%	3.94	1.057	3.88	0.320
	演習	343 56.88%	177 29.35%	67 11.11%	9 1.49%	7 1.16%	603 100.00%	4.39	0.831	4.39	0.394
	語学	1,021 43.39%	806 34.25%	375 15.94%	85 3.61%	66 2.80%	2,353 100.00%	4.12	0.988	4.12	0.440
	計	2,874 41.21%	2,223 31.88%	1,368 19.62%	296 4.24%	213 3.05%	6,974 100.00%	4.04	1.025	4.10	0.435
	教職課程	481 41.39%	377 32.44%	221 19.02%	44 3.79%	39 3.36%	1,162 100.00%	4.05	1.028	4.29	0.468
学芸員	講義	341 56.74%	202 33.61%	49 8.15%	5 0.83%	4 0.67%	601 100.00%	4.45	0.736	4.50	0.196
	演習	72 85.71%	12 14.29%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	84 100.00%	4.86	0.352	4.87	0.102
	計	413 60.29%	214 31.24%	49 7.15%	5 0.73%	4 0.58%	685 100.00%	4.50	0.713	4.62	0.243
合計	30,795 43.39%	22,960 32.35%	12,806 18.04%	2,744 3.87%	1,673 2.36%	70,978 100.00%	4.11	0.985	4.20	0.442	

【形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				形態別 平均	形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
講義		18,277 40.22%	14,831 32.64%	9,063 19.94%	2,041 4.49%	1,233 2.71%	45,445 100.00%	4.03	1.012	4.09	0.450
演習		7,467 56.03%	4,042 30.33%	1,416 10.63%	246 1.85%	155 1.16%	13,326 100.00%	4.38	0.836	4.43	0.366
語学		5,051 41.38%	4,087 33.48%	2,327 19.06%	457 3.74%	285 2.33%	12,207 100.00%	4.08	0.979	4.11	0.408
合計		30,795 43.39%	22,960 32.35%	12,806 18.04%	2,744 3.87%	1,673 2.36%	70,978 100.00%	4.11	0.985	4.20	0.442

【学部生・学年別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
		5	4	3	2	1			
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年		11,441 39.16%	9,549 32.68%	6,018 20.60%	1,368 4.68%	842 2.88%	29,218 100.00%	4.01	1.022
学部2年		8,789 41.30%	7,257 34.10%	3,950 18.56%	810 3.81%	477 2.24%	21,283 100.00%	4.08	0.972
学部3年		6,547 50.42%	4,019 30.95%	1,861 14.33%	352 2.71%	205 1.58%	12,984 100.00%	4.26	0.912
学部4年		2,132 61.69%	912 26.39%	315 9.11%	61 1.77%	36 1.04%	3,456 100.00%	4.46	0.813

【総履修者数ランク別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				平均	標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下		8,035 53.52%	4,638 30.89%	1,800 11.99%	326 2.17%	215 1.43%	15,014 100.00%	4.33	0.873	4.35	0.418
26～50名		7,553 45.70%	5,293 32.03%	2,810 17.00%	541 3.27%	330 2.00%	16,527 100.00%	4.16	0.955	4.17	0.407
51～100名		4,756 36.71%	4,252 32.82%	2,858 22.06%	641 4.95%	450 3.47%	12,957 100.00%	3.94	1.046	3.94	0.441
101～200名		4,448 39.00%	3,886 34.07%	2,214 19.41%	556 4.88%	301 2.64%	11,405 100.00%	4.02	1.008	4.00	0.367
201名以上		6,003 39.82%	4,891 32.44%	3,124 20.72%	680 4.51%	377 2.50%	15,075 100.00%	4.03	1.005	3.99	0.371
合計		30,795 43.39%	22,960 32.35%	12,806 18.04%	2,744 3.87%	1,673 2.36%	70,978 100.00%	4.11	0.985	4.20	0.442

Q13 板書の仕方やスライド提示の仕方は適切である

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
計七	講義	1,441 41.97%	1,160 33.79%	609 17.74%	149 4.34%	74 2.16%	3,433 100.00%	4.09	0.978	4.09	0.466
外七	語学	4,745 49.96%	3,171 33.39%	1,247 13.13%	235 2.47%	99 1.04%	9,497 100.00%	4.29	0.861	4.31	0.347
基礎教養	講義	2,857 50.47%	2,002 35.36%	615 10.86%	127 2.24%	60 1.06%	5,661 100.00%	4.32	0.835	4.29	0.333
法学部	講義	3,744 43.88%	2,742 32.13%	1,417 16.61%	418 4.90%	212 2.48%	8,533 100.00%	4.10	1.007	4.16	0.446
経済学部	講義	3,874 48.85%	2,422 30.54%	1,216 15.33%	268 3.38%	151 1.90%	7,931 100.00%	4.21	0.951	4.22	0.434
文学部	講義	3,979 46.38%	2,789 32.51%	1,233 14.37%	416 4.85%	163 1.90%	8,580 100.00%	4.17	0.972	4.26	0.431
理学部	講義	1,629 39.93%	1,349 33.06%	723 17.72%	253 6.20%	126 3.09%	4,080 100.00%	4.01	1.050	4.02	0.433
国際社会科学部	講義	1,919 48.85%	1,239 31.54%	548 13.95%	138 3.51%	84 2.14%	3,928 100.00%	4.21	0.957	4.21	0.331
国際社会科学部	語学	1,258 55.71%	666 29.50%	260 11.51%	43 1.90%	31 1.37%	2,258 100.00%	4.36	0.861	4.37	0.442
教職課程	講義	492 43.62%	328 29.08%	179 15.87%	55 4.88%	74 6.56%	1,128 100.00%	3.98	1.175	4.22	0.613
学芸員	講義	290 48.66%	202 33.89%	77 12.92%	24 4.03%	3 0.50%	596 100.00%	4.26	0.869	4.31	0.295
合計		26,228 47.15%	18,070 32.49%	8,124 14.60%	2,126 3.82%	1,077 1.94%	55,625 100.00%	4.19	0.953	4.24	0.414

【形態別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				形態別 平均	形態別 標準偏差
講義	20,225 46.10%	14,233 32.44%	6,617 15.08%	1,848 4.21%	947 2.16%	43,870 100.00%	4.16	0.974	4.19	0.434
語学	6,003 51.07%	3,837 32.64%	1,507 12.82%	278 2.36%	130 1.11%	11,755 100.00%	4.30	0.861	4.32	0.370
合計	26,228 47.15%	18,070 32.49%	8,124 14.60%	2,126 3.82%	1,077 1.94%	55,625 100.00%	4.19	0.953	4.24	0.414

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない			
学部1年	11,258 46.08%	7,906 32.36%	3,813 15.61%	939 3.84%	514 2.10%	24,430 100.00%	4.16	0.966
学部2年	8,008 45.49%	5,901 33.52%	2,584 14.68%	764 4.34%	348 1.98%	17,605 100.00%	4.16	0.963
学部3年	4,418 51.15%	2,727 31.57%	1,106 12.80%	264 3.06%	123 1.42%	8,638 100.00%	4.28	0.901
学部4年	1,091 55.83%	579 29.63%	200 10.24%	55 2.81%	29 1.48%	1,954 100.00%	4.36	0.884

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				平均	標準偏差
25名以下	4,095 55.26%	2,296 30.99%	804 10.85%	146 1.97%	69 0.93%	7,410 100.00%	4.38	0.826	4.38	0.390
26～50名	5,624 48.60%	3,743 32.34%	1,647 14.23%	397 3.43%	162 1.40%	11,573 100.00%	4.23	0.915	4.24	0.381
51～100名	4,913 43.21%	3,828 33.66%	1,862 16.37%	510 4.49%	258 2.27%	11,371 100.00%	4.11	0.984	4.09	0.423
101～200名	4,707 43.75%	3,595 33.42%	1,622 15.08%	539 5.01%	295 2.74%	10,758 100.00%	4.10	1.012	4.11	0.437
201名以上	6,889 47.47%	4,608 31.75%	2,189 15.08%	534 3.68%	293 2.02%	14,513 100.00%	4.19	0.958	4.16	0.397
合計	26,228 47.15%	18,070 32.49%	8,124 14.60%	2,126 3.82%	1,077 1.94%	55,625 100.00%	4.19	0.953	4.24	0.414

Q14 教材(教科書、配付資料等)の内容は適切である

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
計七	講義	1,471 43.01%	1,159 33.89%	603 17.63%	102 2.98%	85 2.49%	3,420 100.00%	4.12	0.967	4.11	0.427
外七	語学	5,108 53.86%	3,100 32.69%	1,006 10.61%	172 1.81%	98 1.03%	9,484 100.00%	4.37	0.823	4.39	0.332
基礎教養	講義	2,818 49.94%	2,037 36.10%	646 11.45%	95 1.68%	47 0.83%	5,643 100.00%	4.33	0.806	4.31	0.305
法学部	講義	3,874 45.60%	2,768 32.58%	1,383 16.28%	320 3.77%	150 1.77%	8,495 100.00%	4.16	0.949	4.21	0.386
経済学部	講義	3,762 47.60%	2,456 31.07%	1,333 16.86%	225 2.85%	128 1.62%	7,904 100.00%	4.20	0.929	4.21	0.392
文学部	講義	4,241 49.55%	2,886 33.72%	1,114 13.02%	217 2.54%	101 1.18%	8,559 100.00%	4.28	0.869	4.36	0.357
理学部	講義	1,656 40.67%	1,334 32.76%	864 21.22%	134 3.29%	84 2.06%	4,072 100.00%	4.07	0.965	4.08	0.372
国際社会科学部	講義	1,811 46.34%	1,237 31.65%	666 17.04%	118 3.02%	76 1.94%	3,908 100.00%	4.17	0.948	4.15	0.324
国際社会科学部	語学	1,250 55.46%	667 29.59%	266 11.80%	48 2.13%	23 1.02%	2,254 100.00%	4.36	0.847	4.37	0.372
教職課程	講義	523 46.32%	344 30.47%	188 16.65%	41 3.63%	33 2.92%	1,129 100.00%	4.14	1.010	4.35	0.445
学芸員	講義	286 48.07%	208 34.96%	86 14.45%	13 2.18%	2 0.34%	595 100.00%	4.28	0.815	4.32	0.254
合計		26,800 48.32%	18,196 32.81%	8,155 14.70%	1,485 2.68%	827 1.49%	55,463 100.00%	4.24	0.903	4.29	0.374

【形態別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				形態別 平均	形態別 標準偏差
講義	20,442 46.75%	14,429 33.00%	6,883 15.74%	1,265 2.89%	706 1.61%	43,725 100.00%	4.20	0.919	4.23	0.383
語学	6,358 54.17%	3,767 32.09%	1,272 10.84%	220 1.87%	121 1.03%	11,738 100.00%	4.36	0.827	4.38	0.340
合計	26,800 48.32%	18,196 32.81%	8,155 14.70%	1,485 2.68%	827 1.49%	55,463 100.00%	4.24	0.903	4.29	0.374

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない			
学部1年	11,473 47.08%	8,063 33.09%	3,759 15.42%	665 2.73%	410 1.68%	24,370 100.00%	4.21	0.917
学部2年	8,290 47.23%	5,953 33.91%	2,564 14.61%	510 2.91%	237 1.35%	17,554 100.00%	4.23	0.897
学部3年	4,416 51.23%	2,716 31.51%	1,183 13.72%	199 2.31%	106 1.23%	8,620 100.00%	4.29	0.876
学部4年	1,117 57.43%	549 28.23%	210 10.80%	47 2.42%	22 1.13%	1,945 100.00%	4.38	0.857

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5 強くそう思う	4 そう思う	3 どちらとも 言えない	2 あまりそう 思わない	1 全くそう 思わない				平均	標準偏差
25名以下	4,280 57.90%	2,234 30.22%	689 9.32%	128 1.73%	61 0.83%	7,392 100.00%	4.43	0.796	4.43	0.369
26～50名	5,907 51.13%	3,740 32.37%	1,497 12.96%	261 2.26%	148 1.28%	11,553 100.00%	4.30	0.870	4.30	0.348
51～100名	5,031 44.41%	3,885 34.30%	1,920 16.95%	298 2.63%	194 1.71%	11,328 100.00%	4.17	0.919	4.15	0.356
101～200名	4,826 44.98%	3,608 33.63%	1,743 16.24%	349 3.25%	204 1.90%	10,730 100.00%	4.17	0.941	4.16	0.361
201名以上	6,756 46.72%	4,729 32.70%	2,306 15.95%	449 3.11%	220 1.52%	14,460 100.00%	4.20	0.921	4.17	0.317
合計	26,800 48.32%	18,196 32.81%	8,155 14.70%	1,485 2.68%	827 1.49%	55,463 100.00%	4.24	0.903	4.29	0.374

Q15 教員は参加者が活発に発言や議論が行えるよう心がけていた

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
外セ	語学	4,990 53.99%	2,846 30.79%	1,105 11.95%	190 2.06%	112 1.21%	9,243 100.00%	4.34	0.856	4.36	0.395
スポ健	演習	697 60.03%	277 23.86%	167 14.38%	11 0.95%	9 0.78%	1,161 100.00%	4.41	0.825	4.50	0.359
基礎教養	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
法学部	演習	1,016 67.28%	369 24.44%	100 6.62%	16 1.06%	9 0.60%	1,510 100.00%	4.57	0.716	4.58	0.358
経済学部	演習	1,012 69.13%	335 22.88%	97 6.63%	15 1.02%	5 0.34%	1,464 100.00%	4.59	0.690	4.60	0.339
文学部	演習	3,153 55.64%	1,852 32.68%	544 9.60%	86 1.52%	32 0.56%	5,667 100.00%	4.41	0.770	4.48	0.310
理学部	演習	462 47.63%	306 31.55%	168 17.32%	19 1.96%	15 1.55%	970 100.00%	4.22	0.906	4.23	0.353
国際社会科学部	演習	404 70.51%	136 23.73%	29 5.06%	2 0.35%	2 0.35%	573 100.00%	4.64	0.629	4.64	0.293
国際社会科学部	語学	1,335 60.33%	629 28.42%	188 8.50%	40 1.81%	21 0.95%	2,213 100.00%	4.45	0.800	4.45	0.378
教職課程	演習	529 61.44%	233 27.06%	74 8.59%	18 2.09%	7 0.81%	861 100.00%	4.46	0.803	4.47	0.338
学芸員	演習	64 76.19%	17 20.24%	3 3.57%	0 0.00%	0 0.00%	84 100.00%	4.73	0.523	4.74	0.166
合計		13,662 57.53%	7,000 29.48%	2,475 10.42%	397 1.67%	212 0.89%	23,746 100.00%	4.41	0.811	4.46	0.370

【形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				形態別 平均	形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
演習		7,337 59.70%	3,525 28.68%	1,182 9.62%	167 1.36%	79 0.64%	12,290 100.00%	4.45	0.774	4.52	0.338
語学		6,325 55.21%	3,475 30.33%	1,293 11.29%	230 2.01%	133 1.16%	11,456 100.00%	4.36	0.847	4.38	0.393
合計		13,662 57.53%	7,000 29.48%	2,475 10.42%	397 1.67%	212 0.89%	23,746 100.00%	4.41	0.811	4.46	0.370

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	5,369 54.53%	2,968 30.14%	1,200 12.19%	211 2.14%	98 1.00%	9,846 100.00%	4.35	0.848
学部2年	3,673 55.27%	2,078 31.27%	709 10.67%	123 1.85%	63 0.95%	6,646 100.00%	4.38	0.821
学部3年	2,755 62.80%	1,229 28.01%	340 7.75%	35 0.80%	28 0.64%	4,387 100.00%	4.52	0.728
学部4年	1,085 70.64%	346 22.53%	95 6.18%	5 0.33%	5 0.33%	1,536 100.00%	4.63	0.645

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	7,681 62.53%	3,345 27.23%	1,000 8.14%	167 1.36%	91 0.74%	12,284 100.00%	4.49	0.764	4.51	0.363
26～50名	5,334 53.32%	3,151 31.50%	1,233 12.33%	183 1.83%	102 1.02%	10,003 100.00%	4.34	0.839	4.35	0.353
51～100名	523 45.36%	380 32.96%	196 17.00%	37 3.21%	17 1.47%	1,153 100.00%	4.18	0.925	4.21	0.446
101～200名	124 40.52%	124 40.52%	46 15.03%	10 3.27%	2 0.65%	306 100.00%	4.17	0.848	4.18	0.347
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	13,662 57.53%	7,000 29.48%	2,475 10.42%	397 1.67%	212 0.89%	23,746 100.00%	4.41	0.811	4.46	0.370

Q16 教員は参加者が課題に取り組むのを助けた

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
外セ	語学	4,850 52.56%	2,888 31.30%	1,189 12.89%	192 2.08%	108 1.17%	9,227 100.00%	4.32	0.861	4.35	0.383
スポ健	演習	783 67.50%	256 22.07%	109 9.40%	6 0.52%	6 0.52%	1,160 100.00%	4.56	0.727	4.63	0.303
基礎教養	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
法学部	演習	953 63.24%	387 25.68%	136 9.02%	22 1.46%	9 0.60%	1,507 100.00%	4.50	0.768	4.52	0.384
経済学部	演習	982 67.26%	355 24.32%	94 6.44%	23 1.58%	6 0.41%	1,460 100.00%	4.56	0.720	4.58	0.373
文学部	演習	3,209 56.73%	1,851 32.72%	482 8.52%	86 1.52%	29 0.51%	5,657 100.00%	4.44	0.754	4.49	0.280
理学部	演習	515 53.15%	281 29.00%	137 14.14%	21 2.17%	15 1.55%	969 100.00%	4.30	0.900	4.29	0.366
国際社会科学部	演習	387 67.54%	144 25.13%	34 5.93%	5 0.87%	3 0.52%	573 100.00%	4.58	0.691	4.59	0.363
国際社会科学部	語学	1,286 58.30%	633 28.69%	214 9.70%	50 2.27%	23 1.04%	2,206 100.00%	4.41	0.835	4.41	0.405
教職課程	演習	510 59.23%	243 28.22%	84 9.76%	15 1.74%	9 1.05%	861 100.00%	4.43	0.819	4.46	0.342
学芸員	演習	71 84.52%	13 15.48%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	84 100.00%	4.85	0.364	4.85	0.138
合計		13,546 57.15%	7,051 29.75%	2,479 10.46%	420 1.77%	208 0.88%	23,704 100.00%	4.41	0.814	4.45	0.369

【形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				形態別 平均	形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
演習		7,410 60.39%	3,530 28.77%	1,076 8.77%	178 1.45%	77 0.63%	12,271 100.00%	4.47	0.766	4.53	0.333
語学		6,136 53.67%	3,521 30.80%	1,403 12.27%	242 2.12%	131 1.15%	11,433 100.00%	4.34	0.856	4.36	0.388
合計		13,546 57.15%	7,051 29.75%	2,479 10.46%	420 1.77%	208 0.88%	23,704 100.00%	4.41	0.814	4.45	0.369

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	5,326 54.20%	3,005 30.58%	1,190 12.11%	196 1.99%	110 1.12%	9,827 100.00%	4.35	0.850
学部2年	3,617 54.50%	2,086 31.43%	740 11.15%	141 2.12%	53 0.80%	6,637 100.00%	4.37	0.824
学部3年	2,732 62.39%	1,247 28.48%	327 7.47%	52 1.19%	21 0.48%	4,379 100.00%	4.51	0.727
学部4年	1,091 71.26%	345 22.53%	81 5.29%	9 0.59%	5 0.33%	1,531 100.00%	4.64	0.641

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	7,596 61.97%	3,390 27.66%	1,002 8.17%	187 1.53%	82 0.67%	12,257 100.00%	4.49	0.765	4.51	0.363
26～50名	5,289 52.94%	3,146 31.49%	1,259 12.60%	189 1.89%	108 1.08%	9,991 100.00%	4.33	0.847	4.34	0.351
51～100名	542 47.09%	392 34.06%	169 14.68%	34 2.95%	14 1.22%	1,151 100.00%	4.23	0.891	4.23	0.407
101～200名	119 39.02%	123 40.33%	49 16.07%	10 3.28%	4 1.31%	305 100.00%	4.12	0.887	4.15	0.387
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	13,546 57.15%	7,051 29.75%	2,479 10.46%	420 1.77%	208 0.88%	23,704 100.00%	4.41	0.814	4.45	0.369

Q17 1回1回の授業のねらいが明確である

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
外セ	語学	4,490 48.95%	2,964 32.31%	1,322 14.41%	268 2.92%	129 1.41%	9,173 100.00%	4.24	0.904	4.28	0.388
国際社会科学部	語学	1,125 53.91%	632 30.28%	250 11.98%	47 2.25%	33 1.58%	2,087 100.00%	4.33	0.886	4.33	0.415
合計		5,615 49.87%	3,596 31.94%	1,572 13.96%	315 2.80%	162 1.44%	11,260 100.00%	4.26	0.901	4.29	0.394

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	3,106 49.32%	1,978 31.41%	933 14.81%	179 2.84%	102 1.62%	6,298 100.00%	4.24	0.918
学部2年	1,719 48.25%	1,185 33.26%	500 14.03%	117 3.28%	42 1.18%	3,563 100.00%	4.24	0.896
学部3年	351 56.98%	201 32.63%	52 8.44%	7 1.14%	5 0.81%	616 100.00%	4.44	0.763
学部4年	136 67.00%	57 28.08%	9 4.43%	0 0.00%	1 0.49%	203 100.00%	4.61	0.622

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					科目ベース				
	5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	2,884 53.96%	1,670 31.24%	603 11.28%	120 2.25%	68 1.27%	5,345 100.00%	4.34	0.859	4.35	0.394
26～50名	2,699 46.26%	1,899 32.54%	951 16.30%	192 3.29%	94 1.61%	5,835 100.00%	4.19	0.932	4.18	0.373
51～100名	32 40.00%	27 33.75%	18 22.50%	3 3.75%	0 0.00%	80 100.00%	4.10	0.880	4.12	0.113
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	5,615 49.87%	3,596 31.94%	1,572 13.96%	315 2.80%	162 1.44%	11,260 100.00%	4.26	0.901	4.29	0.394

Q18 教員は授業時間を有効に活用している

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
外セ	語学	4,837 52.78%	2,938 32.06%	1,065 11.62%	196 2.14%	128 1.40%	9,164 100.00%	4.33	0.865	4.35	0.367
国際社会科学部	語学	1,170 56.33%	621 29.90%	212 10.21%	47 2.26%	27 1.30%	2,077 100.00%	4.38	0.855	4.38	0.406
合計		6,007 53.44%	3,559 31.66%	1,277 11.36%	243 2.16%	155 1.38%	11,241 100.00%	4.34	0.863	4.36	0.376

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	3,318 52.73%	2,003 31.83%	742 11.79%	140 2.23%	89 1.41%	6,292 100.00%	4.32	0.870
学部2年	1,862 52.36%	1,147 32.26%	413 11.61%	86 2.42%	48 1.35%	3,556 100.00%	4.32	0.870
学部3年	369 59.81%	180 29.17%	56 9.08%	6 0.97%	6 0.97%	617 100.00%	4.46	0.778
学部4年	138 68.66%	51 25.37%	10 4.98%	1 0.50%	1 0.50%	201 100.00%	4.61	0.655

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					科目ベース				
	5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	3,024 56.74%	1,615 30.30%	523 9.81%	103 1.93%	65 1.22%	5,330 100.00%	4.39	0.835	4.40	0.391
26～50名	2,953 50.63%	1,916 32.85%	739 12.67%	134 2.30%	90 1.54%	5,832 100.00%	4.29	0.884	4.29	0.338
51～100名	30 37.97%	28 35.44%	15 18.99%	6 7.59%	0 0.00%	79 100.00%	4.04	0.940	4.08	0.261
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	6,007 53.44%	3,559 31.66%	1,277 11.36%	243 2.16%	155 1.38%	11,241 100.00%	4.34	0.863	4.36	0.376

Q19 授業は全学共通の総合基礎科目としてふさわしいものだった

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
基礎教養	講義	1,477 55.32%	919 34.42%	218 8.16%	31 1.16%	25 0.94%	2,670 100.00%	4.42	0.768	4.40	0.353
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計		1,477 55.32%	919 34.42%	218 8.16%	31 1.16%	25 0.94%	2,670 100.00%	4.42	0.768	4.40	0.353

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	786 52.93%	539 36.30%	128 8.62%	15 1.01%	17 1.14%	1,485 100.00%	4.39	0.780
学部2年	364 55.49%	223 33.99%	53 8.08%	11 1.68%	5 0.76%	656 100.00%	4.42	0.773
学部3年	181 61.77%	90 30.72%	19 6.48%	1 0.34%	2 0.68%	293 100.00%	4.53	0.695
学部4年	54 76.06%	14 19.72%	2 2.82%	1 1.41%	0 0.00%	71 100.00%	4.70	0.595

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					科目ベース				
	5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	平均	標準偏差
強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
25名以下	97 74.05%	29 22.14%	4 3.05%	0 0.00%	1 0.76%	131 100.00%	4.69	0.609	4.67	0.271
26～50名	76 50.67%	54 36.00%	17 11.33%	2 1.33%	1 0.67%	150 100.00%	4.35	0.786	4.30	0.398
51～100名	296 49.75%	225 37.82%	60 10.08%	11 1.85%	3 0.50%	595 100.00%	4.34	0.775	4.35	0.327
101～200名	334 51.94%	242 37.64%	51 7.93%	9 1.40%	7 1.09%	643 100.00%	4.38	0.781	4.37	0.390
201名以上	674 58.56%	369 32.06%	86 7.47%	9 0.78%	13 1.13%	1,151 100.00%	4.46	0.762	4.40	0.304
合計	1,477 55.32%	919 34.42%	218 8.16%	31 1.16%	25 0.94%	2,670 100.00%	4.42	0.768	4.40	0.353

Q20 授業の内容や構成は全体としてまとまりのあるものだった

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
基礎教養	講義	696 48.13%	565 39.07%	152 10.51%	21 1.45%	12 0.83%	1,446 100.00%	4.32	0.785	4.30	0.455
	演習	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計		696 48.13%	565 39.07%	152 10.51%	21 1.45%	12 0.83%	1,446 100.00%	4.32	0.785	4.30	0.455

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	386 45.15%	354 41.40%	96 11.23%	11 1.29%	8 0.94%	855 100.00%	4.29	0.787
学部2年	160 48.93%	124 37.92%	36 11.01%	5 1.53%	2 0.61%	327 100.00%	4.33	0.780
学部3年	82 58.57%	43 30.71%	9 6.43%	4 2.86%	2 1.43%	140 100.00%	4.42	0.849
学部4年	26 70.27%	10 27.03%	0 0.00%	1 2.70%	0 0.00%	37 100.00%	4.65	0.633

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	29 65.91%	13 29.55%	2 4.55%	0 0.00%	0 0.00%	44 100.00%	4.61	0.579	4.68	0.373
26～50名	33 39.29%	36 42.86%	13 15.48%	2 2.38%	0 0.00%	84 100.00%	4.19	0.784	4.04	0.476
51～100名	130 45.61%	121 42.46%	30 10.53%	3 1.05%	1 0.35%	285 100.00%	4.32	0.731	4.33	0.361
101～200名	125 48.83%	101 39.45%	22 8.59%	6 2.34%	2 0.78%	256 100.00%	4.33	0.794	4.17	0.610
201名以上	379 48.78%	294 37.84%	85 10.94%	10 1.29%	9 1.16%	777 100.00%	4.32	0.808	4.37	0.240
合計	696 48.13%	565 39.07%	152 10.51%	21 1.45%	12 0.83%	1,446 100.00%	4.32	0.785	4.30	0.455

Q21 運動量は

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
	十分であった	おおむね 十分であった	どちらとも 言えない	やや不足 していた	不十分で あった						
スポーツ	演習	951 65.68%	380 26.24%	73 5.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,448 100.00%	4.54	0.757	4.61	0.288
合計		951 65.68%	380 26.24%	73 5.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,448 100.00%	4.54	0.757	4.61	0.288

【学部生・学年別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
		5	4	3	2	1			
		十分であった	おおむね 十分であった	どちらとも 言えない	やや不足 していた	不十分で あった			
学部1年		491 59.16%	261 31.45%	48 5.78%	22 2.65%	8 0.96%	830 100.00%	4.45	0.799
学部2年		188 70.68%	60 22.56%	12 4.51%	4 1.50%	2 0.75%	266 100.00%	4.61	0.715
学部3年		151 81.18%	24 12.90%	5 2.69%	6 3.23%	0 0.00%	186 100.00%	4.72	0.672
学部4年		57 85.07%	8 11.94%	1 1.49%	1 1.49%	0 0.00%	67 100.00%	4.81	0.529

【総履修者数ランク別】

		回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
		5	4	3	2	1				平均	標準偏差
		十分であった	おおむね 十分であった	どちらとも 言えない	やや不足 していた	不十分で あった					
25名以下		488 72.51%	142 21.10%	26 3.86%	13 1.93%	4 0.59%	673 100.00%	4.63	0.706	4.69	0.279
26～50名		463 59.74%	238 30.71%	47 6.06%	21 2.71%	6 0.77%	775 100.00%	4.46	0.791	4.48	0.254
51～100名		0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名		0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上		0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計		951 65.68%	380 26.24%	73 5.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,448 100.00%	4.54	0.757	4.61	0.288

Q22 体力・健康状態が改善された

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない							
スポ健	演習	739 50.97%	435 30.00%	228 15.72%	33 2.28%	15 1.03%	1,450 100.00%	4.28	0.881	4.37	0.394
合計		739 50.97%	435 30.00%	228 15.72%	33 2.28%	15 1.03%	1,450 100.00%	4.28	0.881	4.37	0.394

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	357 42.96%	277 33.33%	167 20.10%	19 2.29%	11 1.32%	831 100.00%	4.14	0.906
学部2年	149 55.81%	80 29.96%	29 10.86%	6 2.25%	3 1.12%	267 100.00%	4.37	0.850
学部3年	126 67.74%	35 18.82%	21 11.29%	4 2.15%	0 0.00%	186 100.00%	4.52	0.780
学部4年	59 88.06%	6 8.96%	0 0.00%	2 2.99%	0 0.00%	67 100.00%	4.82	0.575

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	394 58.37%	186 27.56%	75 11.11%	13 1.93%	7 1.04%	675 100.00%	4.40	0.839	4.49	0.385
26～50名	345 44.52%	249 32.13%	153 19.74%	20 2.58%	8 1.03%	775 100.00%	4.17	0.901	4.18	0.328
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	739 50.97%	435 30.00%	228 15.72%	33 2.28%	15 1.03%	1,450 100.00%	4.28	0.881	4.37	0.394

Q23 運動技術が向上した

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計		科目ベース		
		5	4	3	2	1			部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差	
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差		
スポ健	演習	748 51.73%	451 31.19%	203 14.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,446 100.00%	4.31	0.848	4.40	0.355
合計		748 51.73%	451 31.19%	203 14.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,446 100.00%	4.31	0.848	4.40	0.355

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	364 43.86%	297 35.78%	140 16.87%	22 2.65%	7 0.84%	830 100.00%	4.19	0.868
学部2年	159 60.00%	71 26.79%	29 10.94%	4 1.51%	2 0.75%	265 100.00%	4.44	0.805
学部3年	124 67.03%	37 20.00%	19 10.27%	4 2.16%	1 0.54%	185 100.00%	4.51	0.808
学部4年	54 80.60%	10 14.93%	2 2.99%	1 1.49%	0 0.00%	67 100.00%	4.75	0.586

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	404 59.94%	176 26.11%	77 11.42%	14 2.08%	3 0.45%	674 100.00%	4.43	0.808	4.52	0.350
26～50名	344 44.56%	275 35.62%	126 16.32%	20 2.59%	7 0.91%	772 100.00%	4.20	0.868	4.22	0.278
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	748 51.73%	451 31.19%	203 14.04%	34 2.35%	10 0.69%	1,446 100.00%	4.31	0.848	4.40	0.355

Q24 履修したスポーツ種目等について新しい知識が得られた

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計		科目ベース		
		5	4	3	2	1			部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差	
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差		
スポーツ健	演習	878 60.59%	414 28.57%	125 8.63%	21 1.45%	11 0.76%	1,449 100.00%	4.47	0.775	4.52	0.292
合計		878 60.59%	414 28.57%	125 8.63%	21 1.45%	11 0.76%	1,449 100.00%	4.47	0.775	4.52	0.292

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	478 57.52%	254 30.57%	82 9.87%	12 1.44%	5 0.60%	831 100.00%	4.43	0.776
学部2年	166 62.17%	75 28.09%	20 7.49%	3 1.12%	3 1.12%	267 100.00%	4.49	0.777
学部3年	125 67.20%	44 23.66%	12 6.45%	2 1.08%	3 1.61%	186 100.00%	4.54	0.799
学部4年	55 83.33%	8 12.12%	2 3.03%	1 1.52%	0 0.00%	66 100.00%	4.77	0.576

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	435 64.54%	184 27.30%	42 6.23%	6 0.89%	7 1.04%	674 100.00%	4.53	0.743	4.59	0.295
26～50名	443 57.16%	230 29.68%	83 10.71%	15 1.94%	4 0.52%	775 100.00%	4.41	0.797	4.42	0.261
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	878 60.59%	414 28.57%	125 8.63%	21 1.45%	11 0.76%	1,449 100.00%	4.47	0.775	4.52	0.292

Q25 身体や運動に対する関心が高まった

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
スポーツ	演習	803 55.49%	440 30.41%	165 11.40%	26 1.80%	13 0.90%	1,447 100.00%	4.38	0.824	4.45	0.335
合計		803 55.49%	440 30.41%	165 11.40%	26 1.80%	13 0.90%	1,447 100.00%	4.38	0.824	4.45	0.335

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	417 50.24%	272 32.77%	119 14.34%	15 1.81%	7 0.84%	830 100.00%	4.30	0.840
学部2年	155 58.49%	80 30.19%	22 8.30%	4 1.51%	4 1.51%	265 100.00%	4.43	0.828
学部3年	129 69.35%	42 22.58%	10 5.38%	4 2.15%	1 0.54%	186 100.00%	4.58	0.740
学部4年	54 80.60%	8 11.94%	4 5.97%	1 1.49%	0 0.00%	67 100.00%	4.72	0.647

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	404 60.12%	195 29.02%	56 8.33%	12 1.79%	5 0.74%	672 100.00%	4.46	0.783	4.54	0.317
26～50名	399 51.48%	245 31.61%	109 14.06%	14 1.81%	8 1.03%	775 100.00%	4.31	0.853	4.32	0.322
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	803 55.49%	440 30.41%	165 11.40%	26 1.80%	13 0.90%	1,447 100.00%	4.38	0.824	4.45	0.335

Q26 自分の身体の健康、体力の再確認ができた

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計		科目ベース		
		5	4	3	2	1			部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差	
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差		
スポ健	演習	897 62.03%	416 28.77%	109 7.54%	17 1.18%	7 0.48%	1,446 100.00%	4.51	0.728	4.56	0.291
合計		897 62.03%	416 28.77%	109 7.54%	17 1.18%	7 0.48%	1,446 100.00%	4.51	0.728	4.56	0.291

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	479 57.78%	262 31.60%	76 9.17%	9 1.09%	3 0.36%	829 100.00%	4.45	0.735
学部2年	172 64.91%	72 27.17%	17 6.42%	3 1.13%	1 0.38%	265 100.00%	4.55	0.701
学部3年	135 72.58%	40 21.51%	8 4.30%	2 1.08%	1 0.54%	186 100.00%	4.65	0.668
学部4年	56 83.58%	8 11.94%	2 2.99%	0 0.00%	1 1.49%	67 100.00%	4.76	0.653

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	443 65.82%	184 27.34%	37 5.50%	5 0.74%	4 0.59%	673 100.00%	4.57	0.687	4.62	0.275
26～50名	454 58.73%	232 30.01%	72 9.31%	12 1.55%	3 0.39%	773 100.00%	4.45	0.758	4.46	0.291
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	897 62.03%	416 28.77%	109 7.54%	17 1.18%	7 0.48%	1,446 100.00%	4.51	0.728	4.56	0.291

Q27 自分の生活習慣を見直す機会となった

【部門別・形態別】

		回答者ベース					科目ベース				
		5	4	3	2	1	計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない						
スポーツ	演習	814 56.29%	387 26.76%	190 13.14%	34 2.35%	21 1.45%	1,446 100.00%	4.34	0.896	4.42	0.345
合計		814 56.29%	387 26.76%	190 13.14%	34 2.35%	21 1.45%	1,446 100.00%	4.34	0.896	4.42	0.345

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	420 50.60%	248 29.88%	132 15.90%	20 2.41%	10 1.20%	830 100.00%	4.26	0.895
学部2年	159 60.23%	69 26.14%	25 9.47%	6 2.27%	5 1.89%	264 100.00%	4.41	0.893
学部3年	127 68.28%	29 15.59%	23 12.37%	5 2.69%	2 1.08%	186 100.00%	4.47	0.889
学部4年	55 82.09%	7 10.45%	2 2.99%	2 2.99%	1 1.49%	67 100.00%	4.69	0.802

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	414 61.52%	172 25.56%	69 10.25%	11 1.63%	7 1.04%	673 100.00%	4.45	0.822	4.52	0.317
26～50名	400 51.75%	215 27.81%	121 15.65%	23 2.98%	14 1.81%	773 100.00%	4.25	0.947	4.25	0.324
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	814 56.29%	387 26.76%	190 13.14%	34 2.35%	21 1.45%	1,446 100.00%	4.34	0.896	4.42	0.345

Q28 施設・用具も含め授業の準備は十分なされていた

【部門別・形態別】

		回答者ベース					計		科目ベース		
		5	4	3	2	1			部門別・ 形態別 平均	部門別・ 形態別 標準偏差	
		強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない		学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差		
スポ健	演習	1,046 72.24%	332 22.93%	62 4.28%	6 0.41%	2 0.14%	1,448 100.00%	4.67	0.591	4.70	0.201
合計		1,046 72.24%	332 22.93%	62 4.28%	6 0.41%	2 0.14%	1,448 100.00%	4.67	0.591	4.70	0.201

【学部生・学年別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差
	5	4	3	2	1			
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない			
学部1年	586 70.60%	204 24.58%	36 4.34%	3 0.36%	1 0.12%	830 100.00%	4.65	0.592
学部2年	195 73.31%	60 22.56%	10 3.76%	1 0.38%	0 0.00%	266 100.00%	4.69	0.560
学部3年	139 74.73%	34 18.28%	10 5.38%	2 1.08%	1 0.54%	186 100.00%	4.66	0.682
学部4年	60 89.55%	6 8.96%	1 1.49%	0 0.00%	0 0.00%	67 100.00%	4.88	0.370

【総履修者数ランク別】

	回答者ベース					計	学生回答 単純集計 平均	学生回答 単純集計 標準偏差	科目ベース	
	5	4	3	2	1				平均	標準偏差
	強くそう思う	そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない					
25名以下	500 74.29%	146 21.69%	25 3.71%	2 0.30%	0 0.00%	673 100.00%	4.70	0.550	4.74	0.183
26～50名	546 70.45%	186 24.00%	37 4.77%	4 0.52%	2 0.26%	775 100.00%	4.64	0.623	4.65	0.219
51～100名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
101～200名	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
201名以上	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	-	-	-	-
合計	1,046 72.24%	332 22.93%	62 4.28%	6 0.41%	2 0.14%	1,448 100.00%	4.67	0.591	4.70	0.201

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員一覧

		平成 30 年度	平成 31 年度
委員長	副 学 長	眞 野 泰	眞 野 泰
委 員	学生センター所長	小 島 修 一	小 島 修 一
委 員	学 長 室 部 長	佐 藤 吉 孝	佐 藤 吉 孝
委 員	法 学 部	元 田 結 花	村 主 道 美
委 員	経 済 学 部	宮 川 努	宮 川 努 石 井 晋 眞 嶋 史 叙
委 員	文 学 部	神 田 龍 身	神 田 龍 身
委 員	理 学 部	清 末 知 宏	清 末 知 宏
委 員	国際社会科学部	ガルシア , クレマンス	山 崎 泉
委 員	法 務 研 究 科	原 恵 美	原 恵 美
委 員	スポーツ・健康科学センター	高 丸 功	高 丸 功
委 員	計算機センター	横 山 悦 郎	申 吉 浩
委 員	外国語教育研究センター	加 藤 耕 義	小 野 泰 教
委 員	教 職 課 程	山 崎 準 二	山 崎 準 二
委 員	学芸員課程委員会	島 尾 新	佐 野 みどり

学習院大学
平成30（2018）年度「授業評価アンケート」報告書

令和元（2019）年9月

編 集 学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

発 行 学習院大学

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL 03(5992)1003

お問合せ先：学長室経営企画課